

な

な【助詞】 1) 主語を示す、が、は (志 鳥、阿、度、尾、南) 2) 動詞について禁止の意を表す (志、鳥、多、上、阿、張、度、北、南) [会話] 2) 終りに ナ な (が) 付く 行くナ 戻るナ 呼び止めんナ (止めるな) 言うて、するナ言うて 禁止の言葉になるし、ええなあ言う時は 褒め言葉ん (に) なるし、はざんなあ言う時や (は) いかん (いけない) 言葉やし (ですし)。そおやんナ言う時は そおでしょお わし (私) の言う通りやろ (でしょう) 言うよおな 言いまわし、¹⁾ おんナ (俺が) 言うた通りやんナ (でしょう) 言うて。²⁾ そやよって (それだから) そいな (そんな) 事すんナ (するな) 言うんやれ (言うのだ) 言う時も有るし。すんなまあ (するな) 言うて まあも付けんのな あ (付けるのです)。すんナ言うとけば (言っておけば) ええもんやけど (よい事なのに) すんなまあ言うて まあも付けて。これ すんのな あ のおも (お前も) して来てな あ れ 言うて な あ れ 言う ん や けど (言うのですが) そやちよいと (それは少し) 丁寧な言葉な (です)。なあ だけ で 納 め と か ん と (終わらずに)。

な【代名詞】 貴方は、お前は [会話] なあ (名前) よ お 知 ら ん と (知らない) あ に い あ に よ ナ (お前) 何処い (へ) 行 く ん ど い (行くのですか) 言うてな、あ に よ ナ 何処のこ お ど お (子供だ) 言うて。

…**な【助詞】** のは 問いの意を表す [用例] あしこい行くナ 誰どい。(あすこに行くのは 誰ですか) (志、桑市、三、四、鈴市、多、上、阿、張、度、伊、北、南、熊)

なあ【名詞】 青野菜 な (菜) の二拍化 (志 (布施田、鶴方、立神、国府)、三、鈴市、鈴郡、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] 野菜の青いのナ言うて、杓子菜やたら (だとか) 白菜やたら 小松菜やたら なあ (だとかです)。

なあ (なわ、なは)【名詞】 縄 (志 (布施田、国府、鶴方、立神、志島、甲賀)、鳥 (国崎)、北) [会話] 縄を ナ ア 言うの、あん た げ (貴家) の納屋で ナ ア の お て な あ (綱って) 言 う ね (言うのです)。

なあ【名詞】 名前 な (名) の二拍化 (志、三、鈴市、鈴郡、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] 名前の事も ナ ア。な あ な (お前の) ナ ア (名前) な っ と 言 う ん ど い (なんと言うので

すか)、な っ と 言 う ナ ア ど い (ですか)。

なあ【代名詞】 お前は (志 (浜島)) [会話] ナ ア そ げ な (そんな) 事 す る よ っ て (から) は ざ ん わ れ (駄目だ)。

なあ【感嘆詞】 疑問 問い直しの時 (鳥 (加茂)) [会話] ナ ア、言うて 人 ん (に) 聞 く 時 ん な あ (に)、なんですか言うて 聞 く の を、な っ と ナ ア 言うて、聞 く の よ お 聞 か ん と (聞かないと)、ナ ア 言うて ふ た く ら め (二度目) 聞 く の ん (に) なん を ナ ア 言 わ ん と (言わずに) ナ ア 言うて。

なあ【感動詞】 人の呼び掛けに答えたり、同意を表したりした時に発する語 対話中に相槌を打ったり、合点のいった時発する語 相手の注意を引こうとして発する語 (北)

…**なあ (な)【接尾語】** ですね です (志、北) [会話] あ ん (あの) ナ ア、そ し て (そうして) ナ ア 言うて、な あ (菜) 売 り ん (に) き て ナ ア 言うて 伊 勢 の な 言 葉 言 う て な、ナ ア よ け (沢山) 使 う の (のです)、それは後 い (へ) 付 ける 言 葉 や し (ですし)。

なあおび【名詞】 縄でする帯 1) 帯の代りを縄ですること 縄帯の訛 2) 湯灌の時にする [会話] 2) ナ ア オ ビ 言うのは 縄で帯 す ん の (するのです) 湯灌する時 ん な あ (に)、わ り い き も ん (悪い着物) 着 と い て (着ておいて) ナ ア オ ビ して し よ お っ た も ん で (して居たので) ナ ア オ ビ すると 湯灌するよ な な あ (ようだ) 言うて。

なあがあい。なあがい【形容詞】 長い (志 (布施田)、鳥 (坂手)) [会話] うまづらはぎは 顔 な (が) ナ ア ガ イ も ん で (ので) うまづらはぎ。

なあがい【名詞】 菜粥 [会話] 七草のこと ナ ア ガ イ。そすと 十五日の か い ば し ら 言うて 豆 と 餅 入 れ て 飯 炊 い て な あ、お つ ご も ん (大晦日に) になると 必 ず、豆 い り よ お っ た も ん で (煎って居たので) その豆を入れて。

なあがいもん【名詞】 蛇類の総称 な が も の 参照 [会話] 蛇も ナ ア ガ イ モ ン 言うて ナ ア ガ イ モ ン な (物が) 出 て こ ん う ち ん (こない間に) せ な は ざ ん わ れ (しなければいけない) 言うて。

なあごお【形容詞】 長く [会話] ナ ア ゴ オ まだ引つ 張 つ て 来 い ま あ (来なさい)、ナ ア ゴ オ ず う っ と (ずっと) 引つ 張 つ て 来 い ま あ 言うてな。長く

まだ もてこい (持って来なさい) 言うのなあ (です)、ナアゴオ引っ張って来いまあ 言うて。いつ迄 喋っとる (ている) 人な (が) 来ると、あの人な (が) 来ると、尻な (が) ナアゴオて おぞげやなあ (嫌だ) 言うて。

なあごおて 長くて なあごお参照

なあつけ【名詞】 命名祝い (鳥 (国崎)、北) [会話]
ナアツケ ひちや (七夜) の事なあ。命名の事。昔や (は) ひちやや (七夜だ) 言うてなあ ナアツケを。七日目に 名前つけるもんで (ので) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。必ず 七日目には ひちや し い お っ た け ど な あ (して居ましたが)。ひちやも 済 ま ん う ち ん (済まないのに) 言うて 七日になると ナアツケや (だ) 言うて。ナアツケと ひちやと 一 緒 や (です)。

なあつけ【名詞】 菜漬け (鳥)

なあとび【名詞】 縄跳び (尾) [会話] 縄跳言うのを ナアトビや (だ) 言うの (のです)、ナアトビしよお や (しましょう) 言うてな。

なあなとおとる 有名で有る

なあのある 有名な (北)

なあはい【名詞】 縄ない

なあう 縄を作る 縄なう

なあぶね (なわぶね、なはぶね)【名詞】 延縄漁をする 船

なあある【名詞】 丸太 足場を組んだり、漁網 其の他物を掛ける木の丸い棒 なる [会話] きい (木) の、網掛けのなる。ナアル こおとかなはざんわれ (買っておかなければ駄目だ) 言うてなあ。若布、干したり、稲 干したりすんのん (するのに)、一志郡へ行くと 切って 山ん (に) ほってあんねけど (有るのだが)、出すのな (が) えらいのおで (大変なので) ただやけど (だが) なっともしよな (なんとも仕方が) 無い言うて、桧のなあ 立派なのおやてや (のです)。ナアル、丸太のなあがい (長い) のおを 今しや (今は) ブイ ですけどな (が) たんぼ (筏) 組むの 皆、ナアル しよおった (して居ました) 真珠筏なあ、皆 ナアルやった (でした)。

なあるい【形容詞】 1) 傾斜がゆるやかである。なるい 参照 2) なにか不足している (度)

なあれ【接尾語】 でしょう 相手に同意を求める語 (志)

なあんも【形容詞】 何も 全く 少しも ひとつも参照 [会話] ナアンモ無かったれ (有りませんでした)、

ナアンモ無いわれ (有りません)、ナアンモあろかれ (有りません) 言うて。ちよいと (少し) 有ると 目糞程しか (より) 残してかざった (いかなかった)。

ない (内)【名詞】 内臓 体の内部 (張) [会話] 内臓 ナイな (が) 弱とて (弱っていて)、金ない (無い) の 弱りやてわれ (だそうだ) 言うて。金な (が) 無いよおん (に) なって来ると 無いの弱りで まあ ぜんなのおて (銭が無くて) 無いの弱りや (だ)。ナイ言うて 内臓の事や (です)。

…ない【接尾語】 1) です ます 文末、又は文節末に 有って念を押ししたり、軽く詠嘆したりする意を表す (志、鳥、尾) 2) 疑問 問いかけの意を表す (志 (布施田)) [会話] ① そおやんナイ (そうでしょう) 惣吉兵衛や (です)。そおやんナイ言うて 惣吉兵衛みたいやなあ (のようだだ) 言うて。やんナイ 言うて 兄よ そこな (が) ええわれ (よろしい) そこな つぼやなあ (だ) 言うて、やんナイ 言うて すぐん (に) やんナイ 言うて 来いおったね (来て居たのです)。そおやんナイ 言うてのは その通りでしょお 言う事やなあ (です)。② くんナイ とか あんナイ とか 言うて 来るでしょお 有るでしょお。ここに あん ナイ 有る言うのん (のに) あん ナイ、ここに 有 っ て お っ て (有るのに) ナイ 言うね (言うのです)。

ないか (ないくわ) (内科)【名詞】 胸、腹部の疾患 [会話] ナイカな (が) わり (悪るい) 言う。腹、下したとか なんとか 言うて、ナイカな (が) わりねえ なあ (悪るいのだ) 言うて、腹の病気も、胸の病気も ナイカ、腹や胸の病気だけで 頭は言わせんな (言いません) ナイカや (だ) 言うてな。頭な (が) わりい て (悪るくて) 胸な (が) わりね (悪るいのだ) 言うてな、婦人科な (が) わり と (悪るいと) 下の病で 言うて 言よおったやんかい (言っ居たでは有りませんか)。

ないか。ないかい 有りませんか [会話] てえねん (丁寧) に 有りませんか 言やええんけど (言えばよいのだが) ナイカイ、ナイカ 言うてなあ。

ないきき (内聞)【名詞】 ないぎき 内々で聞く事 ひそかに聞くこと [会話] なかだち、仲人 とは 違うの (のです)。その結婚な (が) まとまる迄 ナイキキ ん い て (下聞きに行つて) 橋渡しすんの (するので) す。ナイキキ言うな (言うのは) 下調べ、あんまり (あまり) おおつびらに聞かんと (聞かずに) 内緒 で 聞きん (に) 行くのを。

ないく【名詞】 内宮 末尾母音の省略 (三、鈴郡、鈴市、

伊) [会話] げく (外宮)、ナイク。内宮言うて 言わんと (言わずに) ナイクさん、げくさん、げく、ナイク言うてなあ。

ないくせん 無いのに、有りもしないのに [会話] なんも (なにも) ナイクセンおって (居て)、有るふりして えらっそぶって (偉そうにして) 言うてなあ。物も無いし、知恵もナイクセンおって、えらっそぶって、物知りみたよん (のように) なんでも (なにでも) ぶってするにげな (ふるまってする人が) 有るやんかな (有ります)。くせに (のに) 言やええ (言えばよい) 事んなあ (に) ナイクセン 言うてな ぜん (銭) も、ナイクセン 有るふりして言うてな。

ないこ 有りませんか (南) [用例] わいげんこいなもんな ナイク (貴女の家こんなものが有りませんか)。

ないこつちや 無い事だ 稀な事だ [用例] あんな (彼が) 病気するてや (するとは) ナイクコつちや。

ないこと (無い事) 1) 珍しい事 (志 (布施田))
2) 久し振り [会話] 1) ナイクトやなあ (だ) こやまあ (これは) 言うて、ナイクト、出来たなあ 言うて。ものすごお (ものすごく) 上手に出来た、ううた (ああ) ナイクトや (だ) 言うて、ナイクト 上手ん (に) 出来たわれ (出来ました) 失敗ばっか食うとて (ばかりしていて) たまに、ええのが (まれにいいのが) 出来ると、ナイクト じっばん出来たれ (立派に出来ました) 言うて。珍しい事に 言う意味や (です)。2) ナイクト 出て来たんなあ (来ましたなあ) 言うて、たまに (時たま、久し振りに) 来ると、ナイクトやなあ あんな (貴方が) 来るわてや (来るとは) 言うて。

ないことなる。ないごとなる なくなる (志 (浜島、志島、甲賀)) [会話] なんも (何にも少しも) 無いよおん (ように) なってたよお (なってしまった) 言うて、なんやかや、つこたたり (色々使ってしまったり)、まけたたり (まけてしまったり) すると ナイクトナル言うの (のです)、なんもかも (何も彼も) ナイクトナッテタレ (てしまった) 言う時もあるし、なんも無かったよお (何も有りません) 言うて。

ないことや。ないことやなあ 珍しい事だ 久し振りだ ないこと参照

ないざ 【名詞】 なぎさ 渚 汀 海、湖などの波の打ち寄せる所 波打ち際 みぎわ (志 (神明、立神)) [会話] 浜のナイザ。波打ち際。ナイザ迄 どしゃげて来て (乗上げて来て) 言うて。波な (が) しゃあしゃあするやんない (でしょう)。そすと (そうする

と) ナイザ迄 もおな (藻が) 寄って来とる (来ている) とか。沖の船な (が) よじよ (四丈・地名) に やりおったやんかい (乗り上げたで有りませんか)。昔や (は) 金な (が) 寄って来とて (来ている) ナイザカネな (が) よお拾いおったんよお (よく拾っていました) ぜん (銭) を。“和具の よじよの島 金食い島よ そおよ 親船 呼び止める” 言うて。

ないざがね 【名詞】 汀に打ち寄せられた金銭 船が難破して船に有った金銭が渚に打ち寄せられた物。ないざ参照

ないざもと 【名詞】 波打ち際 ないざに同じ (志) [会話] ナイザモト 言うて 海辺の渚の事、浜のすそ (裾) の事なあ (です)。ナイザモトい迄 潮な (が) にって来とんのん (満ちて来ているのに) のら (お前達) そげん (そんなに) して言うてな、ナイザモトや (だ) 言う。波打ちぎわをなあ、ナイザモトい (へ) 迄 まあ 潮な (が) 来とられ (来ている) 言うてなあ。もお (藻) 干してもなあ、ナイザモト 干したけど (が) じっきん、しゃ (すぐに、それ) 潮な (が) くんねどお (満ちて来るのだ) 言うてな。ナイザモト干すと いきなり (すぐに) 干されてええんけど (よいのだが) じっきん、にって (すぐに満ちて) 来ると あげな (なければ) はざんもんで (いけない) ので。

ないしょ 【名詞】 1) 表向きにしないで内々にしておく事 内緒 ないしょ ないしょうの約 (広辞苑)
2) 家計のやりくり [会話] 1) ナイショ。人ん (に) 言われん話、ナイショ 言うて、耳の もとい、いてなあ (近くに行つて)、ナイショ の話して すかん なあ (嫌だ) あや (彼は) 言うて。

ないしょがね 【名詞】 へそ繰り (上、阿、張、名) [会話] 今し (今) で言うて へそくりの事なあ (です)。こやまあ (これは) 内緒ん (に) しとけよお (しておきなさい) 言うてなあ、言わんと (言わずに) まあ とつとけよお (かくしておけ) 言うのなあ (です)。こやまあ (これは) なんしよんしとけよお 言うて ナイショガネや (です)。

ないしょごと 【名詞】 隠し事 主のいない間にする奢った飲食 [会話] ナイショゴト して まあ すかんなあ (嫌だ) 言うてな。人ん (に) 言うても ええよおな (よいような) 事でもなあ、なんしよみたよん (内緒のように) する人な (が) 有つてなあ、おおた、あいな (あんな) 事 なんしよんせんてて (内緒にしながら) 言う時な (が) 有るんなあ (有るのです)。

へえ(屁)でも無いよおな事、なんしょん してなあ。

ないしょのたのみ 人に知られたくない依頼事

ないしょのもの【名詞】 1) 内緒の物 どぶろく 2) 海老、鮑などの規格以下の物 3) 禁漁期間中の海老、鮑

ないしょばなし【名詞】 私語 ひそひそ話 隠してする話 (志 (片田、志島、畔名、甲賀、国府、浜島)、鳥(坂手、桃取)、張、名) [会話] こそこそと、人ん(に)聞えんよんなあ (ように)、耳もとい (耳近くに) いてすんのをなあ (行ってするのを)、ナイショバナシ。

ないしょばなしする ささやく 人に聞こえないようにする話し ひそひそばなしをする(志) [会話] ナイショバナシスル言うの (のは) ひそひそ話。耳の元いいて (近くに行つて) 言うたり、ちっさい (小さい) 声で言うと、ナイショバナシスルや (だ) 言うて。

ないしょもん【名詞】 1) 鮑 海老の規格以下のもの(志) 2) 鮑 海老の禁漁期間中のもの [会話] 1) ナイショモン 言うてなあ、鮑の寸足らず (規格以下) 取るやんない (でしょう) そすとなあ (すると)、ナイショモン 取つて言うてなあ、ナンショモンや (だ) 言うの (のです)。寸足らずや 言うても 獲る時は おつき見えんの、眼鏡で見るとなあ、今しは (今は) よけやろ (更にでしょう) レンズな (が) 入つとるよつてなあ (ているから)、おつきい (大きく) 見える よつてんなあ (から) 獲て (獲つて) 来るやろん (でしょう) そやけど (しかし) 測つ といて (ておいて) 皆ほり込むけどなあ (が)。

ないしろ (なわしろ、なはしろ)【名詞】 苗代 水に浸しておいた籾種をまいて稲の苗を育てる水田(志) [会話] 苗代 苗場の事 ナイシロや (と) 言うの、ナイシロばや (と) 言うて。ナイシロも こしやえなはざんわれ (作らなければ駄目だ) 言うて、たあ (田) の ナイシロ 苗場の事。苗場言うの 苗を作るばあ (場) の事、苗を作るとこ (所) をなあ たあ (田) 植えんのでも (植えるのでも) まあ ひととこい (一か所に) 播い といて (ておいて) そんな (それが) おつきなつたとこ (大きくはつた時) 植えんの (植えるのを) それ ナイシロ。苗の代やよつて (だから) ナイシロ 言うね (言うのです)。芋苗おろすと こ (入れる所) 芋苗床や (だ) 言うて。田は ナイシロ 言うの (のです)。

ないそである 見栄を張る(熊) [会話] なんものおておつて (なにも無くて居て) 有るふりしてなあ、おれ

げん (俺家に) こいなもん (こんな物) あられ (有る)、あれも あられ 言うたりなあ、ぜん (銭) も のおておつて 有るふりして、借金して こおたりすんのなあ (買つたりするのです) ナイソデフツテマア 言うてなあ。ナイソデフツテ はんこやれ (袖なしだ) 言うて はんこの袖 ぶつてまあ言うて。

ないとこじまり【名詞】 生活出来ない程金の無い様(志、鳥)

ないとる 泣いて居る 嘆いて居る 窮状を訴える(志(布施田))

ないない【副詞】 1) 内内 内密に 内緒に 他に漏らさない(志(布施田)) 2) しまつておく 隠す 幼児語(尾、熊)

ないないしとけ しまつて置きなさい 幼児語

ないないする 片付ける、しまう

ないねない ないのだ ありません [会話] 死んでた (でいった) おりん (時に) いわいもち (位牌持ち) も ナイネナイ 言うて。

ないねなし 無い 有りません [会話] なんも (少しも) 有りません言うのを ナイネナシ なあ言うて。

ないのよわり【名詞】 1) 病気 体の弱つた状態 内弱り(志(布施田)、員) 2) 金の無い事 無弱り(員) [会話] 2) 金銭 ナイノヨワリ、1) 衰弱してまあ、ひよろひよろみたよんしとるとなあ (のようになっていると)、あや (彼は) まあ ナイノヨワリや かけて (だと見えて) あやれ (あれ) ひよろひよろしとられ (している) 痩せ乾いて 言うてなあ、2) 金の無い人は 金銭 ナイノヨワリ 言うし、1) ほんどん (本当に) わりのおはなあ (悪るいのは)、ナイノヨワリ で あ の ひた (人は) どいらい (大変) 弱つとんなあ (ている) 言うてな。今しやつたら (今だったら) 衰弱して あやれ (あれ) 言うのをなあ。ナイノヨワリや (だ) 言うて そすと 玉子やどけも (なども) どいらい (大変) 高価なもんみたよん (物ののように) ナイノヨワリやよつて (だから) はよ (早く) 此の玉子飲めえ (飲みなさい) 言うたり、家ん (に) こおとんのな (飼っているのが) ひるとなあ (産むと)、はよ 此れ飲めえ 体な (が) 弱つとんな (ているのは) ええ んどお (よいのだ) 言うて、かなもんみたよん (宝物のように) 言うて、玉子一つ飲ますの んなあ (に)。遠足い (に) 行くや (のだ) 言うても、玉子やどけ (など) 炊いて もてく (持つて行く) 言うな (のは) よくよくぜえたく (贅沢) な家や (です)、今しやつたら (今だったら) 玉子みたよなもん (のような

物) 言うとんね (言っているのです)。わしらな (私達が) 子供のじぶんにや (頃にわ) その玉子な (が) どいらい (大変) 高価で、なかなか びんぼにん (貧乏人) の 口や (には) 入らせんね (入らないのです)。

ないば【名詞】 浜に近く藻などが波に打ち寄せられて浮いているところ (志 (布施田)、鳥、北) [会話] もおや (藻とか) 荒布な (が) ナイバや (に) だんどりしとられ (集まってしている) 言うてなあ。よけ (沢山) 寄って来ると ナイバん (に) なって来た言うてなあ。ナイバ言うて はえん (梅雨に) なって来るとなあ、沖い (へ) 行くと もおな (藻が) 皆 ナイバん (に) なってしとる (しています)。流れてくんのなあ (来るのです)、それ ナイバな (が) よけ (沢山) 来てまあ言うてな。浮藻 積みん行こや (に行きましょう) 言うて、こんだ (今度は) それを積みん (に) 行きおつた (行って居ました)。しやなげて (すくい上げて) こやしんすんのん (肥料にするのに)。打ち上げたのおやなしん (のでなくて) 浮いとんの (ているのです)、抜けたのおな (のが) 潮のより (ながれ) で ひととこい (一ヶ所に) 寄つとんねやんかい (集まっているのです) それを ナイバ言うの (のです)。

ないば【名詞】 苗場、苗を育てる所 (志 (立神))

ないぶん (内分)【名詞】 表沙汰にしない事

ないもしえん。ないもせん【形容詞】 ありもしない。有るはずがない。持っていない。少ない。ない。無い。亡い。存在しない。事柄が起こらない。行われない。所有していない。せん。しない。否定の語 (度、南、熊) [会話] ナイモセン ぜん (錢、金錢) 皆 取られたたれ (取られてしまった)、つこたたれ (使ってしまった) とか。ぜん くれ言うて 子供らな (達が) 言うて来て、ナイモセン ぜん (錢) くれ言うて 怒りおつた (怒って居ました)。ナイモセンもん (物) を ちやちやむちゃくにつこて (目茶苦茶使つて) 言うて。子供らな (達が) なんやかや (何か) くれ言うて、ナイモセンもん (もの) そげんよけ (そんなに沢山) ばあばあすんな (するな) 言うて。たしないもん (少ない物) ナイモセンもん (無い物) 言うて。ばあばあ言うのは 派手に使う 派手にすんな (するな) ざつぱんすんな (雑把にするな) 言うて。ナイモセン くセん そげん (そんなに) 派手な事して そげん (そんなに) ざらざらつこて (使つて) とか。ナイモセンくセん (に) 言うて のおておつて (無いの

に) 派手な事すとか 言う時ん (に) 使うのなあ、ナイモセンくセん 派手な事して びんぼはでなねよつて (貧乏でありながら見栄を張るのだから)。

ないもせんくせん 持っていないのに 有りもしないのに ないもせん参照

ないもせんもん 少ない物。貴重なもの。たしないもん 参照

ないもん 1) 無い物 存在しない物 2) 有りません [会話] ② なんも (なにも) ナイモんなあ、やろ言うたてて (あげよう言つても) のらん (お前達に) やりたいけど (あげたいが) なんも ナイモん言うて。一つも持つとらせん (持っていない)。ぜん (錢) も一錢も無いしなあ言うてなあ。なんかお (なに買おう) 言うたてて (言つても) ぜん、一錢も無いしなあ しやぶからせん (錆の出た通用しない錢) も無いしなあ 言よおつたなあ。

ないもんくい【名詞】 無い物程食べたくなる人 (志 (布施田))

ないやろ 無いだろう (伊賀地方) [用例] 一億もぜん (錢) 持つとるうちゃ (持って居る家は) よけ (沢山) ナイヤロ。

ないやんかあ。ないやんかな (女性語) ないでないか

ないやんない 無いでしょう [用例] のげん (お前の家)に ダイモンド、ナイヤンナイ。

ないよおんする 1) 失くする 紛失する 2) 使い果す [会話] ② なんも (何も) 無いよん 使こたて (使ってしまった)、ナイヨンスンネナイ (するのだ)。あげんつこたて (あんなに使ってしまった) なんも (少しも) ナイヨンシタンド (してしまうぞ) 言うてな。そげん (そんなに) ばあばあ使こたら (使ったら) なんも、ナイヨンナツテクド (て行くぞ) 言うたりなあ、ぜん (錢) 使かうの (のを) どいらい おとしがよおつた (大変怖がって居ました)。男の人らな (が) よけなあ (沢山) おなご (女) 遊びん (に) いたり (行ったり)、酒 飲んだりすると しんしや (身上は) ほらやれ (穴だ) 言うて、みな使こたて (全部使ってしまった) なんも ナイヨンナツテクノ (なっていくのです)。いしずや (礎は) ひなたぶくろやれ (日が当たっている) あの家や (は) あにんこな (兄が) よけ飲むので言うてなあ。その家 売つたて (売ってしまった) 礎だけ残る言うのをな 礎や ひなたぶくろやれ言うて。

ないよおんなる 1) 失くなる 2) 亡くなる [用例] ② 爺も婆も ナイヨンナツテ おや (私は) いにな

おりたれ (責任を果たした)。
ないよんなつてく 無くなる
ないよんなる 失くなる (員)
ないん 無い (志、鳥、亀、安、松、伊、北、南)
ないんええ 無いのですか [用例] 銭も ひとつも
(少しも) ナインエエ。
ないんか 1) ありませんか 2) …ではないか (北)
[会話] 1) ぜんな (銭が) 一銭もナインカてや (言え
ば) 一銭もあるかれ (無い)、ないんてや (無いので
す) 言うて。まあ、一銭も しゃぶからもないんてや
(びた銭も有りません) 言うてな。無いのか言うのを
ナインカ言うて。
ないんてや 有りません 無いのです。ないんか参照
ないんなし 無いから
ないんや 無いのだ
ないんやかなあ 無いのだろうか [会話] こつとりし
とんない (静かにしている) なつとも (なんとも) ナ
インヤカナア。
ないんやれ 無いのだ [会話] なんも (なにも) 無い
となあ、なんも (なにも) ナインヤレ おらげや (俺
の家は) 言うてなあ。
ないんやんか、ないんやんかあ 無いのです [会話]
なんも (全く)、ナインヤンカア言うてな、無いとな
あ、おらげや (俺家は) なんも (なにも) ナインヤン
カア、なんも無いんやれ (なにも無いのだ)、なんも
無いんどお (無いのだ) 言うてなあ。
ないんよお 有りません
なう (なふ) (綱) 【他ワ五】縫う 縄を編む よりを掛
けて多くの筋を混ぜ合す のおとも (志、三、伊)
[会話] なあ (縄) ナウ、きもん (着物) も ナウ
(縫う)、ふくろべのおとけ (破れ・ほころび縫って
おけ)。きもんも ふくろべとると (破れていると)
ふくろべも、のおとけまあ (縫っておけ) 言うて。ナ
ウ言うて 着るもん (物) なら 縫うとけ言うと え
えんやけど (よいのだが)、のおとけ言うの (言うの
です)。ふくろべも なあとけ。なあ (縄) でも な
わなはざんわれ (なわなければいけません) 山へ 行
くのん (のに)、かい山 (薪になる木を買う事)、やま
なあ (山へ持って行く縄) なわんとおんのん (綱わず
にいるのに)。
なえ 【副詞】何故 (志) [会話] 此れも ナエしとかせ
んど (しておかないのか)。
なえええ 【副詞】何故に なんやええ え 感嘆 驚い
たり疑問に思ったりした時に発する語 間投助詞 文

末に用いられる 質問、反問の意を強める 念を押し
たり語気を改めたりする気持ちを添える なえ 何故
に 何が理由で どうして [会話] おや (俺は) 親
やどお (だ)、親なら ナエエエ。親に なんやかや
言うと 親な (が) おや (俺は) 親やどお 言うと、
子な (が) ナエエエ言うて なんでやな (どうしてで
すか) 言う事やろなあ (でしょう)、ナエエエ言うな
(言うのは)。親なら どおした言う事や (です)。自
分が思わん (思わない) 事 言われると なんやええ
(なんだと) 言うよおな気持ちで ナエエエ。

なええや 何故に どおして (志 (布施田))

なえしろ (なへしろ) 【名詞】苗代 (志) [会話] ナエ
シロ。たあ (田) 植えんのん (植えるのに) ナエシロ、
ナエシロ言わんと (言わずに) なんしろや (です)。
種、播いといて (ておいて) それ取って 植えん
(る) のをな、なんしろや (だ) 言うてな、苗代言わ
んと なんしろや (です) なんしろだも (苗代田も)
こさえんとおて (作らずに居て) 言うてな。

なえどこ (なへどこ) (苗床) 【名詞】樹木、野菜、花な
どの苗を作る所、苗代田 (志、鳥 (答志)、桑郡) [会
話] 苗場 ナエドコ言うて、苗おろしといて (種播
いて) こんだ (今度は) こつちやい (こちらに) 定植
するのおを (のを)、おろすとこ (作る所) 苗場。そ
こで 育てといて (育てておいて) こんだ (今度は)
定植するとか 移植するとか。

なえば (苗場) 【名詞】水稻の苗を仕立てるところから
苗代 (志 (船越、浜島)、桑郡、一、松、多、阿、
伊) [会話] 苗代 ナエバの事を なんしろや (だ)
言うて。

なえもん 【名詞】花木の苗 野菜 [会話] ナエモンで
も あんまりよけ (あまり沢山) あつつう (厚く) し
てあると あんまり (あまり) こんどられ (詰んでい
る)。

なえや 何故ですか

なえる (萎) 【自ア下一】弱る 衰弱する しおれる

なえかと (猶) 【副詞】なえさら 更に 一層 なえそ
の上に (志 (布施田)) [会話] じよおばらな (いつ
もの腹が) おつきいねよつてん (大きいのだから) 孕
むと ナオカト おつきいもんで (大きいので) あげ
な (あんな) 腹しとんねえやれ (しているのだ)。

なえし (なほし) (直) 【名詞】1) 味醂 2) 修理
(度)

なえしとく (なほしとく) 1) 元通りにする 修理して
おく 2) 元の位置に置く 3) 置いておく

なおしとけ (なほしとけ) 1) 修理しておけ 2) 置いておけ 3) 片付けておけ

なおしもん (なほしもん) (直物) 【名詞】 修理を必要とするもの つくろいもの [会話] ナオシモン して貰らうのん (に) 言うて。大工でも、しゃかん (左官) でも わりとこ (悪るい所) 直して貰らうのなあ、ナオシモン。なおし事すんな (するのは) きろてなあ (嫌らって) 言うてなあ。鍋でも 皆 いっかけ屋ん (に) たので (頼んで) してもらおった (もらっていました)。そして きりもん (着物) の破れ そそくん (修理する) のもなあ、ナオシモン言うし、なんでも (何でも) 古いもん (物) を直すのおを (のを) ナオシモンや (です)。

なおす (なほす) (直) 【他サ五】 1) しまう 収納する 保存する (志、鳥、桑市、員、四、鈴郡、鈴市、亀、阿、津、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、熊) 2) 片付ける 整頓する (志 (鶴方、神明、志島)、久、阿、張、名、北、尾、南、熊) 3) 位置を変える 4) 地位に就ける 据える 5) 置く 6) 修理する [会話] 6) 何か うちやれると (壊れていると) ナオシトカナはざんわれ (直しておかなければいけない) 言うし、きもん (着物) でも 破れとると (壊れていると) つんで (継いで) 直さなはざんわれ (直さなければいけない) 言うて。2) 片付けたり 5) 棚むいて (に) 置いとくの (置いておくのを) ナオス。1) 戸棚い (に) ナオシトケヨオ (直しておけ) 言うて、徳利でも そこへ ナオシトケ (置いておけ) かえってくやんかあ (倒れていくではないか) 言うて、うちやれ (壊れた) の 直しばかやなしん (ばかりでなく) そこへ ナオシトイテタ (直して行った) 言うて、置いといた (置いておいた) 言うのを ナオス言うなあ。

なおってくど 治って行くぞ 治ります [会話] なんやかや (いろいろ) を、つけると、それつけると ナオツケクド言うて。

なおってくれ。なおってくれえ 着座して下さい

なおとられ 1) 治って居る 2) 座って居る

なおとれ 座って居る

なおと (なほと) (猶) 【副詞】 更に 一層 なおさら なおのこと [会話] ナオト、わりなつてくね (悪くなって行くのだ) そいな (そんな) 事したら言うてな、そいな 事したら ナオト、しもたんねない (悪くするのだ)、なおかと わりしたんね (悪くしてしまうのだ) 言うてなあ。そげん (そんなに) まあ、なぶ

つてばつかおつたら (ばかり居たら) ナオト わりなつてくど (悪くなって行くぞ) 言うてな、裁縫でも 下手な事しとて (して) それを ほどいたり、縫うたりしとるやんない (しているでしょう)、ナオト わりなつてくど (て行くぞ) そいな (そんな) 事しとたら (していたら) 言うてな ナオト。

なおとか (なほとか) (猶) 【副詞】 更に 一層 なおさら なおかと同じ [会話] なおかと言う時と ナオトカ言うて、一緒の意味やけどなあ (ですが)。

なおらい (直会) 【名詞】 神事の時、神前に奉げた物をおろした物 (志 (布施田)) [会話] のおらいの事を、ナオライ言うね (言うのです)。神さんの供えたもん (物) を なおらい、言うやんかい (言います)。

なおります 当然の様に座って居る。真面目な顔をして正座して居る。なおる参照

なおる (なおる) 【自ラ五】 1) 座る 正座する (三、鈴市、津) 2) 宴席などで着座する 3) 居直る 4) 亡くなる [会話] 1) きちんと座るのを ナオル言うし、横むかい (座り) しとんのおを (しているのを) 座り直したとか、あぐらかいとんのん (かいているのに) 正座すんの (するの) 座りナオス。3) 座つとて (座っていて) いごかんとおると (動かずにいると) 居直つとる (ている) 言うて。2) 宴会やなんやで (何かで) 自分の席に座る時ん (に) まあ そこい (に) ナオツケれるかい (下さい) ナオツケレ (下さい) 言う時もあるなあ (有ります)。そこらへナオレ言うて 座ってくれるかい 言うのなあ (のを) そこへナオツイテくれえ (坐っていて下さい) 言うて。座つとるのも (ているのも) ナオル。4) 死んでくのも (で行くのも)、ナオル。ま、じつきん (すぐに) ほとくさん (佛壇) え ナオンド言うて。なおりますしとんない (ている) 言うて、座つとるとなあ (ていると)、まあ あやれ (あれ) 座敷の真ん中い (へ) 行て なおりますしとんね (ているのだ) 言うて、正座して ちゃんとしとんのを (しているのを) なおりますしとられ (ている) 言うてなあ。

なおんし 【名詞】 履き物を直して歩く大道職人 なおし (志 (布施田)) [会話] 革のせきだ (雪駄) を直して来いおつたの (来て居たのです)。下駄はしやせんけど (しないが)、せきだや じょおり (草履) の切れたのおを (のを)、かあやもんで (革なので) 直してもらいおつたね (居たのです)。直す人 ナオンシ言うて せきだと、あさぶら、じょおり だけなあ 直しおつたの (直して居たのです)。なおん なおん

言うて 肩にきい(木)の入れ箱掛けて その 入れ箱を 尻に敷いて どすわって(座って)道端で直しおった(直して居ました)。

なおんど 治ります [会話] あしこい(あすこへ) 参ってくる、病気もナオンド言うて。

なか(中)(仲)【名詞】仲間 間柄 [会話] “心やすさに 寝泊まりしたや(したら)深いナカやと(だと)人が言う”言う歌な(が) 有るやんかい(有ります)。仲間とか 仲間同志 間柄 夫婦のあいだとか 朋輩のナカやとか(だとか) お前と私は臭いナカ言うて 臭いナカも有るし(有るし)。

ながあい【形容詞】長い(志、桑市) [会話] ナガイイ糸 引っ張って いたれ(行きました) 言うてなあ、火の玉な(が) ナガイイ おお(尾)を引っ張ってたれ(ていった) 言うてなあ。

なかあし(中足)【名詞】陰茎(志(布施田)) [会話] ナカアシヤ(は) 男の大事のもん(物)、さんぼあし(三本足)。時計屋な(が) ナカアシな(が)、どいろおて(大きくて)、その人な(が) 風呂い行くと、足かたっぽ(片一方) 突っ込むと じよぼん言うて、ナカアシ突っ込むと どぼん言うて じよぼん どぼん じよぼん言うて 大きな事言よおったなあ(言っていました)。

ながあめ(長雨)【名詞】日数多く降り続く雨 雨の日の長く続く事

ながい(長居)【名詞】同じ場所に長くとどまっていること 長い事座を去らないこと 長座 長尻 [会話] 其処んおって(に居て) 長い事おんの(居るのを) あの人な(が) 来ると、ナガイすんで(するので) 嫌いやわなあ(だ) 言うてな。尻ながで、尻な(が) なあごおて(長くて) 言うてなあ。いつ迄 おる(居る) 人を、尻な(が) ながあい言うてなあ、おおたまあ はよ(早く) 行きやええのん(行けばよいのに) おもても(思っても) なかなか行かんでなあ(行かなくて)。

ながい【名詞】菜粥(安、度) [会話] なあ(菜)を入れた お粥さん、ナガイ言うて。七日のナガイやたら(だとか) ちやがいやたら(茶粥だとか) 言うてな、ぐわいなわり(様子が悪るい)となあ おかい(お粥) 炊いてくれ(下さい) 言うて、ちよいと(少し) 頭な(が) 痛い言うて、おかい 炊いたろか(てやろうか) 言うてなあ。

ながいき(長生)【名詞】長く生きる事 長命 長寿

ながいきのそん【名詞】長命の血統

ながいこと【名詞】長い間 久しく ながい ある時点からある時点までの時間的な隔たりが大きい [会話] ナガイコト おらんかった(居なかった)とか ナガイコト 出てこだったのお(出てこなかったですね)とか言うて 久し振りにおおた(会った)時の 挨拶の言葉や(です)。

ながいび(中指)【名詞】五本の指の真ん中にある指(志、鳥、員、鈴市、鈴郡、一、多、伊、北、尾、南、熊) [会話] 中指言うの(のを)、ナカイビ、指言うの(のを) いびや(です) ひとさしいび、こやいび(小指)、おやいび(親指) 言うてなあ。

ながいもん【名詞】蛇

ながいり【名詞】長湯(南)

なかいれ(中入)【名詞】1) 中休み なかいり 相撲 芝居、寄席などで暫く休憩する事、転じて休憩 2) 間食 [会話] 1) ナカイレ言うて 芝居のナカイレも有るしなあ(有ります)、仕事してて(していて) ちよいと(少し) いっぶくしよおや(休憩しましょう) 言う時もあるし 中休み言う事を ナカイレ。まあいっぶく休もやんかい(休みましょう) 言う人も有るし、ナカイレ しよおやんかい(しましょう) 言う人もあるし(あります)。2) 仕事のナカイレの時にや(には) 煙草吸うたり(吸ったり) ちやあ(茶) 飲んだり ちやあ(茶) 飲む言う時や(は) ちやあ 飲むだけやなしん(でなく) ちよいとした(少しの) かしん(お菓子) つまんだり。お菓子も ある時もあるし、無い時もあるし、それこそ きんこや(芋の煮切干しです)。きんこやたら(だとか) 豆やたら 昔やなあ(は) きんこや(とか) だんがられ(芋団子の干したもの) 出して、つもだり(つまんだり)、ちよいとええと(少しよいと) あられ混ぜり(混ぜりの) の そら豆やとかやんない(だとかでしょう)。だれや ぜまりの めまとの おこを くれて わよ(お前さん) 言うて だれや ぜまりの(まぜりの) めまと(とまめ) の おこ言うのは あられ混ぜりの とまめ(蚕豆) くれた言うのを 反対言葉や(です)。つもの言うな(言うのは) つまみ食いする時なあ(です)。ちよいちよい(少し) つまむ時 おやつに だんがられ つまんで 食うとか 茶 飲みもて(飲みながら)、酒やビールのつまみ言うよおなもんや(ものです)。お茶の つまみや(です)。あられまぜりの そら豆、それや(それとか) きんこや(とか) だんがられや(とか) そいなもんやわい(そんなものです) 昔のおやつ。ナカイレ言うたらなあ。お菓子やたら

(だとか) ジュースやてやら そいな (そんな) 派手な事は 無いねよってん (のだから)、有るもん(物)で すましょったの (すませて居たのです)。この時ん(に) ゆざけみたいん (三時頃の軽食のように) ちよいと (少し) 腹い (に) 入れとく (入れておく) 言うのは ゆざけ食おや (食べましょう) 言うて、箸 持って 食う時は ゆざけしよおや (しましよ) 言うて、ゆざけを どんげんも (どうしても) 食いおったなあ (食べて居ました) 百姓する家は、ゆざけ まあ 日な (が) 暮れてくのん (いくのに) 言うても、ゆざけ 食う人ら (達) おったなあ (居ました)。 そんななあ (それが) よさり (夜) いつまでも しとるもんで (しているの) ゆうだこくと (夕方遅くなると) 腹減って来るやんな (でしょう)。 そやもんで (それだから) ゆざけ。朝は 朝ぼち 言うて 朝飯食う前に 朝ぼちや (だ) 言うて じよおし (漁師) の人ら (達) 朝ぼち 炊いとかなはざん (炊いておかなければ駄目だ) 言いおった (言っていました)。 朝ぼちな (が) のおて (無くて) 言うて 沖 行くまで 飯 持って 飯 炊くまで 朝ぼちも 食うて言うて、朝飯までに ちよいと食いおったなあ (少し食べました)。朝ぼち言うのは 朝 起きて すぐ に 食べて そして又 今度、仕事に出てく (行く) 時 朝飯食う時も あったなあ (有りました)。

なかおち (中落) 【名詞】 魚を三枚におろした時の中骨の部分

ながおり 【名詞】 同じ場所に長くどどまっている事 長居 [会話] ナガオリして言うて、話し込んで (込んでいて) あの話 この話しとるとなあ (していると)。 長尻言うね (言うのです)。いつまで 話しとると あの人な (が) 来ると 尻な (が) なあごおて、おぞげやなあ (長くていやだな) 言うて いつまでも いろんな事 用事以外の事 喋って おると (居ると) 尻な (が) なあごおて 言うて。ナガオリも ながじり も 一緒の事。 ながじり しとる (している) 人な (が) 来ると 仕事な (が) 出来んで (出来なくて)、用事も無いのん (のに) べたべた べたべた いろんな事 言うて おって (居て)、行きやええのん (行けばいいのに) 思ても行かせんし (思っても行かないし)、行け言われやせんし (言えないし) もしましやしとて (して) する時な (が) あるのなあ (有ります)。 行かせんと (行かないと) 気な (が) もしましやして来て ううた (ああ) おとっしや (いやだ) 箒立てたるかいなあ (立ててやろうか)。

なかかづき (中潜) 【名詞】 朝、昼、夕方の三回、海女作業をする昼の作業時間 (志) [会話] ひとかづき 言うのは、一回 入んのを (入るのを) 朝かづきで、昼は ナカカズキ、夕方は ゆかづき、船から降りて あがる までの あい (間) を ひとかづき。

なかくど 【名詞】 家の中に有る竈

ながさ 長い表現 あ顔のナガサみよまい

なかさせん 泣かさない

ながし (流) 【名詞】 台所 台所や井戸端などに設けた、物を洗ったり洗い水を捨てたりする場所 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、桑郡、鈴郡、一、飯、上、張、名、南、熊) [会話] 台所の すがき (糞) の事 ナガシ 水ざあざあ流したるもんで (流してやるので) ナガシ 言うんかいなあ (言うのでしょうか)。

…**ながし** 続けて居る (志 (布施田))

ながし 【名詞】 釣糸、船を潮流にまかせてする漁法 [会話] 鱈かけ、ナガシな (が) いとられ (行っている) 言うてな、鈴 付けとて (ていて) さわ (竿) の はない (先へ)、そして 鱈な (が) 掛るとなあ ちんちん 言うて 鈴な (が) なんね (鳴るのです)。

ながしこむ (流込) 【他マ五】 御飯に湯茶、汁物をかけて急いで食べる (南)

なかしたた。なかしたたね 泣かせてしまった

なかしたんど 泣かせたのだ

なかしたんどお 1) 泣かせたのだ 2) 泣かせてやるぞ

ながしづり (流釣) 【名詞】 餌を潮流に乗せて釣る釣り方 船も潮流にまかせていることもある

ながしば (流場) 【名詞】 1) 台所などで洗い物を洗ったり、洗い水を流したりするところ (阿、熊) 2) 浴室などで体を洗い流す所 [会話] 1) なんやかや (いろいろ) 洗濯して わり (悪るい) 水 ほるとこなあ (捨てる所) ナガシバな、のおて (が無くて) 言うてな、水 流すとこな (所が) 無いとなあ ナガシバな のおて 言うて。2) 風呂で 体を洗うと こ (所) を ナガシバ、風呂の ナガシバな (が) せぼおてなあ (狭くて) あの家や (は) 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。

ながじばん 【名詞】 長襦袢 じゅばん の訛

ながしもと (流元) 【名詞】 台所などの流し (桑市、飯、松、上、名、南)

ながしもん 【名詞】 1) 料理に使用した器具や食器など流して洗う物 2) 洗濯物、特に病人、死者の衣服

[会話] 2) ナガシモンしといて (しておいて) 来い、海い (へ) 流しん (に) 行くのをなあ ナガシモンし といてこおや (しておいて来ましょう) 言うてなあ、なんやかや (いろいろ) 洗いん (に) 行くのも 言いお った (言っていました)。年寄りな (が) 寝とると (寝ていると) 汚すやんない (でしよう)、しも (大小便) をなあ、そいなもん (そんな物) 洗いん (に) 行くのもなあ ナガシモンしといてこな (しておいて来なければ) 言よおった (言っていました)、洗いん (に) 行くのを。1) 食器や (とか) なんや (いろいろ) 洗うのも ナガシモン ながしい (へ) 行て 洗 ろて (洗って) 来い言うてな。

なかじょく【名詞】 膳の中央にある小さな鉢 [会話] ナカジョク言うな (言うのは) ちっちゃあいのおを (小さいのを)、膳の 真ん中い (に) ちょぼんと入れて あいなのおを (あのようなものを) ナカジョク。

ながしょんべ【名詞】 排尿するのに尿量が多く時間が長くなること [会話] 酒飲みや だあだあと よけ (沢山) 小便な (が) 出るやんかな (出ます) よけ 飲んどる (でいる) 人は ナガションべして。

ながじり(長尻)【名詞】 いつまでも話し込むなどして長居する人 ながおり参照 (志 (浜島)) [会話] その家い (に) 座り込んで ナガジリ (長くて) おぞげ やれ (嫌だ) 言うて、陰で 箒 立てやあるいてなあ (立てて居て) 団扇で あおぎやあるいて (煽いで)。

ながじりかく 長居する

なかす(泣)【他サ五】 苛める 泣くようにする (阿、張、名、南) [会話] 子 ナカス言うて。泣かされて来てまあ言うてなあ。ほん (本当に) おらげのかあ (俺家の子は) じょつく (いつも) あれん (彼に) ナカサレテくんね (来るのだ)、あの子な (が) おっちやくよも (横着者) で言うてなあ。

ながす(流す)【他サ五】 1) 放っておく 聞きナガス 無いようにする 2) 潮流にまかせる 3) 洗う 体ナガス 風呂でナガス [会話] 2) 舟 ナガス言うのもあるしなあ (あります)。櫓 こんで (漕いで) ころで ナガシとろか (て居ようか) 言う時もあるし。質屋な (が) ナガスのおも (のもの) あるしなあ。しよ おるさん (精霊さま・仏様) ナガシに行くのもあるし。1) 放つとく (放っておく) 言うのも ナガス言うの。2) おこり舟 ナガス 言うて、おこり (マラリヤ) ふるうと みいくら (三度) さぶげ (悪寒) で おこつてきい (来て) 明日目 (翌日) も おこると 三つふるたよつて (震たから) 落としたれ (てやれ) 言う

て 麦藁で 舟 こさえて (作って) 人型みたいなの (のを) 尾鷲の八郎さん 行けよお (行きなさい) 言うて 前の浜い (に) ナガシに行きおったの (行って居たのです)。

なかせ【名詞】 1) 仲仕 せ、しの音便 仲仕 港や河川で舟の貨物の揚げ降ろしの作業をする人 2) 中生 (早生 晩生に対して) なかて参照 (張) [会話] 1) ナカセ言うななあ (言うのは) せどり (大きな舟から小舟に荷を降ろしたり、逆に陸から小舟で荷物を沖の親船に積むこと) する事を、仲仕の事を ナカセ言うの (のです)。ナカセ言うて 舟から船へ 汽船な (が) つけて来ると (入港すると) だんべ (小船) へ 荷物積んでて (で行って) 汽船へ積んで、そんで (それで) 又 汽船から 降ろすのおを (のを)、積んで すんのを (するのを)、荷物 扱う人を、ナカセや (と) 言いおったの (言っているのです)。”せ”と”し”を よお言わんで (言えなくて) ナカセ ナカセ しとんねてない (しているようだ) 言うて、荷物積んだり 降ろしたりすんの。

なかせん 泣かない

ながそで(長袖)【名詞】 1) 昔は常に袖の長い衣服を看ていた所から医師、僧侶、山伏などの職業階級の総称 2) 医師 (鈴市) [会話] 2) ナガソデの家や (と) 言うて、医者どんの家を ナガソデや言いお ったの (言っているのです) 昔や (は)。おっさんや (和尚さん) 先生は言わせんけど (言わないが) お医者さんだけを ナガソデ。

ながそでのむすめ【名詞】 医者の娘 [会話] あのひた (人は) ナガソデノムスメやもん (だから) 言うて、医者の娘や (だ) 言わせんね (言わないのです)。

なかだ【名詞】 言葉がはっきり言えない人。

なかだか(中高)【名詞】 1) 中央の高い事 2) 顔の中央の高い事 なかぶくら (志 (布施田))

なかたがい(なかつがひ)(仲達)【名詞】 絶交 (志 (浜島)、鳥 (国崎)) [会話] 喧嘩するのなあ (のです)。お前さん こんげん言うたやんかい (こんなに言ったで有りませんか)。おら (私は) そげん言わせん (そんなに言わない)、そんでも (それでも) こげん言うたやんかい 言うて、口争いすんの (するのを) ナカ タ ガイ。どえらい (大変) 仲良しやったのん (だったのに) ナカ タ ガイ したんなあ (したのだ) 言うて。

なかだち(仲立)【名詞】 仲介人 結婚の仲人に限らない (鳥、阿) [会話] ナカ ダ チ言うのは、お前と こ れ (この人) と 喧嘩したのおを (のを) わ し な (私

が そいな (そんな) 事では はざんやんかれ (いけません) そいなこた (そんなことは) わりこた (悪い事は) 忘れたらな (忘れてしまわなければ)、そいな事 いつまで言う^とたらはざん (言っていたらいけない) 言うて、中い (に) 立つのを ナカダチとか。結婚さすのん (させるのに) お前とお前と一緒に (に) なりやええのん (なればよいのに) 言うてすんのも (するの)も ナカダチやなあ (です)。ナカダチ 仲人とは 又、違うの。その結婚な (が) まとまるまで なあ (です)。ない聞き (内密に聞く事) に いてなあ (行って) 橋渡すのん (するのを)。あの人のとこ (所) へ いたてくれやへんか (行ってやってくれませんか) 言う^と、嫌なら 嫌、おお (応諾・承知した) なら おお (はい) 言う返事を 聞くのな (のが) ナカダチ あの人のナカダチでまあ言うて。ナカダチしとる (している) 人な (が) 仲人になる事もある。その家の したし (親しい) 人やったら (だったら) 世話やきもしてもおて (もらって) 仲人も あの人の頼むと ええんなあ (よろしい) 言うて言う事も よれやわい (沢山です)。

ながたな【名詞】包丁 菜切包丁 (志、四、鈴市、亀、安、津、一、松、張、名、伊、北、南)

ながたらし【形容詞】いやになるほど長い [会話] おおた ナガタラシなあ、あの人な (の) 顔 見よまあ (見なさい) ナガタラシ顔やなあ (だ)、なあがい (長い) 顔な (が) 有^ってなあ、ナガタラシ顔やなあ (だ) 言うて。ナガタラシ顔やなあ (だ) 言うて、馬な (が) あんど (行燈) 食^わえて 井戸 覗いた様な 顔やなあ (だ) 言うて。

ながち (長血)【名詞】子宮から長期間に渡り不規則に出血を見る事 [会話] 今し (今) は 子宮癌言うて おなご (女) の病氣、言うやんない (言うでしょう) 昔は、白血 ナガチ言うて あっかいのおを (赤いのを) ナガチ、違う おりもん (帯下) を しらち言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

ながちんぼ【名詞】1) 長い陰茎 2) 長い物を見た時に言う [会話] ²⁾ 細なあがい (長い) 言う^と ナガチンボや (だ) 言うて よお言よおったなあ (よく言っていました)。

なかって 無くて (鈴市、安、津、上、伊) [会話] なんも (なにも) ナカッテ したけど (が)、今しや (今は) あの人な (が) せえで (努力で) しんしよも こさえて (身上も作^って) みよまあ (見なさい)、言う^て よお言うやんかいなあ (よく言います)。なん

も (少しも) ナカッタ家やのんなあ (だのに) 言うて。**なかくて** (中手)【名詞】作物で収穫の時期が早生と晩生との間にある品種 なかせ [会話] 早生 ナカテ おくてや (晩生と) 言うて、にげ (人間・人) でも おぼこいの (子供っぽいのを) 見ると あや (彼は) おくてで言うて。なんでも 冴えとるもん (者) は わせや (早生と) 言うて。ひねとる (老成している) とか ひねこし (老成した) とか あや (彼は) まあ どいらい (大変) ませとる (老成している) とか言うし、そおすると おぼこいのおは (のは) おくてやよ ってなあ (だから) 言うて にげ でも。ナカテ言うのは 早生とおくての間、間な (が) ナカテや (です)。兄弟が三人有ると 真ん中や (です)。おくては いっち (一番) おとごや (末弟です)。ナカテ言うな (言うのは) 一番、旬になんね (なるのです)。真ん中やよって (だから)。なんでも 真ん中 芯になんね よって (なるのだから)。たあ (田) でも はやもん (早物) 作^って 晩生と 一番なかな (が) 一番 よけ (沢山) 出来る時やよって (だから)。ナカテな (が) 一番最中やわいなあ (です)。あんまり (あまり) 早いな (のは) 失敗食^う時もあるし、おっせいと (遅いと) 又 時化 (台風) 食^うて 失敗する時もあるし そやよって (それだから) 真ん中な (が) 一番 実入りな (が) ええんやろなあ (よいのでしょうか)。

なかどおし (なかとほし) (中通)【名詞】中間の網目の篩 とおし参照 [会話] 麦や米の すっぽ (実のない穂) を 寄せんのん (寄せるのに) 荒どおし (荒篩) でして、よらんと (選らないと) こんだ (今度は) ナカドオシ言う^のな (言うのが) あ^って そんで (それで) よって (選んで)、終いにや (には) こごめどおし言うて こごめ (屑米) を 下い (に) 落と したんの (落としてやるのです)。

ながどまり【名詞】長期滞在

なかども【名詞】艸釣りの乗組員の位置 (志、度、熊)

…**ながな** のです 言うナガナ 行くナガナ

なかなか【感嘆詞】【副詞】1) どお致しまして (鳥 (国崎)、張) 2) 大変 (一、北) 3) いいえ 否定 (安) [会話] ¹⁾ ほめてもおたり (貰^ったり) 物もろ たり (貰^ったり) する時ん (に) 頭 揺きもて なあ (ながら) ナカナカ言うてなあ。ナカナカ たいよおさん、ナカナカ たいよおさんやてや (です) 言うて なあ よお言うやんかいなあ (よく言います)。

ながながし (長長)【形容詞】非常に長い事

ながなき (長泣)【名詞】長い事泣いて居る事

ながなきし【名詞】 いつ迄も泣いて居る人 [会話] いつ迄も みいみいと泣いとんの (ているのを)、たらしても (なだめても) なつとしても (どうしても) めえめえと泣いとんの、ナガナキシやよって (だから) ほっとけまあ (すてておけ) 言うて、ほつといたや (すてておいたら) 声な (が) 枯れてくよってん (て行くから) 言うて。

ながなり 長いまま (志 (布施田))

ながなる 横になる 横臥する [会話] あやあれまあ (あれあれ) ナガナツトラレ (長くなっている)。横に 寝とると (寝ていると) なあごおなつとるわい (長くなっています) 言うて。

なかにし【名詞】 西北風 (志 (安乗、志島、立神、甲賀、名田、片田、布施田、浜島、波切、船越、磯部)、鳥 (鳥羽、石鏡、答志、小浜、坂手、神島、菅島、桃取、安楽島、長岡)、三、鈴市、安、津、一、松、伊、度、北、尾、熊) [会話] ナカニシ言うのなあ (言うのです) これ (西北) から 吹いて来るの (のを) ナカニシ、こつちやは (こちらは) あなぞ。ここからくんな (来るのは) ナカニシで ほんと (本当) の 西から くんの (来るのは) 真西。それから まぜ (南) と西の あい (間) から すんの (するのは) やまぜ。

なかぬき (中抜)【名詞】 大根の芽が出た頃、密生して居るのを間引く事。なかぬき大根

なかね【名詞】 腰巻 あかね (茜 暗赤色の安物の木綿布。よく田舎女の腰巻に使用される) の転か いまき 参照 (志 (国府、布施田、御座、船越、立神、志島、甲賀、片田、越賀、名田、波切、浜島)、鳥 (国崎、答志、菅島、神島)、北) [会話] ナカネ、腰巻きの事。嬢のナカネと せんちや (便所) の 菰は 捲りや (捲れば) 臭いけど せならん 言うて。昔や (は) せんちやの菰は 皆 さがらかしとりおったやんない (吊していたでしょう)。そやもんで (それだから) 嬢な (の) いまき (腰巻き) と せんちやの菰は 捲りや、臭いけど せならん (しなければならぬ) 臭い所に あじな (が) ある 言うて。ナカネと いまきと 腰巻きと 一緒やわい (です)。今し (今) の子は ナカネや言わんと (と言わずに) おめこの カーテン 言うて、今しの子は 腰巻き 着やへんの (着ません) パンツはくもんで (ので) 和服着る時は 腰巻きするけど。

ながね (長寝)【名詞】 長い事寝て居る事 朝寝 (上、名)

ながの【名詞】 延縄 はえなわ 多数の漁獲物を同時に

得るように変形された釣り道具 長く太い幹繩に適当な間隔をおいて短い枝繩をつけ、その先に釣針をしかける。水の表中層で行うものと底で行う物とがある (志 (立神)、鳥、桑郡、鈴市、松、度) [会話] ナガノ は える 言うやんかい (言います)。ナガノ は えたよおななあ (ようだ) 言うて 家を 広げまあしとると (広げさがしていると・広げていると)、ナガノ は えたよおんしとるわい (ようにしています) うちん (家の) 中 言うて よお (よく) たとえ言葉ん (に) 言うね (言います)。海へ綱を ナガノや (と) 言うて はえん 行くやんない (でしょう)。そやもんで (それだから) 家でも 広げとると (広げひると) ナガノ は えたよおん (に) しとるわい (しています) 言うて。ナガノ 糸へ 釣りな (釣針が) してあつて それへ 餌さして はえもて (ながら) 行くの ナガノ は える 言うの (のです)。糸を 開けもて (ながら) 餌つけたのお (ものを) 放り込みもて なあごお はえんの (長く延ばして行くの) ナガノ は える 言う (言います)。

ながのつきひ (長年月)【名詞】 長い間、長の月日 [会話] ナガノツキヒ 寝て暮しとんねえない (ているのだ) 言うたりなあ、ナガノツキヒ まあ あげん (あんなに) して ぶらぶらと あそどんねない (遊んで居るのだ) 言うたりなあ。長い間 あそんどたり なあ (遊んでいた) 寝とたりしとると なあ (寝ていたりしている) 長の年月 まあ 寝たり 起きたり しとんね (しているのだ) 言うなあ (言います)、弱い人をなあ 年がら年中言うたり。

ながのなつじゅう【名詞】 長い夏の間中 (志 (布施田))

なかのま【名詞】 中間 台所と座敷との間の部屋

ながのみ【名詞】 海女の持つ鮑を獲る金挺子の長いもの (志) [会話] 鮑 とんのんなあ (獲るのに) 島の下 覗いて なあ そいな (そんな) 奥ん (に) おんの (居るのは) 短いな (のでは) 足らわせんやんない (ないでしょう)、そやよってなあ (それだから) ナガノミで おこしといて (はずしておいて) こんだ (今度は) また なあがい (長い) ひっかけのみな (が) 有ってなあ そして なんちよ (幾丁) でも つこて (使つて) 弁慶の七つ道具やなあ (だ) 言う程 鮑獲りする時や (は) 桶い (に) 入れよおつて (入れている)。ナガノミ、みじかの み (短いのみ) 言うて ナガノミや まあ なあ 舟 呼ば なあ (なければ) 桶い (に) 入れと かれやせん (ておけません) かたぐと

まけたるもんで(傾くとこぼしてしまうので)舟 呼んでなあ ナガノミくれえ(下さい)言うたり はよ(早く) ひっかけのみくれえ 言うたりしてなあ。ナガノミ言うると こげんも(1m) あんの(有るので) なあがいの(長いのです) おおび(鮑) 獲ん(る)のはなあ 三丁持っとんね(持って居るので)。このみ(小さいのみ)に、ひっかけのみに、えのみ(柄のついたのみ)言うて このみ言うると 十五糎か このみも、おっきい(大きい)のど ちっさい(小さい)のど いんねんなあ(要るのです)。おっきい(大きい)のは つかえてはざん(いけない) 時ん(に)、指一杯のおで(ので) いび(指) 一杯持ととて(ていて) いびの先で はもと(入れる所) さぐって このみを 食わずね(さすのです)。はもとな よけ(沢山) あいとる(開いている)様などこ(所) のみくれるとこ(入れる所)、のみぐち(のみを入れる口) 探す(の)です。

ながのはえる 延縄漁の延縄を海中に延ばす **なが**の参照

なかのり【名詞】海女作業中に舟に乗って場所を変える事

ながのわかれ(長別)【名詞】1) 永久に会えない別れ 死別 2) 長い事会えない別れ

なかばたらき【名詞】1) 家内の仕事 2) 鯉釣りの手伝い(志)

ながばり(長針)【名詞】縫針の一種 長い物 [会話] ナガバリで くけまくつとる(縫って居る)言うてな、くける時はなあ ナガバリやなけなはざんし(でなければいけないし)、縫う時や(は) ちゃぼ針言うて 短いのでな。かがったり(直したり)しても あんまり(あまり) 短いのおわ(のわ) おっせいし(遅いし)、ナガバリですると 早いけどな(が) そんたい(その代わり) 美し こまこおすんのはなあ(細かくするのは) ちゃぼ針やなけな(でなければ) ナガバリは ちよいと(少し) あらくとおなつてく(粗くなって行きます)。

なかび(中日)【名詞】一定期間の真ん中の日

なかびく(中低)【形容詞】中央が低いさま 鼻の低いさま 額と顎とが出て真ん中の窪んでいるさま [会話] 鼻がひっくうて(低くて) ほべたなたつかい(頬が高い)と、あや(彼は) ナカビクでまあ、鼻やてや(と言えは) 板間い(へ) そばつぼ(蕎麦粒) こぼしたよんしとられ(ようにしている)言うて、板間い(へ) そばつぼ こぼしとると(していると) 拾われ

やへんやんない(ないでしょう)。

なかぶくら【形容詞】両端が狭くなって中央部が膨らんでいる事 [会話] にない(水汲み桶)は 上から下い(へ)まで 真っ直ぐ、ちよいと(少し) 口な(が) 開いとるし(ているし)、たあご(肥桶)は ちよいと(少し) 口な(が) 窄んで(狭くなって) 尻も窄んで ナカブクラん(に)なつて。

なかぶくろ【名詞】まあじ アジ科の海魚 全長約35cmに達す。体は長い紡錘形でやや側扁する。背方は灰青色で、腹方は銀白色。体側には楯鱗と言う特有の隆起した鱗が鰓蓋の直後から尾柄部まで連続して並ぶ。(志)

なかふね【名詞】漁船団の指揮者の乗っている船 [会話] 漕ぎ張りん(に)なつて来ると 魚い(へ) 追わえて 網やんのん(入れるのに) どお(櫓) 漕ぐのん(のに) そや(それ) やれ言うて、ナカフネ 使う人ら(達) 地団太踏んで 板 叩いてくんね(来るのです)。

ながぶり【名詞】雨降りの日が長く続く事

なかべた【名詞】中側 内側

ながぼおき(ながぼうき)【名詞】柄の長い箒 [会話] しゅろぼおき言うて 竹の柄ついたり 座敷掃く時 ナガボオキしたり。

なかばね(中骨)【名詞】1) 魚の両側の肉を取り去った中央の背中部分の骨 2) 魚の腹部に有る骨 [会話] ナカボネ。魚しても(調理しても) ナカボネも取らんと(取らずに) 言うてなあ。2) 背骨や(は) 取っても ちっちゃあい(小さい) 小骨な(が) 有ると、ナカボネも よお(よく) 噛まんね(ないのだ) 言うてなあ 口な(が) おぶこいにげや(幼ない人間は) みおろししてなあ ナカボネも 皆 へんでなあ(削って) 食わさな(なければ) よお 食わんね(よく食べられないのです)。ナカボネ言うると 真ん中の骨 やなしん(でなくて) ちっさいの な有る わい(小さいのが有ります) 背骨ん(に) ついた 方 な あ(に)、そいなの なあ(そんなのを) ナカボネや(とか) こぼねや(小骨だ) 言うて。

なかま【名詞】仲間 共同 共有 共有物(志(志島、御座、神明、布施田、鶴方)、鳥(坂手)、桑郡、阿、張、名) [会話] ナカマ言うると 皆 一緒に したる(してやる) 事を ナカマに しよ おや(しましう) 言うて、一緒に こねくつといて(混ぜ合わせておいで) 食うたり 飲んだり すんの なあ(するのを) ナカマに しといて(しておいて) しよ おや 言うて。皆が

出しよて(出し合つて)一つん(に)したのおをなあ(のを)。この建てもん(物)も年寄りのナカマのもんやけど(物だが)わしらな使わしてもるとる(もらっている)言うよおなもんや(ものです)。

なかまうち【名詞】仲間同志(志)

なかまごと【名詞】皆が集まって一つの仕事をすること
なかましごとと同じ[会話] みんなな(皆が)寄つてする仕事を ナカマゴトや(だ)言うて。禁漁区を開けたりすんのも(するの) ナカマゴトみたよなもんやわい(のようなものです) みんな(皆)獲つていて(ておいて) 一緒んしといて(にしておいて) みんなな(皆が) わんねよつてなあ(割る、分けるのだから)。

なかましごと(仲間仕事)【名詞】共同でする仕事 互いに助け合つてする仕事 なかまごとと同じ(安)
[会話] ナカマシゴトや(だ) おもて(思つて) かすり(上前)とつて言うてなあ、やうちな(一同が)寄つてする仕事なあ(です)。ちよいと(少し) すべっこいもな(狡い者は) かすり取つて、かすり取つとるとなあ(ていると)、あや(彼は) かすりとりやどお(だ)言うて よお言うわい(よく言います)。みんなな(皆が)寄つてする仕事を ナカマシゴトや(だ)言うて、ナカマシゴタ(仲間仕事は) 人ん(に) 言われんよん(ないように) 早よ行て(早く行つて) 早よかからな(早く始めなければ) おもて(思つて) きい(気) 使うけど(が)、そのまた 人の仕事やのん(だのに) ナカマシゴトやのん なんもそげん(なんにもそんなに) 早よいかんてて(早く行かなくても) 言うとる(言っている) 人も 有るしなあ(あります)。

なかましとる 1) 共同で持つて居る 2) 仲間になつて居る

なかまづきやい(なかまづきあい、なかまづきあひ)

【名詞】仲間付き合い 仲間同志の付き合い [会話] ナカマヅキヤイ、仲よお(仲好く)友達で おおぜ(大勢) つきあうの(交際するのです)。ナカマヅキヤイも しゃせんねもん(しないのだから) 言われるやんかい(言われます)。仲間ごとや(だ)言うて しゃせん(と) (しないと)、おら(俺は) まあ 今日 は寄りやけど(だが)言うて そいな(そんな) 時ん(に) 行かせんてやら(行かないとか)、来やせんてやら(来ないとか) 言うにげ(人間)をなあ ナカマヅキヤイも しゃせんねもん 言うてなあ。

なかまにし【名詞】西北西の風(志)

なかまのもん【名詞】共有物

ながみち(長道)【名詞】長い道のり 長距離

ながめとろよおな 眺めて居たい様な 立派なさま 綺麗なさま 乱雑なさま(志(布施田))

ながもちする 持ちがよい 長く使用出来る(志(布施田、片田)、名)[会話] これもなあ 上手ん(に) つかや(使えば) ナガモチスネド(するのだ)、のら(お前ら) 使うのん(に) ざっぱなよつてん(乱暴だから) じっきん(すぐに) いたんでたれ(悪くなつて行つた) 言うてなあ。ざっぱなもんなあ(乱暴者が)一年 二年 使うもんやよつて(物だから) てえねん(丁寧)に つかや(使えば) 三年も 四年も 使う ナガモチスル言うんなあ(言うのです)。

ながもの(長物)。ながもん【名詞】 1) 蛇類の総称 刀剣類の総称 なが 長 永 他の語の上下につけて、複合語を作り長い事の意を表す(志(布施田、志島、甲賀)、鳥) 2) やくざ者(志(甲賀))[会話] ① ナガモン言うて 俠客もん(者)を ナガモン 言いおつたなあ(言っていました)。あや(彼は) ナガモンやよつて(だから)言うて、今し(今)で言うて ヤーサンや(です)。今しの、もんら(者達は) あや(彼は) ヤーサンやよつて(だから) あんなとこ(彼の所)で どん(へま) な事 言うたや(言つたら) おとしんどお(怖いのだぞ) 言うて、昔や(は) やくざもん(者)を ナガモンや(と) 言よおつたの(言つて居たのです)。¹⁾ そすと(そうすると) 蛇も ナアガイモンや(だ) 言うて、そや(それ) ナアガイモン な(が) 出て来んうちん(出て来ない間に) せなはざんわれ(しなければいけない) 言うて、ぬくと(暖かく) なると ナガモン な(が) 出て来ると おとしよつて(怖いから) ナガモン な(が) 出て来んうちん 草も刈つて 言うて。

なかやすみ(中休) 仕事の途中の休憩 なかいれ参照 [会話] 仕事しとて(して) ちよいと 一服しよおや(少し休みましょう) 言うて、ナカヤスミ 言う事を なかいれ。

ながやすみ(長休)【名詞】 長く休む事 休憩時間の長いのも、又幾日も長く休むのにも言う

ながやみ(長病)【名詞】 長い間病気をしている事

なかよお(なかやう)【形容詞】 仲良く [会話] 仲良くする事を、ナカヨオしよおや(しましよう)、ナカヨオしてくれえ(して下さい) 言うてなあ。

なから(半)【名詞】 なかば 中程 半分 らは助語

ながら(乍)【副助詞】【接尾語】 そのまま そのものと

共にの意を表す [会話] そんなガラ置いてけ (置いていけ) 入れもんごち (入れ物ごと) 置いとけ とか言うて、そんなガラ言うの (言うのです)。そんなガラ (そのまま) 持て (持って) 来たたら そんなガリ置いとけよお (置いておきなさい) 開けたらんと (開けないで) 言うて。持て (持って) 来たもん (者) は こんナガリ (このまま) 置いとこか (置いておこうか) 言うの。こんナガリ置いとくだあ (置いておきます) 言うて。おお (はい) そんなガラ置いとけ 言うて。とろ箱ごち (魚を入れる木箱ごと) そんなり置いとけ (そのまま置いておけ) あけたらんと (開けずに) そんなり置いとけよお (そのまま置いておけ) 言うて。こんナガリ置いてくだあ これごち (これごと) 置いてくだあとか言うて。

ながらかす。ながらす 【流】【他サ五】 流してしまう
流す

ながらく 【副詞】 長い間 久しく

ながり 【副助詞】 そのまま あるものと共にの意 ながらと同じ参照 (志 (布施田))

ながれ 【名詞】 潮流 次項 ながれ参照

ながれ 【流】 【名詞】 1) 傾斜の度合 2) 経過 [会話] 2) 潮のナガレな (が) はよおて (早くて) まあ言うて 時のナガレに 乗って言うたりな 1) 屋根のかたむきも ナガレ。

ながれ 【流】 【接尾語】 旗などを数える語 物を数える語

ながれこ 【流子】 【名詞】 貝 とこぶし (常節) ふくだめ参照 ミミガイ科 アワビガイ類 小形の鮑として 広く食用に供され、或は大形鮑の幼殻と誤られているが、孔数の多い事と、孔の背面が管状とならないこと。決して大成しないこと等によって区別される。貫通孔は6~9に達し運動が活潑なため、ながれこの名がつけられている。(志、鳥 (鳥羽)、度、北、尾、南) [会話] くだめや (です)、ナガレコ (流貝子) ふくだめ 言うのは こらだけやなあ (です)。和具では くだめや (とか) ふくだめや (とか) 言うて ナガレコ 言うな (言うのは) よけ言わせん (あまり言いません)。市場ではなあ ふく。ふく 幾らや (だ) 言うて。

ながれもん 【名詞】 1) 流れ物 漂着物 2) 流れ者 土地から土地を流れ歩く人 [会話] 2) よそから来た もん (者) を ナガレモンや (だ) 言うやんかい (言います)。あやまあ (彼は) ナガレモンやよってんなあ (だから) 言うてなあ。

ながれる 【自ラ下一】 自然流産 [会話] ナガレテラレ (ていった) まあ言うて、子供でもなあ 流産してくと (して行くと) ナガレル 言うてな 自然におりてくのを ナガレル。ま ナガレテタンテワレ (たそうだ) 勿体ない言うてな。

ながれる 【自ラ下一】 1) 漂流する 2) 破約になる 事が実行出来なくなる

ながわずらい (ながわづらひ) (長患) 【名詞】 長期間病 気していること 漫性病 [会話] ナガワズライ するとか 怪我したとか言うて ごおさらしや (恥さらしだ) 言う。

なかわた (中綿) 【名詞】 着物、布団に入れる綿。上下を絹綿で挟み、中に木綿綿を入れる。木綿綿 (南)

なかんぞのこびき。なかんどのこびき 【名詞】 尻込みしている 木挽が木を切る様から [会話] ど (槽) 後ろい (に) 引く時や (は) どんばら (腹) 打って、先い (に) 行くよん (ように) になると 海い (に) 飛び込んでくよおん (行くように) になって、おとして (怖くて) 尻 後へ 置いといて (置いておいて) ナカンゾノコビキな (が) 来たよんしとられ (ようにしている)、尻 後へ 置いといて 言うて 笑われよおった (笑われて居ました)。ナカンドノコビキな (が) きい (木) 挽くよおなれ (だ) 言うて。なかんど 言うて 宮川の上の方で 木材よけ (沢山) 有る とこやもん (所なので) 木挽き。そやもん (それで) ナカンドノコビキな (が) 来たよん (ように) しとられ (して居る) 力も入れな (なければ) 言うて よおわるわれおった (よく叱られて居ました)。

なかんどこ 泣かないでおこう

なかんどこ 中の所 (志)

なき (泣) 【名詞】 悲鳴 愚痴 なきいれる参照

なきあるく 泣く (志 (布施田)) [会話] ナキアルク 言うて。ぎやあぎやあ ぎやあぎやあ と ナキアルイテ まあ なきた (泣き味噌)、よお (よく) 泣くこお (子) をなあ。おぞげやてや (嫌だ) 俺家ん (の) このかあ (子は) なきた (よくなく子) で言うてなあ。泣くかあ (子は) 賢い、へえ (屁) ひるかあ (子は) まめな (健康だ) 言うけどなあ (言います)。

なきいれる 泣きついて許しを求める 嘆願する 愚痴をこぼす [会話] ナキイレル 言うて 頼むのおを (のを) 泣き 泣き 頼むのおを。

なきおとし 【名詞】 泣いて自分の意志を通すこと [会話] ナキオトシ 言うて、泣いて まあ 脅す様なもんやわい (ものです)。泣くもん (の) で いやらし

て(嫌で)許したる(てやる)とか、やる(与える)とか言うのな(です)。ナキオトシン(に) おおたよお(逢った)言うてなあ。

なきがみ【名詞】 泣きながら 不平、不満、愚痴などを訴える 泣きながら反抗する [会話] どげじゃ(どんなのだ) こげじゃ(こんなのだ) くちがみしいもて(不満言いながら)泣いとる(ている) 人な(が) 有るなあ(有ります)。それを ナキガミ。

なきがみんなまれる 泣きながら不平、不満を言われる(志(布施田))

なきがみんなむい 泣いて不平不満を言う

なききってく 激しく泣く

なききってた 子供が泣き過ぎて息を詰めている [会話] 子供は ナキキッテタナイ言うて、泣いて泣いてしとると(していると)。

なききる 子供が泣きすぎて息が詰まる [会話] ナキキットル(ている)、ナキキル、ナキキラレ(きっていく) そやまあ(それは)言うたり、ナキキットラレ(ている) ナキキッテクド(行くぞ)言うたり。あんまりよけ(あまり多く)泣かしとると(していると) たらさなはざん(有めなければだめだ)言う事を ナキキッテクド(いくぞ) 早よせな(早くしなれば)言うて。そおすると 子供ら わあ言うて くちびろ(唇) あっおお(青く)して来ると ナキキッテタナイ(いった)言うて。かんだかい(疳(癩)だかい・感受性の強い)子はなあ わああ言うて来ると くちびろの色な(が)紫になって来てなあ。

なききそ【名詞】 よく泣く子 泣き虫 くそ 糞尿接尾 名詞、形容詞の語幹について軽蔑の気持ちを込めて その語の意味を強める働きをする [会話] 泣きびそ言うのなあ(言うのですか)泣きびそとか 泣きみそとか よけ(沢山)泣くと 泣きみそ。泣きみそとか ナキクソとか 泣きべそとか。“この子 よお(よく)泣く なんでも よお 泣く 親が泣き泣き もおけた(産んだ)子かよ よいよい”言うて 守りしいおった(子守して居ました)。

なきごと(泣事)【名詞】 自分の不運や不遇についてあれこれ愚痴をこぼすこと 愚痴 [会話] ぜんな(銭が) 有っておって(有るのに)、無いふう(格好)して 無い無い言うて ナキゴトばっか(ばかり)して。

なきじゃくり【名詞】 泣いた後で、いつ迄も後を引いて、しゃくりあげている状態 なきずりに同じ [会話] 泣いて、泣いて、泣いて、しゃくんの(せりあげるのを) ナキジャクリ。

なきしょんべ【名詞】 泣きながら小便をしてしまう事 泣小便

なきすえる 激しく泣く 泣いて泣きぬく

なきずり【名詞】 泣きながらしゃくり上げること 泣いた後いつまでも、しゃくりあげていること [会話] まあ よけ(沢山)泣いて 泣いて しゃくんの(せり上げるのを)泣きじゃくり、よけ(沢山)泣く子は ナキズリしてなあ。せんぎり(沢山)泣いて 泣いてするとなあ 後で へ、へ言うてなあ しとんのをな(しているのを) ナキズリ言うのなあ(です)。疳の強い子は ナキズリしてなあ 泣いて、泣いて、ま泣きやまとんねけど(ているのだが)後で うえうえ言うとて(言っていて) やまらへんのなあ(止まらないのです) ナキズリな(が) 止まらへんね(ないので)。

なきそだ【名詞】 泣き小便をする子供 [会話] ナキソダや(だ)言うてなあ(言って)、泣いたら しょんべ(小便) じゃあ じやあ たれて(して) おこす、こおな(子が) 有てなあ、どいらい(大変) たちな(性格が) わり、こおな(悪い子が) あよ おった なあ(有りました)。

なきた(泣太郎)【名詞】 よく泣く子 泣き虫 なきくそ参照(志(越賀、浜島)) [会話] よお(よく)泣くもんで(ので) ナキタ、なき び その 事を ナキタ 言うて。うた(ああ) ほん とん(本当に) ナキタ や ど お(だ) 言うて。なき び そ た れ 言う の も 一 緒 や(です) 皆 よお 泣 く 事 を 言う ね(言うのです)。泣 き 虫 毛 虫 死 んだ 毛 虫 で さ し は せ ぬ(刺さない、させない) 言うて お な ご ら な(女達が) 惚 れた ふ り す や(すれば) さ す か と 思 て(思っ)、死 んだ 毛 虫 で さ し は せ ん 言うて さ さ せ ん 言うて。惚 れた ふ り(格好) す ると さ す か 思 て(思っ) 男 ら な(達が) ち よ ろ ち よ ろ す る や ん ない(でしょう)。そおすると 死 んだ 毛 虫 で さ し は せ ん 言うて。

なきたがりや【名詞】 すぐ泣く人

なきだれ【名詞】 風が止んだあとと降る雨 [会話] やまぜがえして 風ごと 雨 な(が) 降 って 来 ん ね(来ます) ナギ ダ レ な(が)。

なきつく【自力五】 哀願する 泣かんばかりにして助けを求める [会話] ナキツク。よ した(好しく) 頼 む、あ あ し て く れ え(下さい) 言うてな、泣 い て た の で(頼んで) ナキツカ レ タ よ お 言うて、よ した(どおぞ) 頼 む お れ げ(俺の家) 助 け て く れ え 言うて す ん の を な あ(するのを)、まあ 泣 き 落 し ん(に)

落されたよお、ナキツカレテ言うてなあ。頼む 俺家や (は) こんな (これが) 無かったら なつとも (なんとも) しょな (仕様が) 無い、よした 頼むに 助けてくれえ 言うて ナキツクのなあ (です)。

なきづら【名詞】泣きそうな顔 泣いている顔

なきづらかかえとる 今にも泣き出しそうな顔、様子。泣いて居る (志 (布施田))

なきどおし 泣いてばかり居る、転じていつも不平、愚痴を言っている

なきとおす 泣いてばかり居る、転じて苦しんで居る

なぎなええ 海上がおだやかだ 風がよい

なきなき【副詞】やつとの事で 泣きたいほどつらい気持ちで (一)【会話】ナキナキ もおけたこおやなあ (産んだ子だ) 言うてなあ、このかあ (子) よお (よく) 泣く なんでも よお 泣く 親がナキナキもおけた (産んだ) 子かや言うて 子守歌ん (に) 有るやんかい (有ります)。よおやつと (ようやく) 出来た いっしょけんめ (一生懸命) で、したのをなあ。仕事でも こしらえもん (作り物) でもなあ ナキナキ こさえたんよお (作りました) 言うたりなあ。

なぎなたほおずき (なぎなたほほづき)【名詞】あかにしの卵の袋を言う その形がなぎなたの刃の部分に似ているのでこの名がある。たんばほおずき参照 (志 (立神))【会話】法螺のこおやなあ (子です)。薙刀 みたよんしとてなあ (のようにしていて) それを ナギナタホオズキ。ぎゅうぎゅう 鳴らしてなあ。たんばほおずきやら (とか) むぎわらはほおずき言うて むぎつぼみたよな (麦粒のような) こんだけばかのおも (これだけばかりのもの) 有るしなあ。

なぎなわり 海上が荒れる

なきね (泣寝)【名詞】泣きながら寝入る事

なきねり【名詞】1) 泣き寝入り 泣きながら寝てしまう (上、阿) 2) 転じて不満ながらそのまま止める事

なきのなみだ (泣涙)【名詞】1) 悲嘆にくれる (志 (布施田)) 2) 大変な努力

なきばらい【名詞】泣き泣き支払う事 いやいや支払う事【会話】ナキバライ 払いたのおても (払いたくなくても) 払わな (払わなければ) しょおな無いよおん (仕方がないように) なってくんの (来るのです)。

なきびそ【名詞】よく泣く人 子供 (志 (御座、布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、国府)、鳥 (鳥羽、加茂)、松、多、度、伊)【会話】ナキビソ (泣きみそは) 言うて よけ (沢山) 泣くと。

なきびそたれ【名詞】よく泣く人 (志、鳥 (鳥羽))【会話】よお (よく) 泣くこお (子) を わるうのんなあ (叱るのに)、長泣きして なかなか やまん子をナキビソ。そして 泣きもて (ながら) しょんべ (小便) じゃあじゃあたれて (して) ナキビソた (たれば) 言うてなあ、泣きしょんべたれて (小便して) まあ言うてなあ。

なきべそ【名詞】よく泣く人【会話】なきびそも 一緒やなあ (です)。なきびそかいて言うてなあ、愚図愚図言うのなあ ナキベソかいて まあ言うて。

なきべそたれ【名詞】よく泣く人

なきぼくろ【名詞】目の下 又は、横に有る黒子 此れが有ると涙もろいと言われる (南、熊)【会話】ナキボクロな (が) あんねよつてなれ (有るのだから) 泣きたやれ (よく泣く子だ) 言うて、めえ (目) のとこ (所に) 黒子な (が) 有って、めえの上でも 下でもなあ 周囲に有ると ナキボクロや (だ) 言うわい (言います)。

なきまね (泣真似)【名詞】泣く真似をすること

なきみそ。なきみそたれ【名詞】よく泣く人 みそ 他 の話について蔑んだり嘲ったりする意を表す (津、上、阿、張、名、南、熊)【会話】ナキミソも なきべそも なきびそも 一緒やなあ (です)。

なきみる 泣くようなつらい目にあう 不幸な目に会う【会話】ナキミル言うな (のは)、ま しや (それ) そいな (そんな) 事 しとるうちにや (している間には) 又 ナキミンド (見るぞ) 言うて。騙されたり、わり (悪い) 事ななあ (が) 来るのをなあ、辛い目が来るとか 不幸な事が来る時やなあ (です)。ちよいと てくさい (盗みする) よおな人と つきやいしと てもなあ (交際している) まあ あの人と つきやいしとんな (交際しているのは) ええけど (よいが)、終いにや (には) ナキミル言うて。人、騙してばっか (ばかり) おる人な (が) 有るやんかい (有ります)、また わがと (自分も) も、騙される 言う事やわいなあ (です)。

なきめ (泣目)【名詞】泣くようなつらい状態

なきもて 泣きながら

なきや 泣けば

なきや 無ければ

なきやあるいて 泣いて ぎゃあぎゃあとなきヤアルイテ

なきやあるく。なきやあるく よく泣く

なきやう (なきあう、なきあふ)【自ワ五】泣き合う

(志、鈴市)

なきよとる 泣き合って居る

なきわれる 大声で泣く 泣き叫ぶ

なく(泣く)【自力五】 1) 嘆く 愚痴を言う 2) 相手の無理を仕方なく承知する [会話] 1) 泣き事して言うて なんやかや (何か) 無いよおん (ように) なったてやら (とか) ぜんな (銭が)、無いよおん なったてやら 品もんな (物が) 無いてやら、よけ (あまり) 言うて ナク言うわい (言います)。ぜんな有っておって (銭が有るのに) 無いふう (格好) して無い無い言うて 泣き事ばっか (ばかり) して言うわい (言います)。

なぐ(風)【自ガ上二】 1) 風が止む、風は風止の合字 2) 気持ちが穏やかになる [会話] 1) 今日は ナンデタ、仰山吹いとたけど (沢山吹いていたが) ナンデタレ (風いでいった) 言うて。風が止んでくと (いくと)、ナグ言うの (言うのです)。夕風な (が) してたれ (して来た) 言うのなあ (のです)。夕方になると 西 (西風) は よお ナグねわい (よく風ぐのです)。秋の頃は 朝ん (に) になると 西の風が出て来るもん で (ので) じあらしが 出て来たれ (来た) 言うて。西の風は ひざかりぶき 言うて 日ん中 (昼間) ビュービューと ひざかり 日の真ん中頃になると よお (よく) 吹いて来るわい (来ます)。こやまあ (これはもう) ひざかり吹きやなあ (だな) 言うんなし (言うのです)。ひざかりぶきしとて (していて) 夕方ん (に) になると ナンデクワイ (風いで行きます) こやまあ (これは) 夕風な (が) したなあ。

なくこはおやのうけとり【俚諺】 子の不始末は親が責任を持たなければいけない

なぐさみごと(慰事)【名詞】 慰めとなる事 遊び事 搏打

なくてや 泣くだろう てやは推測

なくな 泣くのは

なくな 泣いてはいけない

なくな(泣泣)【副詞】 1) やつとのことで 2) 嫌々 泣きたいほどつらい気持ちで なきなきと同じ [会話] 2) つらまして (辛くて) つらまして しよおな (仕方が) 無いのおでも (のでも) ナクナク来たよ お言うて。行きたない (たくない) とこい (所へ) 行くの (のを) ナクナク務めて来たよお (来ました) 言うて。こいなどこん (こんな所に) おりたない (居たくない) 思いもて (ながら) 働いとんのな (ているのです)。泣く程 つらいねけど (のだが) 暇くれ (や

めさせて下さい) よお言わんし (よく言えないので)

時期な (が) 来る迄 おもて (思って) ナクナク勤めて来た言うのなあ (言うのです)。

なくなてや 泣いてはいけない てやは禁止

なぐりこむ 怒りを持って押馳ける

なぐる(毆)【自ラ五】 打擲する 撲る (志(神明、浜島、片田)、鳥(鳥羽、答志)) [会話] 叩く事を ナグル、どばす事も ナグル、なぐり倒された。あんな (彼が) 怒ってきて なぐりとばしておこして (よこして)。

なぐれてくる 流れて来る 物乞いが現れる [会話] なぐれもんな (浮浪者が) よけ (沢山) 来て言うて、なぐれもんな (が) あっちゃい行ても (あちらへ行っても) はざん (駄目な)、こっちゃい行ても (こちらへ行っても) 働くとこな (所が) のおてなあ (無くて) くいはぐれとんのなあ (ているのを) なぐれもん。ナグレテクル言うな (のは) 乞食な (が) 回って来る 言う様な事やわい (です)。

なぐれもん【名詞】 放浪者 遍路 物乞いをする者 乞食 [会話] ナグレモン 言うて、今し (今) で言うて 乞食やわい (です)。何処やら (からか) ナグレモン な (が) 来て言うて。

なぐれる【自ラ下一】 落ちぶれる 墮落する ナグ (雑) の転訛 (大言海)

なくんもなけん 泣くにも泣けない、非常な苦境の有るさま、非常に腹立しいさま

なげかわし(なげかはし)(嘆)【形容詞】 嘆く様である 憐れで有る

なげきみる 辛い目に合う 困る事に出合う

なげくび(投首)【名詞】 思い悩む

なげせん(投銭)【名詞】 最頂の役者などの舞台に投げ入れる銭 おひねり [会話] はな (花) 入れんのを (るのを) ナゲセンなあ (です) ナゲセン して言うて。

なげづり(投釣)【名詞】 重りを利用して釣糸を遠くへ飛ばして釣る方法 [会話] ナゲヅリ 言うな (のは) ひよおいと 浜から投げて、ナゲヅリんいて (に行つて) 鯖 釣つて来よおったんよお (来ました)。

…なけな なければ(志) [会話] さぞ (機敏) ナケナ 出来やん (出来ません)。

なけなならん 1) なければならぬ 必要だ(志) 2) 有るはずだ [会話] 1) あのひた (人は) まああの家や (に) ナケナ ナラン人 やけどなあ (だが)、まあ 死んでてなあ (で行つて) 言うて。大事の人 やけどなあ。絶対 必要なもん や (物だ)。物でもなあ

ナケナナランもんやけどなあ (物だけれど) 言うても
重宝なもん (物) を言うやんかい (言います)。

なけや。なけりゃ 無ければ (張、熊)

なご 【名詞】女 娘 [会話] あんナゴ コンナゴ言うて、これや (この人) 言うのを コンナゴや (だ) 言うし、あんた (貴方) の事を あんナゴ。あんたや (貴方とか) コンた (この人) 言うのを あんナゴ コンナゴ言うの (のです)。あんたや コンたや そんた (その方) や言うやんない (でしょう)。それをお前の事を コンナゴ言うし。コンな (この人) 事を コンナゴ言うし (言います)。ナゴ言うのは 男は言わせんなあ (言いません)。おなご (女) だけ、あんナゴや。コンナゴや (です)。友達のを あんナゴ や コンナゴや (だ) 言うて。

なごて 【形容詞】長くて (三重県全域)

なこと。なこと 【名詞】媒酌人 仲人 なことおや参照 (志 (布施田、浜島)、三、四、鈴郡、鈴市、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊) [会話] 仲人な (が) ナコトの親な (が) 言うて。

なことおや。なことおや 【名詞】媒酌人 仲人 仲人と嫁、婿の間に仮の親子関係を出る所から (志、松、上、阿) [会話] 仲人の事を ナコトオヤ 言うてな。ナコトオヤに まあ 世話 (面倒) かけてのお言うて。戻って来てな (は) 連れて来て、又 戻しきなあ (戻しに行き) ナコトオヤん (に) やっかい (厄介) 掛けて するにげな有よおった (人間が有りました)。

なことぐち (仲人口) 【名詞】 あいまいな事 上手に言う事 (志 (布施田)、員) [会話] ナコトグチ (仲人口) 言うて 無い事でも ちよいと (少し) 上手言うのを ナコトグチ 乗って言うて。がいに (たいして) ええ (いい) 男やないねけど (でないのだが)、この男は ええ 男やよって (だから) 嫁ん (に) いたてくれえ (行ってあげて下さい) 言うて 行くと、さほどの事やのおて (でなくて) ナコトグチに 乗ったて まあ (乗ってしまった) 言うやんかい (言います)。ナコトグチで 上手で 褒めそやすもんで (ので) ほんとん ええ (本当にいい) 人や (だ) 思て (思っ)て 行くと ナコトグチで。ナコトグチな (が) よお (よく) 有って わがと (自分が) 手柄しょお思て (思っ)て 上手言うて。手柄する言うのは 手柄だ (です、自慢する)。むこおの男のとこいい (所に) 行って おんな (俺が) もろて (もらって) 来た言うて 手柄すんの (自慢するのです)。手柄話しょお言うて ナコトグチ出して 上手言うて もろて (貰

て) 来て あてがいさいしゃ (与えさえすれば) わがと (自分は) ええ (よい) 思うけど 後で ナコトグチな (が) 出て来るやんかい (来るのです)。まあ はっぱ事 (大ぼら) 言うて 花 持たして そおすると その人も ほんと思て (本当たと思って) そんなら (それなら) もろてもらおんなあ (もらってもらおう) 思て (思っ)て 行くやんない (でしょう)。“来てみや (来てみれば) 薬罐 (やかん・湯わかし) の蓋もない” 言うて 金の茶釜も有るよおん (に) 思て、来てみや (思っ)て来てみれば) どひん (土瓶) の蓋も無い言うて。

なごどのこお 【名詞】 仲人の子 媒酌された夫婦

なごどやく 【名詞】 仲人役 結婚の媒酌人の役割 又、それを務める人 [会話] ナコトヤク 言いつけられて言うて、仲人してくれ (して下さい) 言うて 頼まれんのなあ (るのです)。ナコトヤクを 頼まれて 大役やわい (だ) まあ言うて。

なごなつた 長くなった

なごなつとる 1) 長くなって居る 2) 横臥している [会話] 1) 立つとるもん (物) で ナゴナツトルもんを せえな (背が) たっかい (高い) 言うなあ (言います)。

なごなる 1) 長くなる (松、多、尾) 2) 横臥する 横になる 寝る (張) [会話] 2) あやれまあ くたばって (疲れて) ナゴナル 言うてな、横ん (に) なって 寝るとなあ (寝ていると)。1) 引っ張ったら ナゴナルもおちよいと (少し) 引っ張たて (てやっ)て 見よ (見なさい) ナゴナンド (なるぞ) 言うて、阿呆の じみよお (寿命) 程 長いやんかあ (です) 言うて。

なごむ (和) 【自マ五】 和やかになる おだやかになる やわらぐ

なごめやく 【名詞】 なだめ役 仲裁人 [会話] わしや (私は) 喧嘩すんの (するのは) 嫌いでなあ、喧嘩すんの (するのを) ナゴメヤクすんのは (するのは) するけど 喧嘩すんのは (するのは) 嫌い。

なごめる (和) 【他マ下一】 慰める 悲しみや苦しみを紛らす なだめる (志 (志島、甲賀)) [会話] 慰める。慰める事をなあ (です) ナゴメル 言うて。悲し (悲しい) 事な (が) 有って 悔やんどたり (悔やんでいたり) ごおなわいて (腹が立って) しよげとる (しよげている) 時らん (などに) ナゴメル いつ迄 そいな (そんな) 事 思とたらはざん (思っ)ていたら 駄目だ) とか、いつ迄 そげんしとたら (そんなに

していたら はざん とか ナゴメンノヲ (なだめるのを) ナゴメテもおて (貰って) 言う。なごめてもおて人は ナゴメラレテ言うしなあ (言います)。

なごやか (和) 【形容詞】物静かに おだやか [会話] 怒って言う時は じょっく (いつも) あいな (あんな) 事 すんねな (するのだ) 言うて。ナゴヤカ ん (に) 言う時は じょおっく あいな 事 しとんね (しているのだ) 言うんけど (言うが)。

なごやざいく 【名詞】粗製品の代名詞 (伊) [会話] 名古屋のなあ しなもん (品物) 買うと ざっぱ (雑) でああ ナゴヤザイクやなあ (だ) 言うて 雑い (のです)。ざっと して有る もん (物) は ナゴヤザイク言うね (言うのです)。ごぶくもん (呉服物) でも 仕立な (が) 雑いし、なん (に) でも こおたもん (買った物) わりとなあ (悪いと) こや (これは) ナゴヤザイクやなあ (だ) 言うね。名古屋仕立てと、京仕立て、言うななあ (のは) 見て見ると 仕立てな (が) 違うねてや (違うのです)。京仕立て言うのは バイヤスも付けて 効き目 (大切な) のとこな (所が) きちんとして有るし、名古屋 もん (物) はなあ 縫うのでも しゅしゅしゅと 縫うて有るし、較べると そのまた 違うねてや (違うのです) そや もんで ざっぱん (それで雑に) して有ると ナゴヤザイク言う (のです)。

なさけな。なさけない (情無) 【形容詞】辛い 哀しい せつない (阿、張) [会話] ナサケノオテ (なくて) ナサケノオテ、ものすお (大変) 悲し (悲しい) 事 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。腹 な (が) 立つ 事言われると おおた (ああ) あいな (あんな) 事言われたら おら (私は) なんも知らんのん (全く知らないのに) ナサケノオテ ナサケノオテ 言うて よお (よく) 話しする 人な (が) 有るやんかい (有ります)。ナサケノオテ ナサケノオテ ほんどん (本当に) 夜 の目も ねやれやせん (眠れない) 程 ナサケナイ わい (です) 言うて、身に覚えのない事言われると。わがと (自分) 知らん (知らない) 事を 人に言われたり しやれたり (ざれたり) すると、ナサケナイ 言うてなあ。この時は つらい事やわい (です)。子供に別れたり 主人に別れたりしても ナサケナイ 言うやんかい (言います)。悲し (悲しい) 時もなあ。

なさけのおて 情けなくて 辛くて 悲しくて なさけな参照

なされ しなさい なさい (志、員、亀、津、久、伊、南)

なさんなか 【名詞】義理の仲 異父母 (鈴市、北、南)

…なし 【接尾語】なすの音韻変化 文末に付いてするを表す すんねナシ 行くねナシ なす参照 (志) [会話] あげんすん (あんなにする) のナシ、ちよいと (少し) なつとどや (なにかだ) 言うて 泣いて かんまえん (構える) のナシ言うてなあ 後でナシ付け んの (るのです) する言う事や (です) あげんすんの (あんなにするの) ナシ言うて、する 言う事を ナシ 言うの なあ (です)。

…なし 文末に有って否定を表す

なしえて 仲間に入れて

なしえていえ。なしえてえ 仲間に入れて下さい

なしくずし (済崩) 【名詞】少しずつ済ます事 [会話] だしくずし。ナシクズシ 言わせんの (言いません)

(註 本人は意味が判って居るが使わない。多くの人は使って居る) だしくずし 言う (言うのです)。借金 しとて (していても) ちよいちよいちよいと (少しずつ) ぼちぼち (ぼつぼつ) 出すのを だしくずし に さしてもろて (させてもらって) 言うて、ぼちぼち と ひとくらん (一度に) どんとよお出さんし (出せないし)。言うて (言うて) しぎり出し に出すと だしくずし にしても ろて、さしてもおて 言うて、借金 しとて (していて) ひとくらん よお出さんと (出せずに) だしくずし に してもおて (貰って) 言うて ぼちぼち 払う事を だしくずし 言うの なあ (言うのです)。しぎり出し 言うななあ (言うのは) ちよいちよい (少しずつ) 出すのを しぎり出し 言う (のです)。金がない もんで (ので) ちよいちよいしか (少しより) よお出さんやんない (出せないでしょう)。それを しぎり出し する言うの。しぎる、腹な (が) しぎる 言う。便 な (が) しぎって 出やんで (出なくて) 言うて、便秘 すると 言うやんかい (言います)。それも一緒に しぎり出し。

なした どうした なんとした なにした なに 何 不定称指示代名詞 どういうもの どういう事 名称や正体が判らないものをさして問う語 どれが相当するのか、はっきりしない物事をさして問う語 したして する [会話] どおした 言うのを ナシタ。ナシタンド こや (これは) 言うて。おどけたよおん (驚いたように) 言うのを どげんしたんど (どうしたのか) 言うのを ナシタンド こやまあ (これはもう) 誰も おらせんやんかあ (居ないではないか) 言うて。しくしく 泣いたり (泣いていたたり)、怒ったり しとて (していても) ナシタ 泣いとるやんか

(泣いているでないか)とか、なして そげん (そんなに) 怒っとんねど (怒っているのだ) とかなあ ナシタンド こや (これは) 言うて、ものすごお (ものすごく) びっくりした時も ナシタンド まあ おどけたない (驚いた)、びっくりしたない (した) まあ 言うて おどける時でも。

なした 仲間に入れた

なしたた 仲間に入れてやった [会話] ナシタタ言うのはなあ 仲間に入れたた (てやった) 言う事を、なしてくれて なせてもろた (貰った) 言うのな 仲間い 入れてもおた。

なしたて 1) 仲間に入れてやった 2) 仲間に入れてやって下さい (仲介人が 頼む時) [会話] 1) 仲間に入れたて (てやって) 言うのを ナシタテ言うの。

なしたてて どうしても

なしたてて 仲間に入れても

なしたらんかい。なしたらんかな (女性語)。なしたらんかれ 仲間に入れてやりなさい [会話] 仲間に入れてやりなさい言うのを ナシタランカイ言うの (のです)。仲間に入れてえ (入れて下さい) 言うの (のを) なせてえ言うてな。かくれんぼしたりしとて (していて) わがと (自分が) おっそお (遅く) 来ると わし (私) も なせてえ言よおったの (言って居たのです)。

なしたる 仲間に入れてやる

なしたるわい。なしたるわな (女性語)。なしたるわら。

なしたるわれ 仲間に入れてやる [会話] ナシタルワイ。なせたるわい言うのを ナシタルワイ言うて 仲間に入れたる (てやる) 言うのを、なせたるわい ナシタルワイ言うて。

なしたれ 仲間に入れてやれ [会話] なせたれ言うの、ナシタレ あれも (彼も) 言うてな、仲間ん入れたる (てやる) 言うのなあ。

なしたん どうした

なしたんかいなあ どおしたのだろう [会話] 今日は まあ ナシタンカイナア あのかあ来やせんなあ (子は来ないなあ)、ぐわいな (調子が) わりねえなやかなあ (悪くないのでないのか) 言うたりなあ、どおしたんだろお なっとも (なんとも) ないんやろか (無いのだろうか) 言うよおな時んなあ (に) ナシタンカイナア 今日は まああつて来やせんない (廻って来ない) なっともないねやろなあ (なんとも無いのだろうか) 言うて。

なしたんど 仲間に入れてやるぞ

なしたんど。なしたんとい どうしました [会話] 泣いたり (泣いていた)、怒ったりしとて (していても)、ナシタンド 泣いとるやんか (泣いているではないか) とか、なして (どうして) そげん怒っとんねど (そんなに怒っているのですか) とか、ナシタンドこや (これは) 言うて。

なしたんやかなあ どうしたのだろうか [会話] どおしたんだろお なっともないんやろか (なんとも無いのだろうか) 言うよおな時んなあ ナシタンヤカナア、今日は まあ まああつて来やせんない (廻って来ない) 言うて。

なしたんやろ どうしたんだらう [会話] 財産な (が) よけ (沢山) 有る家は どん つけんねけど (つけるのだが) ごおか (豪家) は ナシタンヤロ昔から ごおかで。

なして (なせて) 仲間に入れて (志 (浜島)、鳥) [会話] ナシテエエ (仲間に入れて下さい) 言うのも、言うしなあ (言います)。かくれんぼやとか (だとか) 遊びしとるやろ (しているでしょう)。私も ナシテ言うて 仲間に入れてくれ言うのを。そおすると なしたれ (仲間に入れてやれ) なしたらんかい (入れてやりなさい) なしたるわい (入れてあげます) 仲間に入れてやると なしたた。

なして【副詞】 どうして 何として 疑問を表す なした参照 (津、松、張) [会話] ナシテ来やらったんど (来なかったのだ)、ナシテこらったんど (来なかったのだ) 言うのなあ、なんで まあ 今日はこらったの (来なかったのだ) 言うのをなあ ナシテ 今日はこらったんど きやらったやんかあ (来なかったの で無いか) 言うてな。

なしていえ 仲間に入れて下さい [会話] ナシテイエ 言うの (のは)、仲間ん (に) して言うの (のを)、わしも (私も) ナシテイエ。

なしてえ 1) 仲間に入れて下さい 2) 何故ですか [会話] 2) ナシテエ こんとわりか (来ないと悪い) 言うて、なんでこらったんど (来なかったのだ) 言うの、ナシテエ なしてこらったんど 言うて。

なしてええ 1) 仲間に入れて下さい 2) 何故ですか [会話] 1) ナシテエエ言うの 仲間ん (に) して言うの (のです) わしも (私も) なしてえ言うて 仲間に入れて下さい。

なしても。なしてもかしても どうしても [会話] ナシテモ 今日は これしたらなはざん (してやらなければいけない)、どげんしてでも (どうしても) した

らなはざん 言う時もあるし、どおしても言うの ナシテモカシテモ したらな はざんねやれ (してやらなければいけないのだ) 言う時もあるしなあ。どげんしても こげんしても (こおしても) 言う時もあるし、なんでもかんでも せなはざんねやれ (しなければいけないのだ) 言う時もあるしなあ。

なしてや どうしてだ なしてに同じ や…だ [会話] こげん (こんな) すると はざんねやれ (いけないのだ) 言う、ナシテヤ言うてなあ、なしてはざんねど (どおしていけないのだ) 言うのなあ (です)。ナシテヤ言うてなあ 問いかやす (返す) 時んなあ (に) どおしたや (のだ) 言う時ん (に) ナシテヤ言うてなあ。

なじみ (馴染) 【名詞】 親しい関係 相愛関係 ナレシムの約 (大言海) (松)

なじむ (馴染) 【自マ五】 1) 馴れて親しくなる 2) 二つ以上の物がよく合致する ナレシムの略 (大言海)

なしわり 【名詞】 梨割り 簡筆に二つに割れること [会話] ナシワリ言うな (のは) 梨を二つん (に) ぱんと割るやんない (でしょう)。ぱんと 二つん (に) 割れん (る) の ナシワリん (に) した言うの (のです)。ぱんと割ると ナシワリやなあ (だ) 言うて。

…**なしん** でなくて [会話] そやちがわれ (それは違う)、それやナシン (でなくて) こっちゃやあれ (こちらだ) 言うてなあ それは違う言うのなあ それや (それで) ナシン こっちゃくれ (こちら下さい) 言うて。

なしんなる なくなる [会話] なんも (すべて) ナシンナツタカレ (なつて行く)、なんも ナシンナツタタナイ (なつていった) 言うてな、皆 くれたて (くれてやって) なんもナシンナツタタナイ 言うて。みんな (皆) 気前よお (よく) くれたて まあ ナシンナツタタナイ。なんにも 無いよんなつた (ようになっていった) 言うのなあ (です) なんも、ナシンナル言うて。

なすび 【名詞】 なす 茄子 (志全域、鳥、桑市、鈴市、三、津、一、松、上、阿、張、名、度、伊、尾、南) [会話] ナスビ 一富士 二鷹 三ナスビ言うて、茄子は ええんけどなあ (よいのだが)。

なすびづけ 【名詞】 茄子の漬物 味噌漬 糟漬 塩漬 漬け等がある [会話] ナスビツケ 下駄で踏んだよおな顔やなあ (だ) 言うて、器量な (が) わりと

(悪い) ナスビ (茄子) のつけもん (漬物) ナスビツケ。

なすます なじませる [会話] 餅 あんまり (あまり) かんからこん (かんかんに) 干したると (干してやると) ひびな (が) 割れて来るやんない (でしょう)。すると (そうすると) 水ん (に) くざげると (つけると) ばらけてくんやんかい (ばらばらになります)。そやよつて (それだから) 一週間でも 十日でも 桶い (に) 入れて ナズマシテカラ 漬けると めったんしてかせんの (絶対に碎けません)。

なすむ (なづむ) 【自マ五】 慣れ親しむ なじむ 沈む (上、阿) [会話] ナズンデタラ (ていったら) また入れるやあれ (のだ) 言うて、沈んでたら (でいったら) 言うのなあ (です)。ひとばか (少し) まあ ナズマシトケ (ておけ) 言う時もあるしなあ (有ります)。もやがとんのなあ (盛り上がっているのが) 沈んでくの (て行くのを) ナズム 言うて。

なぜえや 何故ですか (志 (布施田))

なせたや 1) 仲間に入れてやれば 2) 仲間に入れたら

なせたらんかい。なせたらかな (女性語)。なせたらんかれ 仲間に入れてやりなさい [会話] ナセタランカレ 言うてな、あの子もなあ 一人で あげんしとんのなあ (あんなにしているのに) かわいそげん (可哀相に) ナセタランカイ言うてな。

なせたる 仲間に入れてやる

なせたれ 仲間に入れてやれ

なせて。なせてえ 仲間に入れて下さい なして なしてえ参照 [会話] 仲間になせてくれ (して下さい) 言うのを ナセテエ言うて。

なせる 仲間に入れる [会話] ナセル言う、仲間に入れる。おらも (俺も) 仲間ん (に) なせてもろて (貰って) 買山 ひとしろい (一人分に) 入れてもろた (貰った) 言うてな、仲間い (に) 入れて貰うの (のを)。

なざる 【他ザ下一】 撫でる ナデル (撫) の音便 (大言海) (志 (浜島)、鳥 (加茂)、桑郡、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾)

なぜん 【副詞】 何故に なんて 何で

なぞえ (なぞへ) 【名詞】 斜め 傾斜 (志 (鶴方、布施田、志島、甲賀)、鳥 (鳥羽)) [会話] こや (これは) どいらい (大変) ナゾエん (に) なつとるなあ (なっている) 言うて のんべりしとんのおを (緩く

しているのを きっ立てとんでなしん (直立しているでなくて) ちよいと (少し) のんべりしとると (していると) ナゾエやなあ (だ) 言うて、はずかい (斜め) に なつとると (なっている)。斜めになつとるのおや (なっているのだとか) すべつとしとるのお を (しているのを) ナゾエンなつとる (なっている) 言うて。あんまり きっ立てとかんと (立てておらずに) ナゾエン (に) しとけよお きっ立てるとかえつてくよつて (ひっくり返るから) 言うたりなあ。ナゾエにしとけ (しておけ) 言うのは ちよいと (少し) 斜めん (に) せえ (しなさい)、はずかい に せえ 言う事を あんまり (あまり) きっ立てるとかえつてくよつて ちよいと ナゾエにせえよお (しなさい) 言うのは ちよいとねやせよお (少し横にしなさい) 言う事やわい (です)。

なた (鉈) 【名詞】 薪などを割るのに用いる刃の厚い切れ物 [会話] 木 こなす (小さくする) 時 はあ (葉) と きい (木) と 選り分ける (より分ける) 時 こなす 言うて、はあ (葉) を、はるといて (払っておいて) きい (木) を残す時なあ (に) ナタで こなしとけ (こなしておけ) 言うて、かみやまい (薪物にすると立木を買う事に) 行くと おっきいのおなあ (大きいのを) こまこおすん (小さくする) のを こなす 言うの (のです)。ナタと よき (斧) とは 又違うの よきは木、割る時ん (に) 使うねなし (使うのですし)、まさかりでも よきでも 木太 (丸太) を こまこお 割木ん (に) 割る時ん (に) よきは使うの。ナタは おっきいのおを 枝はるたりすん (払ったりする) のを、ナタで こなす 言うて、枝を払うね (払うのです)。ナタ 言うと 薄刃 (菜切り包丁) のあついの (厚いのを) ナタや (と) 言うて、よき 言うと 槌みたいんなつとるのなあ (よくなっているのを)。手よきと 大よきと あって 手よきは 割木をぼんと割って すん (する) のを、手よき 言うし 大よき 言うのは ふやげといて (振り上げておいて) どえらいのおを (大きいのを) ぼんにすんのを (するのを) 大よき 言うの。昔や (は) 餅 搗くぼん 買わな (買わなければ) 言うて 松のぼん。ぼん 二つに割ったり 四つに割ったりすんの (します)。おっきいのおは (大きいのは) 四つに割るし ちっさいのおは (小さいのは) 二つ割ん (わりに) しとくの (しておきます)。ほつそいと (細いと) じっきん燃えてくもんでなあ (すぐに燃えていくので) そんで (それで) 餅搗きん (に) になると ぼん買っておったの (買った

て居たのです)。

なだ (灘) 【名詞】 遠方の広い海 熊野灘 玄海灘の灘はその名残りか (志) [会話] ナダ 沖のナダ言うやんかい (言います)。沖の方を ナダ言うやんかい (言うのです)。沖のとなかで 鉈一丁 捨て 沖のとなか 言うけど ナダ 言うのは 長里隔つとんのおを (しているのを) 渡るのを あのナダ 一つ越えなはざん (越えなければ駄目だ) 言うて 周防灘とか 玄海灘とか あいなのおを (あんなのを) ナダ言うのなあ (言うのです)。遠いとこ (所) の漁場は ナダ言わへん (言いません) 港と港の間な (が) 広いとこ (所) を あのナダ 一つ越えな (越えなければ) 向こおに着かへん (着かない) とか 言うな (言います)。沖の事は となかやとか (だとか) だいなんやとか (だとか) 言うけど、だいなん 言うな (言うのは) 一番沖い (に) 出てくと (出て行くと) まあ だいなんへ 出たなあ言うやんかい (言います)。だいなんを 走って言うて、船な (が) 走るのおを あや (あれ) だいなんを 通つとるない (通っています)。一番沖を 通つとると (通っていると)。

なだい (名代) 【名詞】 名高い事 名に伴う評判 有名人 [会話] ナダイな (が) 通つとる (通っている)、ぬすつとやもんなあ (盗人だから)。あやなあ (彼は) 有名で ナダイな (が) 通つとるやんか (ているでないか) 言うてな。なんにでも 有名な人をなあ、よお (よく) ても、わりい (悪く) ても ナダイな (が) 通つとる人や (だ) 言うてなあ。わり (悪い) 事でも、ええ (よい) 事でも 人の くちはん来るもんなあ (口の端、噂に登ります)。

なたかづく 1) 発芽して二葉になる前の状態 2) 妊娠初期 [会話] 1) 豆な (が) 真ん中から 一本芽な (が) 出て来て 首 によこんと 割れるよおん (ように) しとる (している) 時 ナタカズク、そして 二日ばか (程) すると 新葉な (が) 出て来る。

なたがま (鉈鎌) 【名詞】 普通の鎌より刃が厚く大きい鎌 木の枝などを払うのに用いる (北) [会話] ナタガマ言うな (言うのは) 普通の草刈り鎌より むね (みね、背部) の あついの (厚いのです)。薄刃 (菜切り包丁) と 鉈 の違いで、むねな (が) あつい (厚い)。普通の鎌より おっきいし (大きいし)、はあな (刃が) あつつうて (厚くて) 平くたい (平らで幅が広い)。大きな木を こなす (小さくする) 時、かや (すすき) かいても (掻いても・刈っても) 草刈り鎌やと (だと) じっきん (すぐに) 切れんよおんな

つてくね (切れないようになっていくのです)。ナタガマでどづくんやんかい (叩き切ります)。かやかかく、笹かかく言うて 切るのを かく言うの (言うのです)。かやかかくの ナタガマな (が) いられ (要る) 言うて。

なたねづゆり 【名詞】三月下旬から四月上旬にかけ菜の花が盛りの頃に降る雨 なたねづゆ (鳥) [会話] ナタネヅ 春雨の時な ナタネヅユリン (に) なるわい (なります)。三月頃やなあ (です) ナタネヅリ言うななあ (のは)、長雨な (が) 降ると こやま (これは) ナタネヅリやなあ (だ) 言うて。

なたほおずき 【名詞】ほおずき たんばほおずき参照 [会話] すごほおずき言うのもあるし ナタホオズキ言うのもあるし。

なたまめ 【名詞】豆科 一年性 葉は長柄をもつ三出複葉、小葉は卵状楕円形で長さ10~15cm、夏、葉腋から上部にそり返ってやや垂れる長い総状花序を出し、淡紅色または白色の蝶形花を多数つける。花はやや大形、がくは鐘形で上下二片に裂ける。豆果はかたい莢で平たく弓状に曲り鉤を思わせ、長さ30cm、幅約5cmで10~15ヶの種子を含む。種子は腎臓形で扁平、紅色又は白色でヘソが有る。[会話] 味噌漬ん (に) すると 美味しいのなあ (のです) ナタマメを。ナタマメは どいろお (大変) 鈍みたよん (のように) なるもんで (ので) ナタマメ言うて、そのみい (実) も どいらいんけど (大きいのだが) 油濃いて (くて) うまない (旨くない)。垣い下がねなしん (下がるのでなくて) はわせん (匍わない) ナタマメな (が) 有ってなあ それの 若いの (のを) 切って 味噌漬ん (に) すると 旨いの (のです)。福神漬や なんか (かなにかに) 皆 きぞて (刻んで) 入っとる やんない (入っているでしょう)、そやけど (しかし) 垣い 下がんのはなあ (下がるのは) こおおてな (堅くて) かあな (皮が) 鈍みたよんなるやんない (のようになります) どいろお (大変) かあなこわい ね (皮が堅いのです)。

なだめすかす 【他サ五】一生懸命になだめる 機嫌をとる 言い聞かす (志 (布施田))

なだら 【形容詞】表面の凹凸 なめらかなさま (志 (布施田)) [会話] ナダラ 直さな (なれば) 言うて、ナダラな (が) わりいて (悪くて) 言うて でこぼこ しとるなあ (していると) ナダラ 直したらなはざん われ (てやらなければ駄目だ) 言うて、すべとせえ (平にしなさい) 言うの ナダラ 直せ言う。地盤じ よおろくんせえ (平坦にしなさい) 言うのなあ (で

す)。

なちいさんうつ 下痢する [会話] 腹下し、腹の調子 な (が) わりいて (悪くて) 那智いさんやよお (だ) 言うて くだらくや (普陀楽だ)、腹具合な (が) わりいて 今日は ナチサンウツタヨオ (参詣した) 言うて。

なついん 【名詞】夏犬 荒い息をする [会話] くぼな (が) おつきいと (大きいと) 一くぼ 掲ぐのも あはあ言うて ナツインな (が) 来たよおん (ように) 言うて。

なつおび (夏帯) 【名詞】一重帯 夏季に使用する帯[会話] 一重の帯を ナツオビや (だ) 言うしだ (言います)。細でも 帷子すんの (するのを) ナツオビや (だ) 言うて (言つて) うっすい (薄い) 生地。ナツオビや言うな (と言うのは) あつつないよ おん (暑くないように) 冬みたいに あんまり (あんまり) あつつうせんと (厚くせずに) 薄地の細の帯や、はっかた (博多) みたいな あいな (あんな) 一重帯んのおを (ののを) ナツオビや言うけどなあ (と言います)。はっかたやどきや (博多などは) 夏でも冬でも するけどなあ (します)。一重帯をなあ 細やどけや (などは) 丸になつとるけどなあ (なっています) あれはナツオビになつとるよつて なあ (なっているから)。丸になつとる (なっている) 言うのは 丸帯やとか (だとか) 名古屋帯とか になつとる。丸帯言うのは 裏も表も そつぼりして (すつぼり、そのまま) あるのを 丸帯言うんなあ (言います)。名古屋帯言うのは ちよいと (少し) 手の方だけ 半巾にして 太鼓のどこ (所) だけ 帯の幅にするけど (します) 丸帯言うな (言うのは) 結婚式や 祝いの時 おつきいのお (大きいのを) するやんない (でしょう)。あいなの (あんなのを) 丸帯言うの。

なつかし 【形容詞】懐かしい [会話] ナツカシの メロデエイ 懐かしい言わんと (言わずに) ナツカシなあ言うて。

なつがし 【名詞】夏に食べる菓子 かき氷 アイスクリーム等 [会話] 水菓子みたよなのおな (のような) 有るやんない (有ります) 水羊羹やとか (だとか) 有るやんない。落雁の固めたのも ナツガシ言うやんない (言うでしょう)。

なつかしがりや 【名詞】人恋しがる人 人懐こい人 [会話] 話 しよお (しよう) 言うて、人懐こおてな あ (こくて) ナツカシガリヤで あや (彼) 人な

(が) 行くと 放させんね (放さないのだ) 言うてなあ。

なつかしがる (懐) 【他ラ五】 しきりに懐かしそうにする [会話] ナツカシガッテ まあ言うて、ひとなつこおて (人懐こくて) 逢うと 放さんと (さずに) ナツカシガッテ まあ 話 その おおい (尾に) 付き その おおい (後に) 付き言うてくんのなあ (来るのです)、人懐こおて (こくて) 行くと さいご (その時) 話してまあ言うてなあ。

なつかぜ 【名詞】 夏に引く風邪 [会話] ナツカゼ 治りのくうて (にくくて) 言うてなあ、ぬくとおよおしとらんで (温かくしていないで) するもんでやるなあ (のででしょう)。冬なら布団え 入ってぬくとお寝とれ (温かく寝ておれ) 言うて よお寝とるけど (よく寝ているが)、夏は そいな (そんな) わけん (に) 行かせんもんで (ないので)、治りのくい (にくい) 言うんやわいなあ (言うのです)。

なつかなか 【副詞】 なかなか 大変 (志、北)

なつがれ 【名詞】 夏に水が涸れる事 転じて貯えの無くなる事にも言う

なつく (懐) 【自カ五】 馴れて付き親しむ 馴れ親しむ [会話] よお (よく) ナツクなあ言う、子供らな (が) 慣れる事を ナツク言うのなあ (です)。あしこ (あすこ) の いんな (犬が) ほん (本当に) なつかんで (なつかなくて) おらな (俺が) 行くと 吠えて言うて、して (そうして) おら (俺は) ナツイトル もんで (ているので)、おらな (俺が) 行くと 嬉ん どる (嬉んでいる) 言うてなあ。犬な (が) 好きやもんで (なので)。

なつけ (名付) 【名詞】 名を付けること 特に新生児の命名 なあつけ (志、上、名、北) [会話] ナツケ七夜言うてなあ、七日ん (に) になると、なあ (名前) 付けんのなあ (るのです) 七夜に迄 えごと (充分に) しとかなはざんわれ (しておかなければ駄目だ) 言うてなあ、子供の名前を 付けん (る) の 七日経つと 付けるもんで (ので) 七夜言うんやろなあ (言うのででしょう)。七日ん (に) になると ナツケや (だ) 言うて。

なづけ (菜漬) 【名詞】 菜っ葉を漬けた香の物 (多、南)

なつけいわい 【名詞】 命名祝 生後七日目の祝い (桑市、四、松) [会話] 七夜を祝うのなあ (です)。神さんえ 名前書いて 貼って ナツケイワイせんと おって (せずに居て) 言うてなあ、ちよいと (少し)

神さんえ書いて 貼ってすると 気な (が) すめんね けど (すむのだが)、まだ ナツケイワイも せんと おんねのんなあ (せずに居るのに) 言うて。

なつけおや 【名詞】 名付け親 土地の名士などが親に代わって新生児に命名する人 [会話] ナツケオヤ言うて なあ (名) 付けてくれる人をなあ、どいらいええ (大変よい) 名前つけてなあ言うて あの人な (が) 付けてくれたね (くれたのだ) 言うて、それを ナツケオヤや (だ) 言うてなあ。昔や 六月ん (に) 夏に生まれや (れば) なつ 秋ん (に) 生まれや あき、春ん (に) 生まれや (れば) はる言うて まあ いきなりや (そのままです)、よけ (沢山) もおけんねよって (産むのだから) そして 動物の名前 おとらや てら (だとか)、しかやてら、くまやてら 言うてなあ いかついよおん (強いように) おくま言うて つけとけ (付けておけ) 言うて、まあ 動物のなあ (名前) 付けたり、そして 初め 生まれたよってん (から) いち言うて 付けとけ、こんだ (今度は) 二人目 生まれや (だ) 二郎 三番目 三郎言うて なんも (なにも) 世話無いよおん (ように) 四郎や (だ) 五郎や (だ) 言うて 付けてなあ。

なづける 【他カ下一】 1) 名前をつける 名付 2) てなづける 味方に引き入れる 手下にする 馳らす

なつこい 【形容詞】 慣れ親しむ様

なつそお 【名詞】 様子 様態 特に顔付き [会話] ナツソオな (が) わりなあ (悪い) 言うて、そおげ (総毛) 立ったよお 肩立てたよおんしとると (ようにしている)、あの人 ナツソオな (が) わりなあ 言うて。羽根たらしたよおに しとるなあ (している) 言うて。あやまあ (彼は) 鳥な (が) 羽根たらしたよおんしとて (ようにして) ナツソオな (が) わりなあ 言うて、格好な (が) わりとさいご (悪いとその時) そげん言うんやんかい (そんなに言います)。あやまあ (彼は) 病揚げ句 (病み上がり) で ナツソオな (が) わりなあ とか。顔色な (が) わり のおを (のを) ナツソオな (が) わり。着るもん (物) も あんまり (あまり) わりなりしとると (悪い格好している) おおた (あれあれ) ナツソオな わりなあ、ふうのおも (格好のも) ナツソオな (が) わりなあ。顔の色も 青白いよおな 人を見ると おおた (ああ) あの人 ナツソオな (が) わりなあ 病気な (が) 出とんねなあ (出て居るのだなあ)。

なつたね どうしたのだ (志)

なつたら 【副詞】 何とか 変に なつたらする なつち

やらしてく 参照 (志 (鶴方、神明、立神、国府)、一、度) [会話] ナツタラしてくねやったんよお (して行くのだった) 足な (が) 痛とおて (痛くて)、ナツタラしてく (して行く) 言うしなあ、今日はまあ頭な (が) やめて (痛くて) なつちやらしてくよおなよお (なんとかして行くようだ) 言うてなあ。おおたなつちやらしてくよおなかつたない (して行くようだ) おとっしや言うてなあ。

なつたらかつたら。なつたらかんたら 【副詞】 1) どうにか こおにか (志 (布施田)、一) 2) いろいろ [会話] 2) ナツタラカンタラばっか (ばかり) 言うて、病気しとてなあ (していても) ナツタラカンタラばっか 有つて言うてするし、1) 仕事 ごとごとしとてなあ (うるうるしていても) ナツチャラカッチャラばっかしとてまあ (ばかりしていて) 言うしなあ。

なつたらかつたらして どうにかこうにかして、やっと (一)

なつたらしてく 1) 変になりそうだ 何とかなつていく 2) 間違つた [会話] 1) おおたまあ (ああ) 今日は 具合な (が) わりいて (悪くて) ナツタラシテク、頭な (が) やめて (痛んで) ナツタラシテクよおな (だ) 言うて。てえな (手が) いとおて (痛くて) ナツタラシテクよおな (だ) とか、ナツチャラあるよおなてやら (とか)、何故か わり (悪い) 時も そげん (そんなに) 言うし なんか (何か) 仕事な (が) はかばかしく いかんでも (いかなくても) ナツチャラシテ まあ こや (これは) 言う時もあるわい (あります)。2) まちごた (間違つた) 時も ナツタラシタタ (してしまった) 言うの。ナツチャラシタテ (してしまった) まあ こや (これは) 言うて。仕事を どん (下手・失敗) に したた (してしまった) 事も なんやら (何か) 変な事したると (してやると) ナツチャラ おかしな (変な) 事したたよお。

なつたらすると どうにかすると (志 (立神)、久) [会話] ナツタラスルト こげん (こんなに) 言うて来る時な (が) あんなあ (有ります)。ナツチャラこげん (こんなに) して来る時な (が) 有るやんかい (有ります)、てえ (手) も つつてくない (引きついついてく) 言うてなあ。ナツチャラ言うたり ナツタラ言うたり ナツチャラシテ来たよお (来ました)。

なつたんど。なつたんどい どうしたのですか
…なつたんよお (…よう) になりました [用例] 足なイトナツタンヨオ (痛くなりました)。

なつちやかつちや。なつちやかつちやら。なつちやらか

つちやら 1) どうにかこうにか なんとかかんとか
2) 色々と ああだこうだ [会話] 1) ごんぞ (岩の下の鮎) 採るもな (者は) ナツチャカッチャやして採るわい (採ります)。なんとかかとか工夫して。

なつちやらしてく なつたらしてくと同じ 変になる
なつちやらすると どうにかすると なんとかすると [会話] ほっぽ ほっぽ言うて 鳴いといて (鳴いておいで)、ナツチャラスルト 後で ごろつきとおせ 言う時もあるし。

なつちゆう 何と言う (志、鳥、桑市、安、松、度、伊) [用例] 親に向かつてナツチュウ事 言うんど (言うのだ)。

なつづくり 【名詞】 夏季に収穫する畑の作物 なつもの 参照 [会話] 小豆や、ささげや、大豆や、唐黍や、粟や そいなもん (そんなもの) ナツヅクリ。

なつて 何故 どうして (志、鳥) [用例] ナツテ 怒んねどい (怒るのですか)。

なつてえ どおして 何故 (志)

なつてく。なつてくね なつていく

なつてた。なつてたない なつて行った (志)

なつてて なつていつて なつてしまつて [会話] まあなあ こげん (こんなに) ナツテテ、おた ひまのかあやれ (大変だ) せんぎり (よく) 働きよおつたのおな (働いて居たのが) なんも (全く) よおせんよおん (出来ないように) ナツテテ まあ言うて。

なつと 【名詞】 納豆 なつとりの末尾母音の省略

なつと 【副詞】 何と なつと なにとの転 なんとに同じ (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀)、鳥、桑市、員、鈴市、津、一、松、上、張、名、度、伊) [会話] ナツとすんねど (するのだ) こや (これは) 言うて、仕事すんのも (するの) どおするのですか言うのを ナツとすんねど こや ナツとすんねやら (するの) わけや (わけは) 判らせんわれ (ない) 言うてなあ。なとすんねど (なんとするの)、なあ (お前は) なとしとんねど (しているのか) なにかしとる (している) 事を あんた 何してますか言うの なあ (お前) なんしとんど (何しているか) なつちやらかつちやらしとられ (何か彼かしている)、ナツト言うたてて (なんと言つても) なつちやらかつちやらしとられ ごとごとしとられ 言うて。

なつとあるやい どうとも無い 何ともない (志 (布施田))

なつとあるどれ 1) 何とも無い 2) 何程の事でない
3) 心配いらぬ

なつとええ 1) 何ですか 何と言う事ですか 聞き返しの言葉 2) 何だと (志 (片田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府)) [会話] 2) おかしな (変な) 事言うと、そや (それは) ナットエエ言うて。1) なつと 言うんどい (何と言うのですか) そや (それは)、ナットエエ言うて いっぺん (一度) 言うて 判らん (判らない) 時は 聞き返す時な (に) ナットエエ言うて 聞き返すの。そや なつと 言う事ど (だ) それは何ですか。

なつとか 何とか どうにか

なつとかかつとか 1) どうにかこうにか 何とかして 2) 困難ではあるが一つの事が成るさまを表す[会話] 1) ナットカカットカして 食うてかれ (食べて行く)。ナットカカットカして 生活が出来る。

なつとかつと 1) どうにかこうにか 2) いろいろと
なつとくづく (なつとくづく) (納得尽) 【名詞】 なつとくづくみ 合意の上で、二つ以上の意思表示が合致する事 [会話] ナットクズクで これを こおて (買って) 来たとか、納得言うな (言うのは) 得心 (承知) する言う事やけど (です)。ナットクズクでした事やつたのん (だったのに) 言う事な (が) あるやんかい (あります)。まあ 承知して した事やのん (なの) に 後で ごちゃごちゃ言うたてて (言っても) あの時 ナットクズミやつたのん 言うて、後で ごちゃごちゃした時ん (に) あの時 納得した事やのん 言うて、話がついたのおに (の) に 後で なつと (なんと) ごちゃごちゃ言うど (言うのだ)。

なつとした どうした 何とした (鳥 (加茂))

なつとしたたんど。なつとしたたんどい 何としましたか どうしたのですか [会話] ナットシタタンド こや (これは) まつながしたたやんかあ (もつれさせてしまったでないか) 網も 言うてなあ、なんやかや (いろいろ) 下手な事な (が) して有るとなあ こや (これは) ナットシタタンド こやまあ (これは) 言うてなあ、変な事したた (してしまった) 時ん (に)。

なつとしたたんど 1) どうしたのですか 2) 何をしましたのか [会話] 1) ナットシタタンド こや (これは) 皆 うちゃれとるやんかあ (壊れているでないか) 言うて、どおしたん (の) ですか言うのを、病気の時でも 急に 病気になると まめなかつたのん (健康で有ったのに) こや、ナットシタタンド こや どいらい (大変) 弱つたやんかあ (で行ったでないか) 言うてなあ。

なつとしたたんどい どうしたのですか (鳥 (加茂)) [会話] こや (これは) ナットシタタンドイ。わり (悪

い) 事したると (してやると) こや ナットシタタンドイ まちごとのやんか (間違っています) 言う時も使うし、何か判らん (判らない) 時 こや (これは) なつとすんねど (何としますのですか)。こや なつとしたたんど ナットシタタンドイ 妙な (変な) 事 しとるやんか (しているではないか)。妙な事 しとるやんか こや などしたたんど。そや (それは) こげん (こんなに) したねわれ (したのです) そげん (そんなに) したら はざんわれ (駄目だ)。などしたたんど言う時と ナットシタタンドイ うなし (同じ) よおな事やけど (だが) 言いよおな (言い方が)。などしたたんどとか なと (何と) すると ええんどお (いいのですか) とか、物を 尋ねる時ん (に) 使う言葉やけど (です)。こや なと するとええんど 言うたり、ナットシタタンド言うて 人に わがと (自分) よお知らん (よく知らない) 人に尋ねる時に、なとすると ええんどい とか言うて。

なつとして 1) 何故に (志 (浜島)) 2) どの様にして

なつとしても どうしても どんなににしても (一、松、度) [会話] なと (何と) 考えても よおせんわれ (出来ません)、ナットシテモ よおせんわれ 俺の こて (手) に あわせんわれ (合いません)。

なつとしとんね。なつとしとんねどい 何をしていますのですか [会話] ナットシタタンドイ言うの どげん しとんねどい (どんなにしていますのですか) 言うて。

なつとしよお (…しやう) どうしよう

なつとしよおと どうしよう

なつとする どうする

なつとするやあか どうしたらよいだろう

なつとするやい どうにも出来ない

なつとすんね 1) どのようにするのか 2) 何をするのか

なつとすんねど。なつとすんねどい 1) どうするのですか 2) 何をしますのですか [会話] 1) ナットシタタンドイ こや (これは) 言うて なんやかやすんのを (いろいろするのを) よお 知らん時に 問う時に こや なつとするとええんどい (どうするとよいのですか) 言うたりなあ、ナットシタタンドイたら (とか) 言うてなあ。どげんすると ええんどい 言うてなあ、どおしたら いいのですか言う事をなあ、なつとしたら ええんどい、なつとすると ええんどい とかなあ。ナットシタタンドイ言うのは 尋ねる。これは どおすんですか (どうするのですか) 言う事。こや (こ

れは ナットスンネドイ そや (それは) こげんすん
ねやんかあ (こんなにするのです) 教える時は こや
(これは) こげんしてすや (こんなんしてすれば) え
えやんかい (よろしいです) 言うし、問う時は なと
すんねど こや 言うて。なつとでもしとかんかれ
(何とでもしておきなさい) 言うて。

なつとすんのど 1) どうするのですか 2) 何をす
るのだ [会話] 1) どおするのですか言うのを ナット
スンノド こや (これは)。

なつとぞ【副詞】何とかして なにとぞ 何卒 相手に
対して強く願望む気持ちを表す どうか なんとか
どうにかして なんとかして (志、鳥、鈴市) [会話]
ナットゾしてくれまあ (して下さい) これを言うて、
これ 何とかして下さい言うを ナットゾしてくれ言
うの (言うのです)。ナットゾしてくれ これを わ
がと (自分) よおせん (出来ない) 時に 相手の人ん
(に) 相談するよおなもんやわい (助けを求めるもの
です)。ナットゾしてくれ こやまあ (これは) なつ
と (どのように) するとええんど (よろしいか)、わ
がと (自分) よお判断せん (判断できない) 困っ
た時ん (に)。ナットゾ これしてくれまあ (して下
さい) おや (俺は) なつとしても (どうしても) よお
せんわれ (出来ません) なつとするとええんかいなあ
(どうするとよいのですか) ナットゾしてくれ言うて。
よおせんと しゃじ (匙) 投げると なつとなとしと
け (しておけ) 言うて。なつとなと言うな (どのよう
にでも言うのは) 好き勝手に どんげんでもしとけ
なつとでもなるよおんしとけ (ようにしておけ) 言う
て。

なつとぞして 何とかして どうにかして (志、鳥 (鳥
羽))

なつとぞしてくれ 何とかして下さい なつとぞ参照

なつとて なっていて 1) 決まっています 2) なって
いて (果実などが結実しています)

なつとでも どうにでも 思うように

なつとなあ 1) 何ですか 疑い 再度聞き返す時
2) 何を言うのか 何と言う事だ

なつとなど どうなりとも なんとしようと 貴方のす
る通り (志 (布施田)) [会話] ナットナトしとかん
かれ (しておきなさい) 言うて よお判断せん (判断
できない) 時 ナットナトしとかんかれ なつとでも
かつとなど (でも) 出来るよおんしとかんかれ (よう
にしておきなさい) 言うて。

なつとなろどれ **なつとなろなれ** どうなるのだ

なつとも【副詞】何とも とも 終助 活用語の終止形
に接続する強い断定を持って言い切る時に使用 (志
(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、桑
市、鈴市、亀、安、一、松、多、度、北、南) [会話]
ナットモ無い 病気もなんもしとらんでも (なにもし
ていなくても) 気持ちのええ (いい) 時 おや (俺
は) ナットモないわれ (無いです・有りません) 今日
は言うね (言うのです)。ナットモせんとおると (せ
ずに居ると) 具合な (が) わりわれ (悪いです) なつ
となとしとらな (なんとでもしていなければ) ナット
モせんとおると さびして (寂しくて) 具合な (が)
わりなつてくれ (悪くなって来る)。

なつともかつとも なんとともかんととも どうにもこうに
も 形容すべきものに思い当たらないさまを表す[会
話] 腹な (が) 立って ナットモカットモ しよお
な (仕方が) 無い程 立つのを おぞげみそげな (総
毛が) よだつわれ (立つ)。

なつともない なんとともない

なつともならへん **なつともならん** 1) 堪えられない
2) どうにもならない 手も足もでない (志 (国府、
浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、安乗)) [会
話] 1) ナットモナラヘン (ならない)。なつとたとせ
な (何とかしなければ) なつともならせんわれ (なり
ません) 退屈で言うやんかい (言います)。

なつともねえ なんとともない [会話] **なつとも** (少し
も、何とも) 具合なわりないのを (調子が悪くないの
を) どっこもわりない (どっこも悪くない) 言うのを、
ナットモネエ 言うて 体な (が) まめな (健康な)
時を ナットモネエワレ (有りません)。

なつとやあ なんですか なんだと [会話] **強お聞く**
な (強く聞くのは) ナットヤア言うて。

なつとやら なんとか

なつとやらしてく 体の調子が変わる

なつとゆう 何と言う (志 (布施田))

なつとゆうことど 何と言う事だ [用例] 親に向かっ
て そや (それは) ナットユウコトド。

なつとよお 1) 何だと 2) 何ですか (志、鳥 (鳥
羽)、松、度、伊)

なつとる 1) 決まって居る 2) 果実などがなってい
る

なつなか (夏中)【名詞】夏の最中 (志 (布施田)) [会
話] 舟たでや (だ) 言うて、ナツナカん (に) なる
と 舟 引き上げといて (ておいて) 横倒しん (に)
して 底こすつといて (こすつておいて) ぜんぼ (ふ

じつぽ) や、のり (海苔) 落として しだ (柴木) こおて (買って) 来て 舟を焚く。

なつなり (夏成) 【名詞】 夏に成熟する野菜、果実

なつば (夏場) 【名詞】 夏の間 夏季 夏の頃 (志 (布施田)) [会話] ナツバだけ どこそこい (へ) 行て (行つて) 来る、働きに言うてなあ。夏のうち (間) 言うのをなあ ナツバだけ 出稼ぎん (に) 行てこな (行つて来なければ) 此処でや (では) なんも (少しも) 稼ぐとこな (所が) 無いし言う様な時んなあ (に)。ナツバだけ言うて 夏の間だけ 何処其処い (へ) 行て (行つて) 来るとか、養生に 行て 来るとか言うてなあ。

なつばい 【名詞】 具合 様子 たつばい、なつそお参照 [会話] ナツパイとか、たつばい (格好) とか言うの (のです)。ナツパイな (が) わり (悪い) とか、たつばい 見よまあやてやら (見なさいだとか)、おかしなふうしとると (変な格好している)。

なつぶんあま 【名詞】 下手な海女 [会話] ナツブンアマ、いかん (いけない) 海女や (です)。なんもよお採らん (少しも採れない) なつぶん言うな (言うのは) はざん (駄目) 言うの (のです)。

なつまけ (夏負) 【名詞】 夏の暑さのために体が衰弱すること [会話] ナツマケ言うて、なつやみ言よおつたなあ (言つて居ました)。夏ん (に) なつて来ると瘦せて まあ あやれ (あれ) なつやみやなあ (だ) 言うて、夏の暑いおに (のに) よおしのがんとなあ (よく耐えられなくて) ぐたんとしとる (している) 人なあ、夏の暑いおに (のに) 弱い人なあ (です)、暑い しんぼよおせん (辛抱出来ない) 人ら ナツマケして まあ あやれ (あれ) 言うてな。なつかし屋の飴な (が) ちっちゃお (小さく) なつても、なつやみしたか なつかしや 言うて 今しや (今は) ちっそお (小さく) なつたやんない (でしょう) 昔や (は) おっき (大きい) かつたのんなあ (のに)。

なつまめ (夏豆) 【名詞】 大豆 あげまめ (畔豆) (志、鈴市) [会話] ナツマメ言うのは 大豆の事、ナツマメ。畔豆も (田の畔で大豆を作るので) 一緒やんかい (です)。“ナツマメいれてさますところ” 言うて。

なつむし 【名詞】 毛嚢炎 特に夏に出来る、赤く腫れて毛嚢部が化膿する (志 (甲賀)) [会話] ナツムシな (が) 出来て言うてなあ、ばあすな 出来るとなあ、やいこい (柔らかい) ふわふわみたよななあ (のような) ぴかぴか 光つて なあ (ていて) ばあすや

(だ) 言うて できもんやけど (出来物だが) また違うのなあ (です)。ナツムシ。なつももやら (とか) 言わへんかい (言いませんか)、なつももみたよんなけど (のようなのですが) ナツムシや (だ) 言よおつたなあ (言っていました)。ナツムシな (が) 出来て言うて やいこい やんかな (柔らかいです)。ねぶとはなあ こつこつしとてなあ (していて)、ばあすはなあ ふわふわしとんのなあ (しているのです) 口な (が) 真ん中ん (に) 有つて なあ まるくとお (丸く) なつてな、こ ぶわんと なあ やいこお (柔らかく) なつてなあ しとよおつたなあ (して居ました) ばあす 言うなあ。ばあすな (が) 出来るにげや (人間) また 特別 あんで (あれで) 毒な (が) 有る言うやんかな (言うでは有りませんか) なんやら知らんけどなあ (なにか知らないが) 毎年 そげんして (そんなに) 出来んねてや (出来るのです)。

なつもも (夏桃) 【名詞】 1) 水蜜桃 (志 (神明、甲賀)) 2) 夏に出来る出来物 [会話] 1) 水蜜桃の事を ナツモモや (と) 言いおつた (言っていました)。水蜜桃とナツモモは 違うのなあ (のです) ちっちゃおて (小さくて) 梅より ちよいとおつきいて (少し大きくて) そげん (そんなに) おつきいならへんのなあ (大きくならないのです) やね桃や (だ) 言うて。水蜜桃 言うのは ぶあぶあつと おつきなつて (大きくなって) 来るし、ナツモモ は そいなに (そんなに) おつきいならへんわい (大きくなりません)。昔や (は) 水蜜桃や (だ) 言うて そいななあ (そんなのは) 無いし、ナツモモ を食いおつたけど (食べて居たが) 今しの (今の) 水蜜桃 みたいな やいこい (柔らかい) 水水したもんやないし (ものでありません)。やねもも言うのは おつきいならんと (大きくならず) 熟して 来ても かつたいの (固いのです)、こや (これは) やね桃やれ (だ) そいな きい (そんな木) は 切つたれまあ (切つてやれ) 言うて、きいな (木が) 違うと そいなのおな (そんなのが) 有るんてや (有るのです)。ナツモモ 取て (取つて) 来て 食おやんかい (食べましょう) 油みたいのおが (のようなのが) じゅぶじゅぶして 来て 松のじん (樹脂) みたいなおな (のが) 出て来て そやもんで (それだから) やに桃 言うね (言うのです)。やにな (が) 出て来るもんで (ので) やに桃 やなあ (です)。²⁾ 頭や どこやへ (何処かへ) ナツモモ が出来た言いおつたやんかい (言つて居たで有りませんか)。おつきなのおな (大きなのが) 出来て来ると キーンと 光つて

ばあすやてやお(です)。ばあす ナツモモを ばあすや(と) 言いおったの(言ってるたのです)。ナツモモが出来て あや(あれは) 桃みたいん(のように) 桃ぐらいやったもんで(だったので) あげん言うんやろ(あんなに言うのでしょうか) 出来もん(物)を。

なつもん(夏物)【名詞】 1) 夏季に取り入れる農作物の総称(志(布施田)) 2) 夏にできる出来物 毛嚢炎 3) 夏季に着る衣類 [会話] 2) 夏物言うの(のは) 出来もんもな。ナツモン。3) 着るもんやとか(物だとか) 畑のもん(物)でも 夏にできるもん(物)を ナツモンや(だ)言うて。1) ナツモン畑に 入って言うて 豆や なんや(なにか) 植えてあると ナツモン畑も えごつとせんとおる(充分にせぜにいる)と 言うて。小豆や(だとか) ささげや言うて なつとるもんを(なっているものを) ナツモン畑や(だ) 言うて。小豆や ささげや大豆や 唐黍や粟も そいなもん(そんなもの) なつづくり 言うて なつづくりな(が) 豊年で言うて。

なつもんばだけ【名詞】 夏に収穫する作物を作っている畑 なつもん参照 [会話] 畑のもん(物)でも 夏に出来るもん(物)を なつもんや(夏物と) 言うて 豆や なんか 植えてあると ナツモンバタケも えごつとせんと(よいようにせぜにいる) 言うて。

なつやせ(夏瘦)【名詞】 夏の暑さのため体が衰弱して瘦せること

なつやみ(夏病)【名詞】 夏の暑さに耐えられず、体力を消耗すること [会話] 夏の暑いおに(のに) 弱い人なあ(です)。暑いしんぼよおせん(辛抱出来ない) 人らなあ(です) ナツヤミしてまあ あやれ(あれ) 言うてなあ。

なてかい【形容詞】 大きい(志) [会話] ナテカイ言うのは どえらい(大きい) のを言うの(のです)。腹な(が) どいらいのおを(大きいのを) ナテカイ。

なでがた(撫肩)【名詞】 撫でおろした様な、なだらかな肩(志(布施田))

なてちい【形容詞】 大きい [会話] なてかいなあ 言う人もおんなあ(居ます)、男の人らなあ(が) ナテチイおなあ(のだ) 言う人も有るし おお ナテチイなあ 言う人も有るやんかい(有るで有りませんか)。

なでまあす(なでまわす、なでまはす)【他サ五】 盛んに撫でる なでまわす [会話] ナデマアス(まわす) 言うて、どこもかも ナデマアスやんかあ(でないか) 言うてなあ あやまあ(彼は) すそばり(恥漢) でなあ どこもかも ナデマアス 誰もかも ナ

デマアス 言うてなあ すそばりや(だ) 言うて。

なでまくる(撫捲)【他ラ五】 盛んにさわる

…なてや するな な 禁止 てや 命令(志) [会話] 行くナテヤ そいなどこい(そんな所に)、そこへ いたらはざんねてや(行ったら駄目なのだ) 言うたり、そげん(そんなに)したら はざんねてや(駄目だ) 言うて、子供ら(達) わるう(叱る) 時でも そげなとこ(そんな所) 登ったら はざんてや(駄目だ)。

など どのように(志、鳥、伊) [会話] ナトするとえんかいなあ(よいのですか)。

など【副助詞】 1) はっきり限定しないで、だいたいのところの意味を表す なりと でも(志(布施田)、員、津、一、伊賀地方、北) 2) それと限る意を表す [会話] 2) 柿ナト食えまあえ(食べなさい) 芋ナト食えまあえ 言うて なんも(何も) 無いし いもんにやげ ナト(芋の炊いたものでも) 食えまあえ とか なんナト食えまあえ(何でも食べなさい) なんもねえ(何も無い) けど、なんナト 食えまあえ 言うて。1) よばれても(招待を受けても) いろいろなもん な(物) があると なんナト食わんかい(食べなさい) なんナトつまめまあえ(つまみなさい) 言うて。なんナト 言うな(言うのは) なんでも なんでも有るもん(物) どれでもとか言うの(言うのを) なんナト食えええ(食べなさい)。なんナト 食べてけえ(食べていきなさい) 言うて どくなもなねえ(ろくな物はない) けど なんナト食てくれえ(食べて下さい)、芋ナト食わんかれ(食べなさい) 言うのは 芋やけど(だが) 食てくれえ こげなもん(こんな物) でも 言うて 食べてもらうのに 卑下する時 こげなもん ナト 言うて 付けんのなあ(付けるのです)。

などした どうした(志(立神)) [会話] 足 診てもらいんいた(に行った) 時、あんた(貴女) てえ(手) ナトシタンや(のだ) 言うもんで(ので) 袂で挟さんだね(のだ) 言うた(言った)。

などしたたんど。などしたたんどい どうしたのだ [会話] ナトシタタンド こやまあ(これは) 皆 まつのかしとるやんかあてやら(もつれさせているでないかとか) うちやれとるやんかあてやら(壊れているでないかとか) 皆 まけとるやんかあ(こぼしているでないか) ナトシタタンド こや(これは) 言うてなあ、そすと 大きい人らに言うと ナトシタタンドイ 言うのなあ(です) どい 言うのは てえねん(丁寧) な 言葉なあ(です)。

などしたてて どうしても

などしたんど どうした どおしたのか

などしたんどい どうしましたか

などして 何故に(志(志島、立神、国府) [会話] ナトシテ そいな (そんな) 事言うんできてやら (言うのかとか)。ナトシテ こいな (こんな) 事したんど (したのか) 言う事もあるしなあ (あります)。下手な事したると (してやると)。なんで (何故) こいな (こんな) 事したたんど (してしまったのか) 言うのを、ナトシテ こいな 事したたんど。

などしても 是非 どうしても(志(国府、鶴方、神明、立神)) [会話] ナトシテモ出来やせんね (出来ない)、ナトシテモはざん (駄目だ)、仕事よおせんと (出来ない)と おや (俺は) ナトシテモ出来やせんない (出来ないのだ) なとすとええんかいなあ (どのようにいいのですか) とか、なつとしても、なと (どのように) 考えても よおせんわれ なつとしても よおせんわれ (出来ません) 俺のこてに (挺・手) あわせんわれ (合いません)。ナトシテモ 俺げ (俺家) そんな (それが) 一つ 欲しんてや (欲しいのです) 言う時もあるなあ (あります)。それ 分けて貰えやしえんかい (譲って貰えませんか) 言うのを、ナトシテモ そんな欲しね (それが欲しいのです) いりよおやけど (必要だが) 言う時、どおしても欲しんやんかい (欲しいのです) 言うて。

などしとんね。などしとんねどい 1) なんとしていますか どうしていますか 2) 何をしていますか [会話] 2) 何をしていますか言うのを ナトシトンネドイ言うて。

などしよお なんとしましよ どのおしましよか [会話] 今日は やめとくか (ておくか) ナトシヨオ言うてなあ。

…など、しよお でもします [用例] 手芸ナト ショオ

などとする 1) どうする どのようにする 2) 何をする [会話] 1) 教える時は こや (これは) こんげん (こんなに) してすやええやんかい (すればいいのだ) 言うし、問う時は ナトスル 言うて。

…など、する でも する 話しナト、スル

などするやあか。などするやか。などするやかなあ どうしましよ 困った 恐縮の意を表す

などするやい 1) どうするのか どうしたらよいのか 2) 手のほどこし様が無い 出来ないのだ(志(布施田))

などすんどお どうしますか [会話] まあ いくど

そや (それ) はよ (早く) のお (お前) は、ナトスンドオ、おら (俺は) いくどお 言うて。おや (俺は) まあ 行くねな (行くのだ) なあ (お前) ナトスンドオ 居るか。

などすんね。などすんねど 1) 何をするのだ 2) どおするのだ [会話] 1) ナトスンネ言うてなあ、わり (悪い) 事して来た時んなあ (に) なんとと言う事をするんや (のだ) 言う事。

などすんねどい どうするのですか

などすんのど 1) どうするのだ 2) 何をするのだ

などすんのどい どおするのですか

などなあ 何と言う事ですか 驚いた時(志、鳥、松、伊)

なとり(名取り)【名詞】名高い事 評判が高いこと[会話] 酒呑みで 看板売つとんねよつて (売っているのだから) ナトリヤレ (だ) 言うなあ (言います)。看板なあ。なあ (名前) 売つとんねよつて、あや (彼は) 酒呑みの看板 売つとんねやれ (売っているのだ)。酒呑みで ものすごお (大変) 酒食いやでえ (だ) 大酒食いやでえ (です) 言うのやなあ (言うのです)。

などる【他ラ五】1) 物の上から複写する えどる 2) 真似をする 3) 復習する

なな(数詞)七 ツングース方言 n a d a の借用転音 (広辞苑) (志(布施田))

ななくら【名詞】七度 [会話] 七回言うのを ナナクラ言うのなあ (です)。ナナクラめ言うてなあ、ナナクラも 呼びんいても (に行っても) きやせんねない (来ないのだ) 言うてなあ、七度半の使い言うて ナナクラ行てなあ 途中で 逢うの (のを) 七度半の使い言うのなしなあ (です)。

ななこ(魚子)【名詞】一種の織法の絹布 ななこおり ななこ、魚子 斜子 鯛子 七子 魚の卵の意 調金板法上の一 金属の表面に魚卵状の小さな粒が一面に並んだように突起させたもの 魚子織 二本乃至数本宛引き揃えて並べた縦糸に同数の横糸を打ち込んで織った変わり平織物 織り目は籠目のような外観を持つ。特に絹糸でも細かく織ったものを言う場合が多く、羽織地 帯地に用いる(員) [会話] 織りもん (物) ナナコオリ。ナナコ、銘仙より ナナコは やいこおて ええのなあ (柔らかくてよいのです) ふわふわと 手触りな (が) ええのなあ。ナナコやてや (と言うのは)、こおき織り (高貴織り) 言うて 高級品やつた けど (でした)。ナナコ言うな (言うのは) 手触りな

(が) どいらいよおて (大変よくて) ナナコの羽織や
(だ) 言うて 紋付きん (に) しいおったわい (して
居ました)。

ななこいれこ 【名詞】 七段重ねの木製漆塗りの四角な容
器 大小有り、使用しない時は一番大きいのに全部収
納出来る [会話] 四角な塗ったのおを (のを) 七つ
重ねて おっきいのお (大きい) から だんだんと
七つ重ねるのを ナナコイレコ。常 (普段) は 七つ
重ねといて (重ねておいて) 蓋しとくと (しておく
と) 邪魔にならせん (なりません)。

ななさらくうてさめくさい 【俚諺】 美味しいものでも充分
に食べればまずくなる (志) [会話] 鮫なます ナナ
サラクウテサメクサイ 言うて 美味しいもんで (ので)
鮫臭いも なんも言わんと (なにも言わずに) ほぼり
込んで (一生懸命に食べて) 七皿も食うたや (食べた
ら) たんのして (堪能・あきあきして) 来て 鮫のか
ざな (匂いが) して、ナナサラクウタヤ (食べた
ら) サメクサイ 言うて。

ななつ 【名詞】 七

ななつ。ななつあがり 【名詞】 一月一日以降四月一日迄
に生まれた子供が小学校に入学する事 数え年七歳の
ため、普通は数え年八歳で入学する [会話] ナナツ
アガリは 早生まれ 八つな (が) 遅生まれ。

ななついれこ 【名詞】 ななこいれこと同じ

ななつさがり 【名詞】 夕方、夕方過ぎ [会話] 昔や
なんでも ナナツサガリ 言うて 夕方の事なあ。

ななつちゃ (七茶) 【名詞】 夕方に飲む茶 [会話] ナ
ナツチャくろて (飲んで) しょんべたれんど (小便す
るぞ) 言うてなあ、ねしょんべ (寝小便) たれる子ら
ん (に) そげん (そんなに) 言うて わるよおった
(叱って居ました)。夕方ん (に) 飲む ちゃあ
(茶) を、ナナツチャや (だ) 言う。暮れ六つで も
お いっとき 後で飲むちゃあ (茶) を ナナツチャ
六つすんで 七時ん (に) なんのを 七つなあ (で
す) 夕方に 降ってくる雨をなあ ななつ下りに 降
り出す雨は 降りこそせえ (すれ) 止めはせん (しな
い) 言うて、めつたん止ません (絶対やみません) な
なつ 下りん (に) 降ってこんうちん (来ないうち
に) 早よ (早く) 行かな (なければ) 言よおったの
(言うて居たのです)。

ななつのぼり 【名詞】 数〜年七才で小学校に入学するこ
と、又その子供。一月一日より四月一日迄に生まれて
入学する子供 ななつあがり [会話] がっこいなあ
(学校へ) ナナツノボリ。昔や (は) 八つで 行きお

ったけど (行って居たが) 早生まれなあ (です) 四月
迄ん (に) 生まれるもんなあ (者です)。

ななつぼし (七星) 【名詞】 北斗七星 (志 (浜島)、北)

ななとこ (七所) 【名詞】 七か所 七つの場所 [会話]
ナナトコさられて やつとこせ言う。ナナトコメ言う
やんかい (言います) 七回も結婚して ナナトコさら
れて やつとこせ言うて。ま、ひととこ ふたとこし
て 此処迄 来たや (ら) ナナトコメやよお (だ) 言
うて、仕事すんのも (するの) 言う時 有るけどな
あ (が) ナナトコは 場所が七つ有る。

ななとこがり (七所借) 【名詞】 方々から借り集める事
[会話] あっちゃや (あちらとか) こっちゃ (こち
ら) 借金すんの (するのを) ナナトコガリ。

なななぬか 【名詞】 死後四十九日 (志 (布施田)、鳥)
[会話] さんじゅうごんち (三十五日) すると ナナ
ナヌカ しじゅうくちな (四十九日です)。

なななのか 【名詞】 死後、四十九日 七七日 [会話]
ナナナノカ 言うて 四十九日やなあ (です)。

ななばけ。ななばけのはな。ななばけのはな 【名詞】

七化け 七変化 あじさい (志 (鶴方、神明、立神)、
伊、度) [会話] 狐七変化 狸は八化け あとの猫の
目九化け言うて、皆 化けんのおな好きやもんなあ
(化けるのが好きなのです)。あじさいの花は ナナ
ボケノハナや (と) 言うの (言います)、ナナボケ言
うてなあ 七つも 色な (が) 変わるもんでやろなあ
(からでしょう)。

なにえ。なにええ 1) なんですか 2) なんだと (熊、
尾)

なにかなし (何彼無し) 【副詞】 はっきりした理由もな
く なんとなく 何の彼のと言う事もなく あれこれ
考えないで とにかく (北) [会話] ナニカナシん
(に) 今日 は 体の調子な (が) わりて (悪くて) 言
うて。気持ちな (が) 悪りいて (悪くて) すぐれやへ
んよお (はつきしません) 言うて、気分な (が) わり
時 ナニカナシん (に) 体の調子な (が) わりいて
言うて よお言うやんかい (よく言います)。

なにかにつけて あらゆる事に関連して (志 (布施
田))

なにからなにまで 始めから終り迄、一から十まで

なにくれと 【副詞】 あれこれと いろいろと

なにげなし (何気無) 気付かずに ひょっと 気に止め
ず [会話] はいはい言うて ナニゲナシん (に) 言
うたるけど (言うてやるが)、はいはい言うて ふた
あくらも (二度) 返事したらはざん (駄目だ) 言うて、

怒られおったわい (怒られて居ました)。

なにさま【名詞】 偉ぶって居る人を罵る言葉

なにさまやおもとんね【俚諺】 高慢な人を貶す

なにすんねど。なにすんのど 1) 何ををするのですか

2) 何をするか

なにものやい 1) 誰だ 見知らぬ人に (志 (布施田)) 2) 自慢する人を貶す

なにやぶし【名詞】 浪花節 (安、南)

なにやらかんやら 何か彼か なにとなく

なぬか(七日)【名詞】 初七日 死後七日目 なのかに 同じ (志 (布施田)、熊) [会話] 七日の事 ナスカ、一週間の事を ナスカ。死んでから 七日目 しよナスカ (初七日) の事を ナスカ言うなあ (言います)。生まれた子は 七夜言うし、死んだ人の事を ひとナスカ。

なぬかのつかい(七日の使い) 初七日に墓参を頼みに親類を回ること なぬか なのか、七日 人の死後七日毎に営む法事。特に初七日と最後の七七(四十九日) [会話] 葬式のおりなあ (時です) ナスカノツカイなあ (です)。

なぬかぼん(七日盆)【名詞】 七月七日 盆行事は七月一日から始まるが、仏が家に帰る日で家での盆行事が始まる日 (熊) [会話] 七日の盆 笹舟は むゆか (六日) でなあ そのあしため (翌日) ナスカボン ナスカボンから ちゃあ (茶) 炊いて お茶の接待しよおった (して居ました)。ナスカボン言うと 此の日から 盆の行事が 始まるわけであ、茶屋 建ててなあ 初盆の家な (が) かためん (交代に) 二十日盆迄 ちゃあ (茶) 炊いてなあ みんなん (皆に) 接待しよおった。誰でも ちゃあな (茶が) 飲みたいも な (者) 茶屋い (へ) 行て (行って) ちゃあのおでこ お (茶飲んで来よう) 言うて 飲みん (に) 行きよお ったの (行って居たのです)。

なぬかもひいくすべんでええ【俚諺】 宴の準備から終りの始末まで手伝いして長期間自分の家で食事の用意をしなくてもよい [会話] ごっつおで (御馳走) 親元 や (とか) 兄弟や言うて したごさえ (下準備) てつたい (手伝い) 言うて ほんとん (本当に) ナスカモナア ヒイクスベント (火焚かずに)、そんだい (その代わり) まあ やうちな (家中が) てつとてなあ (手伝って) しよおったの。肥持ちまでしよおったの (して居たのです) 一等親戚は 一週間はよばれよ おったなあ (招待されて居ました)。

なのか(七日) 1) 初七日 死後七日目 2) 七日盆

[会話] 2) 七月むゆか (六日) に 迎えにいて (行って) 明日目 (翌日) ナノカ盆。

なのかのぜん【名詞】 初七日の墓参の人にふるまう食事

[会話] なのかん (初七日に) になると 墓参りん (に) 行くと、つけもん (物) と とふはち (豆腐と葱の吸物) で ナノカノゼンや (だ) 言うの (のです)。とふはちと ささげ ひとつつつとぼして (一つずつ入れて) ささげめしと (ささげの入った御飯、色が黒くなり不祝義使う) つけもん (漬け物) で かあるう (軽く) 食事して。

なのかのつかい【名詞】 初七日の使者 なぬかのつかい 参照

なびかす【他サ五】 名が世間に知れ渡る

なびき(波引)【名詞】 海底の流れ。特に流れの強いこと (志、鳥 (鳥羽)) [会話] 海の底、ナビキな (が) 有る言うけどなあ (言います)。今日は ナビキな (が) 有って 底いごかして (動かして) 言うてなあ。波な (が) して来ると (荒くなると) 引つ張ったり ついて来たりすんのなあ (するのです)、ナビキな (が) 有って。そして ないざ (波打ち際) でも 波な (が) 寄せて来たり 引つ張ってたりすんの (ていったりするのを) ナビキな (が) えらいよって (強いから) 波な (が) おこつてくんねなあ (荒れて来るのだ) 言うて。

なぶら【名詞】 海中の魚群 なむら なぐら 又、魚以外でも群れ集まる事 (志 (越賀、布施田、片田、船越、浜島、志島)、鳥 (全域) 桑郡、度、北、尾、南、熊) [会話] 魚のナブラ。人間も よけ (多く) かたまつて来ると、ナブラで来たない (来ました) 言うて 塊まって (集まって) 来る事を ナブラ言うのなあ (言うのです)。魚のナブラやなあ (だ) 言うて、びよんびよん飛んで来ると、あや (あれは) さいら (秋刀魚) のナブラな (が) 飛んどられ (飛んでいる) とか、とび魚のナブラやなあ (だ) あや (あれは) 言うて、鮫のナブラやとか (だとか)、群で来るもんで (ので) ナブラや (だ) 言うて。人間でも 一塊ん (に) なつて どやどやして来ると あや (あれは) ナブラで来たない 言うて よお言うわい (よく言います)。

なぶりがい【名詞】 相手の弱点を見て安く買うこと [会話] ナブリガイ言うな (のは) まけえ (負けよ) まけえ 言うてなあ、此れ こんだけんまけとけ (これだけに負けておけ)、あんだけんまけとけ (あれだけに負けておけ) 言うてなあ まけさす (負けさせる)

事をなあ ナブリガイシテまあ言うてなあ。買う方ななあ(が) まけえ 言うて 売るもな (者は) どんだけでも (どれだけでも) ねえよお売ろ (値高く売ろう) 言うし、買うもな 安すう (安く) かお (買う) 言うて まけえ まけえ 言うて ナブリガイ (に) して まあ 言うてなあ。

なぶりこたら 弄びものにする なぶる、鬻 嘲 おもしろがって人をからかったり苦しめたりする。愚弄するもてあそぶようにする なぶり なぶる 人を苦しめたり、からかったりして喜ぶ事 こたら 海鼠なまこ ぐにやぐにやになる こたらにあう こたら 参照 (志 (布施田、鶴方)) [会話] そやあれまあ (こら) なんやかや (色々) ナブリコタラン (に) すんなまあ (するな) 言うて、置いてあるもん (物) あれいろいろ (触り) これ いろいろ して、あっちゃこかし (あちら転がし) こっちゃこかし (こちら倒し) して、ナブリコタラン (に) すんなまあ よけ (あまり) 言うて、なぶるとさいご (触るとその時) いろいろのを (触るのを) なぶる言うの (のです)。ナブリコタラン (に) すんなまあ。仲間内でも いじめると ナブリコタラン (に) おおて (遭って) 言うて 今し (今) と言うと いじめすんのを (するのを) こたらん (に) おおた 言うて。こたらこたらん (に) しやれて (されて)。こたら言うて なぶるとさいご (その時) よけ こたらん (に) すんなまあ 言うて、なぶんな (触るな) いろいろな (触るな) 言うのを、よけ こたらん すんなまあ 言うて、子らら (子供達) わるう (叱る) 時 ナブリコタラン (に) すんねない (するのだ) 言うて。せんぎりしやれる (充分・完全にされる) 事を こたらこたらん (に) おおた 言うて。

なぶりもん 【名詞】 鬻り者 (物) もてあそばれる者 [会話] ナブリモン に おおてまあ (逢って) 言うて、男ん (に) 騙されて こお (子) 孕まされて ええ (よい) ナブリモン に おおた (逢った) 言うて。子供らななあ (が) 猫でも なんでも ナブリモン に しとる (している) 時な (が) 有るやんかい (有ります)。おおた まあ そげん (そんなに) ナブリモン にして言うてなあ 子供でも おっきいのおな (大きい者が) ちっちゃい (小さい) のを ナブリモン にしてあの 子供らをまあ 言うて おもちゃみたよんしとると (のようにしていると)、からかわれんのを (からかわれるのを) ナブリモン に おおて 言うて。ちよつからかして (からかって) ナブリモン にして 鬼婆

ちよつらかしとてなあ (ていて) 言うて かまう (からかう) 子らな (が) 有りよおったなあ (有りました)。

なぶる (鬻) 【他ラ五】 1) 人をからかいもてあそぶ (志、鳥、松、多、上、阿、張、名、度、北、尾、熊) 2) さわる 触れる (志 (布施田、鶴方、立神、国府)、桑市、桑郡、一、松、多、上、阿、度、北、南、尾、熊) [会話] 2) 触る事を よけ ナブンナマア (あまり触るな) 言うて、いろいろにくんのを (触りに来るのを) ナブリん (に) 来る言うね (言うのです)。みんな (皆) まあ しやあれ (それ) ナブッて、しもたんねない (悪くしてしまうのだ) 言うてな なぶりもん に すんね (するのだ) 言うて いろいろ (触る) のを ナブル。

なぶんな 触るな 鬻るな るとんと変化 [会話] 魚でも よけいろいろと (あまり触ると) あざれてかれ (古くなる) 言うやんない (でしよう)。ぬくたいて え (暖かい手) で いろいろと よけ (あまり) ナブンナ 言うやんかい (言います) ナブンナ 言うたり いろいろ 言うたり。

なべいいれた 自分の物にした 成功した

なべいいれたよおなもんや 【俚諺】 成功する見通しがついた 十中八、九自分の物にした (志 (布施田))

なべうちやり 【名詞】 1) 魚 めじな ぐれ 脂肪の多い魚 メヂナ科の海魚。全長約 50 cm に達す。体は楕円形で側扁する。体色は紫黒色。ひし参照 (志 (布施田)、鳥 (鳥羽)) 2) 磯にある小貝 [会話] 2) ナベウチャリ 言うな (のは) いそもん (磯物) の とおちんこみたよなのおを (のよなのを) 言わせんかい (言いませんか)。いそもん拾いん (に) 行くと こや (これは) ナベウチャリやんかあ (だ) 言うてなあ、¹⁾ ひしの ナベウチャリや (だ) 言うて あぶらこい もんで (ので) ナベウチャリ言うんかい (言うのですか)。

なべしき 【名詞】 鍋、釜、薬罐を置くのに下に敷く物 藁、木、竹等で作る なべすえ (員、阿、張、名) [会話] しずえや (だ) 言うて ナベシキ を、四角な のおをなあ (のを) 鍋炭な 落ちるもんで (ので) 箱どいらいの (大きいのを) つけて しよおった (して居ました)。しずえ 桶屋な (が) 組んで くれて なあ、皮は わあすんのんして (輪するのに使って) みい (実) で しずえ 作って くれて なあ。

なべしま 【名詞】 魚名 いしがきだい イシダイ科の海魚。体全体に黒褐色の石垣状の斑紋の有るところから

此の名が有る。全長約60cmに達する、大形の雄成魚では、体側の石垣状の斑紋が消えて全身が灰褐色になり、口先だけが白色になる(クチジロ) [会話] 魚のなあ(名) ちよんちよんと 模様のあるのなあ(のです)。黒と白の模様な(が) あんのを(有るのを) ナベシマ。ナベシマは どいらい(大変) ささこして(機敏で) かしこおて(賢くて) なかなか 突かれやへんね(突けないのです)。

なべじり【鍋尻】【名詞】 鍋の底の外の部。火の当たる所。

なべすえ【名詞】 鍋、釜を乗せる台(南) [会話] しずえ言うな(言いは) ナベスエ。四角のおも(のもの) あるし、竹で まるくとう(丸く) 輪にして それい(に) 鍋おろすの(のです)。

なべずみ【鍋炭】【名詞】 鍋、釜の外の底に貯まった煤

なべすり【名詞】 鍋、釜の外の底部を磨く軽石など [会話] ナベスリや言うて、軽石や(とか) さんごじ、みたいんしとるのな(珊瑚のようにしているのが) 有るやんない(でしょう)、あんで(あれで) こすると 素敵んなんの(になるのです) 釜の尻な。

なべつかみ【名詞】 1) 常に二人離れず行動をする者と言う おみきどつくりとも(志(浜島、神明、立神、国府、安乗、甲賀)、鳥(鳥羽)) 2) 熱い鍋、釜等を掴むためのもの。必ず対になっている。(志(布施田)、鳥、張) [会話] あたたいもん(熱い物) 掴む時ん(に) なんやかや(色々) ふきんでも掴むと ナベツカミ。ナベツカミもこしゃえるけど(作るが) 無いと、そこらのもん(物) 持て来て(持って来て) じよおほお(両方) で あたたないよおん(熱くないように)。昔や(は) 正月ん(に) になると 藁でなあ 必ず ナベツカミこしゃええおったなあ(作って居ました)。おつごも(大晦日) になると。昔の鍋は 火焚くし耳な(が) 付いとて(付いていて) 炭だらけになるし あたたい(熱い)。そやもんで(それで) ナベツカミや(だ) 言うて 藁で 新しいのおを(のを)。豆は やすのん(煎る、大晦日に豆撒きをした 節分にしない) 新し(新しい) ほおろく おろすのん(初めて使用するのに)。おつごもん(に) になると ふたつうつ(二ケづつ)、ナベツカミも まだ つかまんとおんねえない 言うて、夜なべ(夜働き) したりして きゅうくれまいしいあるいて(大急ぎして)。編む言うのを ナベツカミも つかまんとおる言うて、編まなはざんねやんかい(編まなければいけないのです)。片っぱ(片一方) 九つするか 十一するか 奇数に

せなはざんもんで(しなければいけないので) 下手んすると(に作ると) 歪んで行くてや(行くのです)、うなじ(同じ) よおにならんで(ならなくて) 厚つづらな(厚い) どいらい(大きい) の したり ごひんそくの わりのしとる(悪いものしている) 家な(が) ありおった(ありました)。ごひんそく言うな(言うのは) 格好な(が) わり(悪い) のを ごひんそくな(が) わり、品な(が) わりのおを。1) あや(あれ) ナベツカミな(が) 来たれ(やって来た) 言うて みおとな(夫婦が) いつでも 二人で歩いとると(歩いていると) ナベツカミ。ふたんな歩いとると(二人が歩いていると) ナベツカミや(だ)。友達でも どえらい(大変) 仲な(が) ええ(よい) のは、あいら(彼等) ナベツカミやなあ(だ) 言うて、普通の友達は あれやけど(言わないが) 仲良しで ふたんな 年中一緒ん(に) ちんちんかかもかもしとるとなあ(していると)。

なべつかみつかむ 鍋掴みを作る [会話] おつごもん(大晦日) になると ナベツカミモ ツカマントオンネナイ 言うて 編むのを ナベツカミ ツカム言うて。

なべぶた【名詞】 海魚 えい 体は扁平で、胸鰭が特に大きく発達し、体盤を形成する。背鰭、尾鰭を欠くものも有る。臀鰭は無い。鰓孔は5~6対で体の腹面に開口する。噴水孔は大きく発達する。瞬膜は無い。卵生又は卵胎生。[会話] えいの事 全部 ナベブタや(です)、ひらくたいもんで(平らなので)、言うんやるなあ(言うのでしょうか)。ナベブタな(が)、よけおつて(沢山居て) 日和わりなんねなあ(天気が悪くなるのだ)。

なま(生) 1) 加工していないもの(魚 野菜等) (志(布施田)) 2) 刺身 3) 一年たつまでの死者のある者 4) 新しい事 最近の出来事 5) 未熟な者 [会話] 1) ナマの魚やとか(だとか)、3) そして 死んでて(死んでいって) うまれ(死の忌み言葉) の人を あや(彼は) ナマの生まれや(だ) 言うて、死んですぐの時は あや(彼) ナマやれ(だ) 言うて一年たつまでは、喪な(が) 明けるまで しよんがつ(正月) も やまごりや(だ) 言うて 死んだ家は(家の人は) 一日は 人の家い(へ) 行かせんやんない(行かないでしょう)。生まれなかつとる(生まれがかかっている・喪中) 事を。やまごり言う。一日な(元日が) すむと(終わると) 年始も行くけど 二日は 行かせん(行きません) 生まれな(が) かかつとるもんで(かかっているのだ)。死んでも 死ん

だばか(ばかり)の家でも あの家や(は) ナマや(だ) 言うし、⁴⁾ かつたい(ハンセン氏病)の家でも最近に 乱れた(かかった) 人な(が) あると、あの家や(は) かつたいのナマやもん(だ) 言うて 天刑病を。ナマや(だ) 言うて 最近まで そいな(そんな) 人な(が) あった時 ナマや(だ) 言うの(のです)。

なま(波間)【名詞】 1) 大きな波と波との間 2) 暇な時 間の時 [会話] ¹⁾ 波間に ナマン(に) なったよって(から) 早よ(早く) 舟つけえ(つけなさい) 言うてなあ、波な(が) たっかいのおな(高いのが) 四つ五つ おったると(打ってしまうと) 後はまあ ちっさいのなくんね(小さいのが来るのです)、ナマのうちん(間に) 早よ(早く) 舟つけえ(接岸して) 言うて、里の浜は 波な(が) 荒いもんで(ので) ナマ 見やな(見なければ) 舟な(が) つけられらったの(つけられませんでした)。波のなあ ひっくう(低く) なったおり(時) を ナマや(だ) 言うの(のです)。大きな波 四つ五つ おったると 後ななあ(が) また ちっさい(小さい) 波な(が) 四つ五つなあ そのあいな(間が) あんねてや(有るのです) ナマ見て 舟つけえ(接岸しなさい) とか、ナマ見て 降りよ(降りなさい) とか言うてなあ 波のあい(間) を ナマや(だ) 言うね(言うのです)。²⁾ 仕事でも ナマ見て おれげんのい(俺家ののに) 来てくれ(ください) 言う時な(が) 有るやんかい(あります) 仕事なあい(の間) を 見て言うの(のです)。

なまい【名詞】 名前 人の氏名(志) [会話] 病気のナマイな(が) 判らんで(判らなくて)。

なまいお(なまいを)(生魚)【名詞】 調理していない魚

なまいだ 南無阿弥陀佛の略訛 [会話] ナマイダ ナマイダして 魔よけしよおや(しましよう) 言うて。

なまうで【名詞】 生茹 茹で方が不十分な事 [会話] ナマウデ言うと えごつとなあ(完全に) 煮えんと(ずに) うちんのおをなあ(有るのを) ナマウデ言うてなあ、ナマウデやんかあ(でないか) こや(これは) 言うてなあ 半煮えの事をなあ。

なまえまけ【名詞】 名前が不相応に立派なこと。名に実が伴わずかえって劣って見えること [会話] なんか位な(が) ある言う 名前な(が) ええと(よいと) あや(彼は) ナマエマケした言う。

なまがあき【名詞】 十分に乾いていないこと 乾燥しきらないこと かわきの訛 [会話] ナマガアキ言うと

半分、乾いてなあ ししなん(やわらかいの) のを ナマガアキ、あんまり(あまり) かんからかんしたらんとなあ(かちかちにせずに) ナマガワキを ししなや(だ) 言うね(言うのです)。せんだくもん(物の) ナマガアキ ほとりくそなってなあ(臭くなって行って)。

なまきず(生傷)【名詞】 出来たばかりの傷 なまなましい傷 古傷に対して

なまきずなたえん いつも傷をして居る 1) 百姓などが忙しくて鎌でいつも切って居る 2) 子供が乱暴でいつも怪我をして居る

なまぐさい(生臭い)【形容詞】 魚肉の臭い 生の獣肉や魚の特有の臭いがある [会話] 魚のかざな(匂いが) すると、ナマグサイ言うて。鱈やさいら(秋刀魚) 青魚は 別んも(特に) ナマグサイよおな かざなすんなあ(臭いがします)。青魚はなあ 死んでも。

なまくら(鈍ら)【名詞】【形容詞】 1) 刃物の切れ味の悪い事。又そのさま(志(片田)) 2) 怠け者でだらしないこと、又そのさまや人(志(浜島、鶴方、神明、志島)、鳥(長岡)、三、鈴郡、鈴市、亀、安、松、多、阿、張、名、北、尾、南) [会話] ²⁾ ナマクラで言うて、ナマクラもん(者) を ナマクラ言うし(言います)。¹⁾ ほつちよ(包丁)の切れやせん(切れない)のも、こや(これは) ナマクラで なんも切れやせんわれ(何も、少しも、全く切れない) 言う。薄刃(菜切り包丁)でも ほつちよ(でも) 切れんと(切れないと) ナマクラやなあ(だ)。²⁾ にげ(人間)でも 怠けとるにげを(怠けている人間を) ナマクラで あや(彼は) 言うて。

なまくらもん(鈍者)【名詞】 怠け者 だらしない者(鳥(鳥羽)、度)

なまけた【名詞】 怠け者 [会話] にげも(人間) あや(彼は) ぐざやよってん(だから) 言うて、ナマケタや(怠け者とか)。

なまけぼおず【名詞】 怠け者(志(国府、甲賀))

なまけもん【名詞】 怠け者 怠情でだらしない人(鳥(答志、神島)、桑郡、四、一、上、阿、名) [会話] 怠けとると(していると) ナマケモン、仕事もなんもせんと(少しもしないと) どじもんぐさ。ものぐさ言うしなあ(言います)。

なまこひき【名詞】 海鼠を採る事(三重県全域)

なまごろし(生殺)【名詞】 餅、団子を作る時、完全に米を潰さず、飯粒の残っている状態のもの はんごろし参照 [会話] 半殺し、ナマゴロシ。餡ころ(餡

餅)を半殺しにしよおか 本殺しん(に)しよおか言うて やじる餅みたよなおを(米粒のある餅のようなのを)半殺し言うんなし(言いますし)、じっばん(立派)搗いたのおを(のを)本殺しや(だ)言うて。
なまざかな(生魚)【名詞】焼いたり煮たりしてない魚 [会話] 御飯へ すう(酢)打って こお(具)入れてすん(するのは) すもじ ナマザカナ入れんのは(入れるのは) てこねやわい(です)。

なまし【形容詞】 1) 煮焼きや漬かり方が不十分である 生煮え 生焼け(志(布施田)) 2) 乾燥が不十分 [会話] 2) えごつと(充分) 乾いとらへん(乾いていないのを)まだ こや(これは)ナマシなあ言うて。ひいて干し(一日干したもの)、しっとり 魚でもしとるし(しています)。着るもん(物)でも えごつと 乾かんとおると(乾かないでいると)まだ こや(これは)ナマシやんか(です)言うて。なんでも えごつと(完全に) 乾いとらへんもんを(乾いていない物を) こや(これは)まだ ナマシやんか。1) 煮たり、炊いたりした時ん(に)半煮えんのおを(のを)ナマシ、生煮えやなあ(だなあ) ごじごじとられ(している)言うて 芋の時は。

なます【名詞】 1) 漁師が家で食べるため沖で刺身に塩をした物(志、北) 2) 三杯酢で食べる生鮮魚で作った料理 3) 鮫の肉を薄く切り、湯を通したものの [会話] 3) 鮫ナマス、1) 沖で 鯉して 塩して来ると 沖ナマスや(だ)言うて、沖で食うて 塩して来るわな(来ます)。塩して来ると うまいんてや(美味のです) こつちりと(固まっている状態)。てや言うのは です言う意味や(です)。すんねてや(するので) 言うねてや(言うのです) ほんとやてや(本当です)。沖ナマス 沖ですんな(するのは)水 使わせんよつて(使わないので) 潮(海水)で あるて(洗って) 塩 ぷつとふつてすんねもんで(するので) 塩 加減な(が) よおて、うまいんてや。好きな人は 酢で食べるし、そんなり(そのまま) 食べても 沖でして来るとうまい(うまいのです)。塩ごち(塩のまま)でもなあ うまいねてや。それごち それごち 食べたれ(食べてやれ)言うのは 井入れたのおを 皿へ分けると 皿へ盛って分けえ(よそって分けなさい)言うのやけど(言うのだが)、井を そのまま食べるのを それごち食べえ(そのまま食べろ)言うの(のです)。それごち 食わんかれ(食べなさい) 分けてんでも(分けなくても)言うて。3) 鮫ナマス 鮫のみ(身) うつつう(薄く)切つて ゆう(湯) ひいた

のおを(通したのを) 鮫ナマス。

なます(脛)【名詞】 大根、人参を細かく刻み、酢であえたもの [会話] だいこ(大根) ナマス 胡瓜ナマス ちつそお きざんで(小さく刻んで) 塩でもおで(揉んで) 三杯酢で食うの(のを) ナマス 沖から 鯉や なんやかや(とか) 塩してくん(来るのを) ナマスや(だ)言うてなあ

なまづ(なまづ)【名詞】 だいなんぎんぼ タウエガジ科 体が細長く、側扁する。背鰭と臀鰭の両基底は長く、尾鰭基底部まで伸長し、ときには尾鰭と臀鰭で連なる。背鰭条は殆ど棘より構成されるが、時には後方のみ軟条化している。肋骨は常に存在する。体側には管状の側線が4本走り、互いに横枝で結ばれ網目状を呈す。第3側線は体側下方を走るが、腹部上で中断する。体長約25cmに達す。岩礁域の潮間帯に生息する。(志)

なますうつ なますにするため野菜類を千切りにする。なますを作る。[会話] ナマスウツ言うな(のは)、こまこお(小さく)刻むの、ナマスウツ言うの(のです)、だいこや(大根とか) 胡瓜は 刻まな はざんやんない(なければいけないでしょう) それ だいこ ナマス ウツてくれや(下さい)、胡瓜ナマス ウツてくれや 言うてな。

なまぢよろい。なまぢよろこい【形容詞】 1) 手ぬるい まどろこしい にぶい 2) たやすい 簡単だ(志(浜島)) [会話] 2) ナマチヨロイ事で こんな出来よかれ(これが出来るものか) 言うてな、ちよつころちよいと(簡単に) 出来やせん(出来ない)、ちよつとやそつとで出来ない言うのをな、ナマチヨロイ事で こや(これは) 出来やせんどお(出来ないぞ)、腕ん(に) 纏りかけなはざんわれ(なければ駄目だ) 言うてなあ、簡単に出来やせん(ない) 言うの(のを) ナマチヨロイ事で出来やせん 言うて。

なまづかり(生漬) 漬け物の漬かり方が完全でない。完全に漬かっていない物。[会話] 鯉の醤油漬やどけども(などでも) たつぷり漬かつとるとええんけど(漬かっているとよいが) ナマヅカリののお(のを) 食べると むしにかぶる(吐き気がする) よおな時な(が) あんね(あるのです)。

なまづめ 生爪【名詞】 爪、生えているままの爪

なまづめはなす 生爪を剥す [会話] ナマヅメハナス、けつまげて(つまづいて) 爪な(が) はげてくんのなあ(来るのです) おおた はなししたて(してしまつて) まあ こや ひまのかあやれ(これは大変だ) 言

うてなあ、痛いなあ (です)。そして 治りのくう
て (ぬくくて) 爪、はなしたると (してやると) はん
ぶはんで (半分剥いで) はんぶ (半分) 残つとると
(ていると) いとおて (痛くて)。

なまどしよる (生取寄) 【自ラ五】 なまじっか年を取っ
ている [会話] 子供みたいんしとる (のようにして
いる)、言うたよおな事ばっか (ばかり) 言うて 大
人みたよな (のような) 事 言わんとすのを (言わ
ずにするのを) わろべしなあ (子供のようだ) わろべ
しわれ (子供のように) ナマドシヨツテおって (い
て)。

なまなまし (生々) 【形容詞】 1) 獲れたばかりで、ま
だ生きているようにしている、死んだばかりである
2) 新鮮で有る 3) 乾燥していない 4) 手を加え
たが未だ完成せず、元の状態に近い [会話] ③ まだ
こや (これは) ナマナマシやんかあ (でないか) 言う
て 乾かんとなあ (かずに) 干したばかんのおを (ば
かりののを) ナマナマシやんかあ こや まだ。漬け
もん (物) でも まだ 漬かつとらへんのを (ていな
いのを) まだ ナマナマシわれ (です) もっと 漬け
とかな (ておかなければ) 言うしなあ、1) 死んだばっ
か (ばかり) まだ ナマナマシしとる (している)。

なまにえ (生煮) 【名詞】 【形容詞】 1) 十分に煮えてい
ないこと、又その物 2) 何事も充分でないこと 特
に子供の睡眠不足 [会話] ② ナマニエやなあ (だ)
こや (これは) 言うて、子供な (が) なまね (寝不
足) すると 機嫌な (が) わりいて (悪くて) こやま
あ (これは) ナマニエで 機嫌な (が) わりわれ (悪
いです) 言う。えごつと寝やんと (十分に寝ないと)
途中で起したると (てやると) 生寝して、機嫌な
(が) わりいて 言うて、大人でも ちゅうとなか
(途中で) 起したると 機嫌な わりて (悪くて)
生寝で 機嫌な (が) わりわれ。

なまぬきたい (生温) 【形容詞】 生暖かい なんとなく
暖かい [会話] ぬくたあい (暖かい)。さぶい (寒
い) 日に こんだ (今度は) 日な (が) 照って来い、
風な (が) 凧んで来いすると、まぜな (南風が) 吹い
て来ると ナマヌクタイ風な (が) 吹いて来て言うて。

なまぬるい 【形容詞】 生温かい

なまぬるきたい 【形容詞】 生暖かい 温かい なまぬる
い なまぬきたい (松)

なまね (生寝) 【名詞】 充分に眠らない事 睡眠不足
(志 (布施田)) [会話] 生煮え 生煮えやなあ
(だ) こや (これは) 言うて、子供な (が) ナマネス

ると 機嫌な (が) わりいて (悪くて) こやまあ (こ
れはもう) 生煮えで 機嫌な (が) わりわれ (悪
いです) 言う。えごつと寝やんと (十分に寝ずに) 途中
で 起こしたると (起こしてやると) ナマネして 機嫌な
(が) わりいて (悪くて) 言うて、大人でも ちゅう
となか (途中で) で 起こしたると 機嫌な (が) わり
て (悪くて) ナマネで 機嫌な わりわれ。

なまのすし 【名詞】 刺身を具に乗せた鮓 [会話] ナマ
ノスシ食いたいなあ (食べたい) 言うて、ゆわしや
(鯛だ) とか、鮓や (だ)、さいらや (秋刀魚だ)、鰻
の 鮓やたら (だとか) ナマノスシ旨いやんかい (旨
いです) 言うてな、魚の鮓 魚の生で 握ったのおな
(のが) ナマノスシ。ナマノスシな (が) よけ (沢
山) 有って 旨かつたなあ 言うて 皆 喜ぶやんかい
(喜びます)。

なまのもん 【名詞】 生物 魚 刺身 [会話] そこん
(に) ナマノモンな (が) あるやんか (あるではない
か) 持て (持って) 来い 言うて、鮓や (とか) なんや
(その他) 食う時ん (に) ナマノモンを 味噌づけて
食うの (食べるのに) 持て 来い 言うて。

なまはんか。なまはんじゃく (生半熟) 【名詞】 中途半
端な事 いいかげんな さま なまなか (志 (布施田、
甲賀)、張) [会話] ナマハンジャクな事して まあ
言うて 仕事しさがして (途中でやめる) はんぶ (半
分) して はんぶせんと (半分せずに) おいたり (や
めたり) すると、えごつと (完全に) 終りまでしやせ
んと (しないと) ナマハンジャクな事して まあ 言う
て。

なまぶし (生節) 【名詞】 鰹節を作る時、身を煮た後乾
燥させる前の状態 なまぶし (志 (鶴方、神明、立
神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、阿、張、
度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 鰹のナマブシや
(だ) 言うてなあ ひい (火) 入れんとあんのを (入
れずにあるのを・乾燥 燻すために) ナマブシや 言
うて。鰹 ふしん (に) すると 炊いて 火入れて
ひい (火) を一日 朝入れて、よさ (夜) 入れて
三回も四回も入れといて (入れておいて) こんだ (今
度は) 陰干しみたいん (に) してすんの (します)。
それを せんうちんのおを (しない間のを) ナマブ
シ 言うね (言うのです)。炊いて すぐん (の) うちん
のおを ナマブシ。ナマブシの五目しよおやんか
(五目飯しましょう) 言うて、ナマブシ 美味しいもん
なあ (のです) 削って 味噌で まめんで (混ぜて)
食うと。

なまへんじ (生返事) 【名詞】 はっきりしない答 あいまいな返事 気のない返事

なまみ (生身) 【名詞】 生きている体 [会話] にげ(人間)のナマミ。にげも、ナマミやよって(だから) いつなんどき (何時) 具合な(が) わりなってくるやら(悪くなって来るか) 判らへんし (判らない)。

なまみず (なまみづ) (生水) 【名詞】 沸かしてない水 淡水

なまみそ (生味噌) 【名詞】 味噌樽から出したままの味噌 手を加えてない味噌 [会話] さいな (副食) 無いと 年中 ナマミソ食べとりよった(食べていました)。なんも(何も) おかずあ (は) ねえし (ないし)、たんと 張り込んで なめみそ言うて 削り粉 (鯉節の粉) 入れたり、かとぶし (鯉節) がしがしと かいて入れたり、生姜味噌したり 磯い (へ) 行く時や(は) 海胆焼いといて (ておいて) 海胆味噌して言うて。今頃や(五月頃) 言うて、ぞおな (海藻が)、海藻が寄ってくんね (来るのです) えどの浜い めえ (若布) 捨て来て 手のひらい 乗せといて (ておいて) 味噌塗って そして 麦飯入れて 巻いて言うて その旨いおな (のが) 家で言うて 旨ないねけど (のだが) 浜で言うて 旨いね (のです) その めえ ずしな (若布寿司が)。ナマミソ言うのは 樽から出しただけの 炊きも なんもせん (何もしない)、みそびやい (味噌部屋へ) 行くとなあ 四斗樽いなあ 三杯位 味噌しこどて (仕込んでいて) 一年つ しうくりんすんので (仕送りにするので) 三つ位、たあるいなあ (樽へ) 味噌つくんやんかい (作るのです)、そすと ひねから (古いのから) ひねい (古いのへ) 言うて すんねもんで (するので) ナマミソ こがに (四斗樽に) 入つとるよって (ているから) 行きさいしや (行きさへすれば) 惜しげのお 出して来て 食われんねやんかい (食べられるのです)。

なまもん 【名詞】 生の物 魚 刺身 (志 (布施田)) [会話] ナマモン 食わんと (食わずに) そんで (それで) しょうじ日言うんやろなあ (精進日言うのでしよう)。

なまやけ 【名詞】 未完成の事

なまやさし。なまやさしい (生易) 【形容詞】 簡単である たやすい [会話] なまちよろこい事やとか(だとか)、ナマヤサシ事で 出来よかれ (出来ない) 言うて。ナマヤサシとか、なまちよろこいとか、なまちよろこい事 出来よかれ 言うて、安易な事で 出来や

しえん (出来ない) 言う事や (です)。仕事な(が) しのくい (しにくい) とか、仕事な(が) よけ (沢山) 有る言う時、そいな (そんな) なまちよろこい事で 出来よかれ 言うて、ナマヤサシも なまちよろこいも一緒や (です)。

なまよい (なまよひ) (生酔) 【名詞】 少し酒に酔う事

なまよいほんしよたがわす 【俚諺】 少し位酔って居るのは本性を失って居ない

なまる (純) 【自ラ五】 1) 刃物の切れ味が悪くなる 2) 力がにぶる 決心がににぶる [会話] 2) 腕な (が) ナマツナイ (です) 言うて、仕事よけ (沢山) して、重たいもん (物) 持ったりすると おた腕な (が) ナマツタレ (た) 腕な かいだり (だるい) 事を だるい事を ナマル言うの (のです) 1) きれもん (切れ物) でも 切れやせんと (ないと) ナマツテ (ていて) 切れやせんわれ (ない) 研がなはざんわれ (なければいけない) 言うて、このほつちや (包丁は) なまくらやれ (だ) 言うてな 切れやせんのを (ないのを) ナマル 言うね (言うのです)。

なまる (訛) 【自ラ五】 発音がくずれる

なみ (並) 【形容詞】 良くも悪くもない様 普通 一般同程度 (志 (布施田)) [会話] ナミ言うな (のは) ふつうやわなあ (です) ヒトナミ言うてなあ、ヒトナミ勝れて偉い、ヒトナミ勝れてはざんね (駄目なのだ) 言うて、ヒトナミならええけど (よいが) 普通の にげ (人間) なら あや (彼は) ヒトナミでなあ、働くのも あんまり (あまり) まずい こたねえけど (事は無いが) 言う時 んなあ (に) にげ でも ヒトナミ ん (に) なんでも (なにでも) するとええけど ヒトナミはぐれてくと (はずれて行くと) はざんし (いけない)、また勝れて 行くのも はざん (駄目です)、そやよって (だから) ヒトナミ ん (に) なんでもなあ (なにでも) 香資でも あの家な (が) 三円 しとんのん (しているのに) おらげ (俺家) も 三円 せな (しなれば) 言うて。あの家な (が) 三円 しとんのん おらげや (私の家が) 一円して言うて それも 惨めやんない (でしよう)。そやよって (それだから) ヒトナミ言うてなあ らげな (人の家が) する通り ん (に) すんのを (するのを) ヒトナミ言うてなあ。

なみいた 【名詞】 1) トタン板、ビニール板が波が打つたように高低のあるもの、平坦でない板、波板 2) 屏などにつかう普通の板、並板 (南) [会話] 1) ナミイタ言うて トタン な (が) 波 ん (に) なつとんの (ているのを) ナミイタ。ナミイタ やなしん (でなく

て) ちべたんのおは (平らなのは) 板トタンで そして 屋根葺くのは 波トタン 波な 打つとるやんない (ているでしょう)。

なみがある 波が高い なみなある参照 (熊)

なみけ【名詞】 波が高くなる気配 波が高くなる事

なみけぶり【名詞】 波煙 潮煙 海水が飛散する時のしぶき しけぶり参照 [会話] ナミケブリ。波な (が) 島うちつけといて (打っておいて) しおけぶり な立つなあ (潮煙が立ちます)。

なみだあめ【涙雨】【名詞】 悲しみの涙が化して降ると思われる雨 葬儀の日に降る雨 [会話] ナミダアメ やなあ (だ) こや (これは) 言うて、誰か 死んですると まあ こや ナミダアメ やなあ 言うて 雨な (が) 降るとなあ。

なみだち【名詞】 波が高い事 海の荒れる事 (志 (布施田))

なみだつ【波立】【自タ五】 大波になる 波が高くなる

なみだつぽ【名詞】 涙腺

なみだつぽい【形容詞】 涙もろい 涙脆い 少しの事にも感じやすく涙ぐむ性質である つぽい 接尾 名詞、動詞の連用形などについて、そのような状態を帯びている意を表す。多く上の語との間に促音が入ってつぽいの形で用いる [会話] 涙弱い言うのを ナミダッポイ言う。 じっきん (すぐに) 泣いて来るにげなあ (人間を) 涙脆い言うて 言うやんかい (言います)。 じっきん 泣いて来るにげな (人間が) あって、あや (彼は) 涙脆おて (脆くて) 言うて 涙弱いとか。

なみだづおい。なみだづよい【涙強】【形容詞】 容易に泣かない

なみだもろい。なみだよわい【形容詞】 少しの事でも感じやすく涙ぐむ性質である。涙つぽいに同じ (志 (布施田)) [会話] じっきん (すぐに) 泣いて くんのを なあ (くるのを)、ナミダヨワイ ねもんで (ので)、じっきん 泣いて来る言うてなあ。 涙な (が) 出やせん な (出ないのは) 犬目。

なみトタン【名詞】 波立つ様に 凸凹の有るトタン板 [会話] 屋根い (へ) 葺くのは ナミトタン。波な (が) 打つとるやんない (ているでしょう)。

なみなある 1) 波が高い 2) よい時、悪い時がある。交互に事が生ずる。[会話] ② なんやかやの (いろいろの) ナミガアル、けえき (景気) でも ええ (よい) 時と わり (悪い) 時な (が) 有るやんかなあ (有ります)、それを ナミナアル 言うやんかなあ (言うのです)。世の中、ナミナアッテ言うて。 1) 今

日は ナミナアッテ 沖い (へ) いかれん (行けない) 言うて 波が高いと。

なみなおこる 波が立って来る 海が荒れる、大波になる [会話] 五月頃 ん (に) ナミナオコル そこばえ や (だ) 言うて、海な (が) で こで ごして くねて や (して来るのです)。

なみなおとす 波頭が落ちる

なみなおれる 大波の波頭が落ちる

なみなきく 波が立つ

なみなない 波が穏だ 凪いで居る

なみなみと【副詞】【形容詞】 液体が容器に溢れる程の状態。満杯。

なみのしぶち【名詞】 波飛沫

なみのはな【波花】【名詞】 1) 波しぶき 2) 食塩

なみのはな【波端】【名詞】 打ち寄せる波の先端

なみばなれ【名詞】 干潮時に海水がなくなり満潮時、海中に沈む所 [会話] ナミバナレ言うのは 波な (が) 無し ん (に) なつて く と こ (て行く所)、波な (が) に つて (満ちて) 来ると 一杯 ん (に) なつて、干いて く と (て行く) 潮な (が) 無し ん なん の (になるのを) ナミバナレ迄 ひ いた ま あ う て。

なみほおらい【名詞】 波がひどく立っているさま 大波 (志 (布施田、片田、浜島、志島、国府)) [会話] 波な (が) 荒 な つて (荒くなって) 来る。高波な (が) する時に 今日 は ナミホオライ や (だ)。大波の事を ナミホオライ や (です)。今日 は ナミホオライ や よ つて (だから) 潮 浴 び ん 行 く な よ お (海水浴に行く) な う や ん ない (言うでしょう)。

なみま【波間】【名詞】 高い波と高い波の間の波の静かな時 なまと同じ [会話] ナミマに あ の せ え い (瀬に) 行 き た い け ど (が)、波な (が) え ろ お て (高く) 言うて。波な (が) ひ い て た お り ん (干いていった時に) あ し こ い い て (あすこい行って) い の 貝 と て こ お (とつて来よう) 言うて、い の 貝 島 い 行 く と 波な (が) あ る お て (荒くて) ナミマ や な け な (でなければ) 獲 ら れ や せん の な あ (れないのです)。波と波の間 波な (が) ひ い て た (ていった) 間 に い て (行って) む し つ て こ お (来よう) 言うて む し つ て お つ て (ていて) 波な (が) 来ると 逃 げ ん ね や ん か い (るのです) 波のま あ に (間に)、そ げ ん し て (そんなにして) 仕 事 す ん ね も ん で な あ (するので) 波 う ち か ぶ せ ら れ て (頭からかぶって) 拂 い お と さ れ る 時 も あ ん ね (有るのです)。

なむら【名詞】 1) 魚の群 (志 (甲賀)、度、熊) 2)

多数の人の集団 [会話] 1) 魚の群、ナムラヤ (です)。2) にげ (人間) でもなあ どやどやして来ると あやれ (あれ) ナムラで やって来たれ言うて おおぜで (大勢で) どやどやと 一塊りん (に) 寄つとんのを (集まっているのを) ナムラン (に) なって来た。にげ (人間) でも よけ (沢山) 塊まって 来るとなあ あやれ (あれ) ナムラで来たない (来た) 言うてなあ 魚のなぶらん (に) 例えてあんねやろなあ (有るのでしょう)。

なめ【名詞】 1) 粘液 2) 粘液状の大便 (下痢便) (志 (布施田)) [会話] 2) ナメな (が) 出た、ナメたれた (大便をした) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。お腹とおすと (下痢すると)。こや (これは) ナメな (が) 出とるよつて (出ているから) たちなわりなあ (性質が悪い) 言うて。しゃあしゃあと下つてくのは (行くのは) ええんやろけど (よいのでしょうが)、ナメだけ ちびちび たれる時や (は) たちな わり 腹やなあ (だ) 言うて、疫痢ん (に) になると あいな (あんな) ナメたれるやんか (します)。そすと (そうすると) その臭いのなあ (臭いのです)。ものすごお (大変) かざなすんね (臭いがするのです)。あや (あれは) ナメン (に) なって 肉な (筋肉が) 出てくねやろなあ (行くのでしょう) そすと (そうすると) 痩せて (行って) 目な (が) 落ち込んで 骸骨みたいな目になって。

なめかずら【名詞】 植物 さねかずら。モクレン科のつる性常緑木、枝は褐色で、皮に粘液を含む、葉は互生し、柄を持ち。皮質で厚く、長さ5~10cmの楕円形の両端は尖り、縁にまばらな鋸歯が有り、裏面は紫色を帯びる、雌雄異様、夏葉腋に淡黄白色で経約1.5cmの広鐘状花を下向きに単生する、花被片は9~15枚、果実は経約5mmの球状

なめくじら (なめくぢら)【名詞】 なめくじ なめりくじら参照 (志 (浜島、鶴方、布施田、安乗)、鳥 (桃取、答志)、桑郡、桑市、三、四、鈴市、鈴郡、亀、安、津、久、一、松、多、上、阿、度、伊、尾、北、南、熊) [会話] なめくじ 刀の目釘ん (に) すんねてや (するのです)。あれを さと (砂糖) 入れたると (てやると) なめりな (粘液が) 皆 取れてくやんない (て行くでしよう) そすと その残ったのおをなあ 刀の目釘ん (に) なんねてわい (なるのだそうです)。それ程 いかついね (強いのです)。くろざと (黒砂糖) 入れたるとなあ (てやると) 出来もん (物) の 口な (が) 開かせんわい (開かないのへ)

それ 付けたや (ら) ぼんと 口な (が) 開くね (開くのです)、くさつてくね (腐って行くのです)、あのなめり (粘液) で。そやよつて (だから) あんなおるとか (あれが居る所は) 蝮な (が) おらせん (居ません)。ナメクジラの 光つとんのな (ているのが) 有るやんない (でしよう) あれの上をなあ 蝮な (が) 這うと その 当たったとこ (所) だけ くさんねてわい (腐るそうです) そやもんで (それで) ナメクジラな (が) おるとか 蝮な (が) おらせん。にげ (人間) でもなあ できもんな (出来物が) 出来て 口な (が) あかんで するやんない (でしよう) その時にナメクジラ さとい (砂糖へ) 入れたのおをなあ (のを) その口なるろ (になろう) 思うとこ (所) ちよいと (少し) 付けて 貼つとくと (ておくと) あした (翌日) の 朝ん (に) になると 口な (が) ぼんと といて。

なめくた ぬるぬるとしている状態 柔弱な事 [会話] 物でも 何でも なめつとると (粘っていると) なめなめと ナメクタや (だ) 言うけど、にげは (人間は) ナメクタや (と) 言わせん (言いません) 物な (が) なめつとしとると (していると) ナメクタやなあ (だ) 言うけど (言います)。

なめくる 舌が粘る 味が濃く、いつまでも残る 粘りつく [会話] 口な (が) なめつて (粘って)、口な (が) ナメクッテ なんか さっぱりしたもん な欲しなあ (物が欲しい) 言うて、なんか 食うたおりん (食べた時に) 口な (が) どいらい (大変) なめなめする。

なめずる (なめづる)【紙】【他ラ五】 舌で唇などをなめまわす

なめとこ【名詞】 はつきりしない人 (志 (布施田)) [会話] ナメトカ (なめとこは) 言うて なめなめしとるとなあ (していると) わるうの (叱るのに) ナメトカ、はつきりせえまあ (しなさい) 言うなあ (言いません)。仕事しとても (していても) ナメトカ 言うて、ナメトコよ言うて むなぐるし (胸苦しい) なつてくられ (来る) 言うて、のそつと しとるとなあ (していると) おとなし (おとなしい) が こおじて (度を越して) ナメトコや (です)。

なめとる 見下げて居る、馬鹿にしている

なめなめ【名詞】【形容詞】 1) 粘液 2) 動作の鈍いこと 柔弱 3) 粘りついている 4) 言葉は優しいが嫌な感じ [会話] 1) ナメナメな (が) 有つて、とろろみたよんしとるやんない (のようにしているでしよう) ナメナメと、ナメナメ言うな (のは) どろつと

しとる(している)。食べるもん(物)でも腐って来ると ナメナメして来るやんかい(来ます) ナメナメと 気持ちな(が)わりいてなあ(悪くて)。2) なめとこ(動作が鈍い人)で ナメナメしとる(している)。

なめなめしとる 1) 粘りついている べとべとして
いる 2) 元気がなく、はきはきしない、柔弱である
3) 愚図愚図している 4) 表面が滑らかで有る
[会話] 3) 手間取るのもなあ ぐずぐずしとる(して
いる) 言うね(言うのです)。ぐずぐずで言うね ナ
メナメシトンノ(を(しているのを))。ナメナメシトル
言うな(言うのは) とろとろしとる よおなのおや
(のです)。

なめなめと なめなめしとるに同じ(志(布施田))

なめまあす(なめまわす、なめまはす)【他サ五】 舐め
回す 舌であちらこちらを舐める 盛んに舐める
[会話] 猫な(が)茶碗も ナメマアス、嫌いやわ。
猫こおとる(飼っている)家や(は) 言よおった(言
いました)。なんえ(何へ)でも 猫な(が)口つけ
て 舐めるやんない(でしょう)。

なめみそ(嘗味噌)【名詞】 副食にする味噌(志(布施
田)) [会話] 生の味噌を 舐めんのなあ(るので
す) ナメミノ。ナメミノ言うても 煮味噌みたよん
(のように)味もなんも(なにも) つけやせんの(つ
けないのです)、生味噌 そんなり(そのまま)食う
てなあ 味噌ばっか(ばかり)舐めて 食べとるもん
で(でいるので) ナメミノ言うのなあ(です)。ぱつ
と はりこで(張り込んで) ナメミノ言うて ナメミ
ソな(が)一番 ごっつおやったの(御馳走でした)。

なめみそしる【名詞】 味噌 副食にする生味噌 [会話]
ぱつと はりこで(張り込んで) ナメミノシルで、き
ばって(張り切って)七千円 払ろたれ(払ってや
れ)。

なめらくじ【名詞】 なめくじ(志(志島、鳥))

なめらごち【名詞】 いとひきぬめり ネズヅ科の海魚
後頭部は微小な骨質突起が多く有り、ざらざらしてい
る。吻が著しく長い。雄は体側下部に虫食い状の模様
が有る。体長10cm。(志)

なめらだまし。なめらふぐ【名詞】 とらふぐ きたまく
ら参照(志)

なめり【名詞】 粘液(志(布施田)) [会話] ナメリな
(が)有って旨いなあ言うて、とろり(とろろ)は
ナメリな(が)有って、山の芋や(とか) めかぶは
ナメリな(が)有って 旨いやんかいなあ(旨いで

す)それから 納豆も なめんねやんかい(粘るので
す)。

なめりかず。なめりくじ。なめりくじら【名詞】 なめく
じ(志) [会話] ナメリクジラ言うて、のたつとん
おな(這っているのが) あるやんな(あるでしょう)。
蝸牛の角みたいなの(のを)出してくんの(来るの
を)あれを ナメリクジラ言うて、なめくじ。

なめりごち【名詞】 ぬめりごち ネズヅ科の海魚(志、
度)

なめりさば【名詞】 小さい鯖(志) [会話] 鯖の ちっ
ちやいのなあ(小さいのです) ナメリサバ。ナメリサ
バは 煮味噌したりなあ 煮付けて くうな ええけ
ど(食べるのはよいが) 生ではくわれやせん(食べら
れません)。

なめる(嘗)【他マ下一】 1) 物の表面を舌でなで
るようにふれる 2) 人を馬鹿にして無礼な態度を取
る なめ 無礼 形容詞なめしの語幹から無礼なさま
なめし 無礼し 礼を欠いている 無礼である 不
作法である(志(浜島、鳥) [会話] 1) 舌でナメル、
2) 人でも とろくさいもな(鈍い者は)俺 ナメテけ
つかって(居て)言うて あなずっとると(侮ってい
ると)俺 ナメテけつかって 言うわい(言います)。
俺 ナメトンネよって(でいるから)言うて、しと
(人) あなずると最後(あなどるとその時)俺ばな
(を)ナメトテ 言うて。あなずる 侮る 人 軽蔑
する事や(です)。侮る言うの(のを)あなずる。

なめる(滑)【自ラ五】 ぬるぬるしている べとついで
いる [会話] 口な(が)ナメル、口な(が) ナメク
ル。口な(が) ナメクッテ さっぱりしたもんな(物
が) 欲しなあ(欲しい) 言うて。ナメル言うな(言う
のは) なんか 食うたおりん(食べた時に) 口な
(が) なめなめする時な(が) あるなあ(あります)。
なんやら(何か) 口な(が) どいらい(大変) なめな
めするなあ、なんか さっぱりしたもん(物)、蜜柑
でも 食べたいなあとか、だいこ(大根) 漬けても
食べたいなあ思う時な(が) あるのお(あります)。

…**なもんで【接続詞】** …なので

なや(納屋)【名詞】 小屋 別棟に立てた物置き場(志
(船越)、鳥(答志)、鈴市、津、阿、張、名、南)
[会話] ナヤん(の) 中い(に) 入れとけ(入れてお
け) 言うて、なんやかや持て(いろいろ持って)来る
と。ナヤ言うて ありおったねやんかい(あったので
す)。昔や(は) 百姓のもん(物) 入れたり。倉庫の
事を ナヤ言うて、ナヤや、こびや(小部屋だ) 言

うて、こびやい入れとけ (小部屋へ入れておけ) 言うて、ちっちゃあい (小さい) へし込むとこな (押し込む所が) あると、ナヤな (が) あって 藁仕事したり、こお (粉) 挽いたりする時 ナヤでなあ。ナヤの無い家は 母屋ですと 母屋 わややれ (目茶苦茶だ) 言うて、母屋のあがりたて (揚がりたて・勝手口) でしたり 表 (庭) でしたりすると 家の中が わややれ ナヤな (が) 欲しなあ (欲しい) なんやかや (色々) 汚い仕事すんのん (するのに) 言うて。ナヤん (に) あげま (揚げ間) 言うのな (言うのが) あって 床ん (に) 張ってあるとこ (所) あげまや (だ) 言うて、ナヤへ はんぶ 土間にして はんぶ 床張ると あげまや (と) 言うて。あげま一つ 作ってあると なん (何) 入れても そして 土間 はんぶ (半分) 土間で 藁仕事したり なんやかや 持て (持って) 来て どしゃげとくの (放り込んでおくの) 土間も 欲しなあ (欲しい) 言うて、あげまと土間とこしゃえて (作って)。

…なや【接尾語】なれば そんナヤ (それならば)

なやまし (悩)【形容詞】わずらわしい 心に掛る

なやみ (悩)。なやみごと【名詞】思わずらうこと 心配事 気に掛る事 悩むの名詞化 [会話] ナヤミな (が) 有って言うて、心配事な (が) 有ると、なやんどんね (でいるのだ) まあ言うてなあ。えっほど (余程) あれしよおか これしよおか言うて 悩んでふんぐりな (決断が) 切れんで (つけられなくて) 悩やんどんね (でいるのだ)。心配事な (が) 有ると ナヤミゴトな (が) 有るし。まあ あの子な (が) ぐわいな (健康が) わりい (悪い) とか、何処其処いたや (行ったら) 調子な (が) わり とか言うてな、心配事な (が) あんの (有るのを) ナヤミゴトな (が) 有って がいん (あまり) 仕事もしたないんよお (したくない) 言うてな。心配事な (が) 有ると 仕事もてえん (手に) つかせんやんかい。

なやむ (悩)【自マ五】心配する 思い患う ナゆ (姿) の転 (大言海)

なよなよ【副詞】勢いのない様 弱い様 (志 (布施田))

…なら【接尾語】…ね、でしょう (志、桑市、員、三、上) [会話] あんナラ、何処其処へいたやナラ (行ったら)、誰それな (が) おってナラ (居て) 言うて、後でなあ。誰それな (が) おって (居て) ナラ 喋つとやナラ (ていたら) 今しん (今に) なつてたんよお (ていったのです) 言うて。‘ですよ’ 言うのを お

そなつてナラ (遅くなって行って)、日な (が) 暮れててナラ (暮れていって) 家い (に) 行たけどナラ (が) 言うて。

ならい (ならひ)【名詞】東北風 冬に山並みに沿って吹く強い風 地方により風向きが変わる (志 (鶴方、波切、浜島、片田、志島、甲賀、国府)、鳥 (小浜、国崎、坂手、桃取、鳥羽)、四、三 (磯津)、度) [会話] ナライな (が) 吹いて来た言うて、ナライ 言うて これから来んの (来るのを) ナライ 言わせんか (言いませんか)。いなさと (南東) ませ (南) のあい (間) から来るのを ナライ ナライ ごちやなあ (だ) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。

ならいごち (ならひごち)【名詞】東北東の風 (志、松、漁師町) [会話] ナライゴチ ここから 吹いて くんの (来るのを) ナライゴチ 言うんやろなあ (言うのでしょうか)、ならい 東北い (に) 当たんのなあ (るのです)。

ならいごと (ならひごと)【習事】。ならいもん (ならいもん)【名詞】学校以外で習う芸事 稽古事 習字 算盤等について言う

ならう (ならふ) (倣)【自ワ五】真似する 真似る

ならず (鳴)【他サ五】名前などを知れ渡らせる 広く聞こえさせる 評判をとる [会話] あのひた (人は) ナラシトネテワイ (ているそうだ) 言うて、羽振りのええ (よい) のをなあ。若い時に はがね ナラス 言うて、名前 知れわたらす 響かす 言う事かなあ (でしょうか)。

ならず (均)【他サ五】平均にする 地面などを凹凸をなくし平らにする。(志 (布施田)) [会話] 溝 掘つといて (ておいて) 石入れて コンクリ うつまでん (に) ちづきせな (しなければ) 言うて ナラスの (のです)。

ならずもん (不成者)【名詞】道楽者 手におえない人 どうもかうもならぬものの意 (大言海) [会話] ナラズモン 言うのは 極道 やくざや (だ) とか言うの (のを)、いたずらばっかしたる (悪い事ばかりしている) 人を わり (悪い) 事ばっかしたる 人を ナラズモン。今しで言うと 暴力団 みたよなもんやなあ (のようなものです)。

ならび (並)【名詞】並んで居る状態 列

ならべたてる (並立)【他タ下一】1) 沢山並べる
2) あれこれと言いつのる

ならべまき【名詞】網や糸の巻き方

なららつた ならなかった [会話] あんで (あれで)

病気に ナララッタナア よおなあ (よく)。
 …**なられ** なります [用例] なつとなと (何とでも) ナラレ
なられた 怒鳴られた 大変怒られた (志 (志島、甲賀)) [会話] あれん (彼に) 今日は ナラレタ、かっこんで来た (駆け込んで来た) 言う訳やわい (です)。
なられる 怒鳴られる 激しく叱られる (志 (志島、甲賀))
ならわかず (ならはかず) (習) 【他サ五】 習わせる 教えを受けさせる
ならわし (ならはし) (慣) 【名詞】 古くから、又はよく行われている風俗習慣 しきたり [会話] この家の ナラワシやんか (でないか) 言うて、習慣の事をなあ 此処の ナラワシやんか (だ) この家の習慣 やんかあ (だ) 言う事やなあ (です)。
ならわす (ならはす) .ならわせる (習) 【他サ五】 教える しこむ [会話] ナラワス。裁縫 ナラワスとか 教えてもらう事を 習う言うの (ののです)。裁縫 教えてもらう言うのを 裁縫 習いに行く。じい (字) 習いに行け、今しやったら (今だったら) 習字い (に) 行け、じい (字) 習いん (に) 行かんかれ (行きなさい) 言うて。教えてもらう事 ならう。習わん (習わない) お経な (は) 読めよかれ (読めません) 言うやんない (でしょう)。
 …**ならん** しなければいけない ならない (志 (布施田)、桑市、員、四、鈴市、松、多、上、阿)
ならんこと 不可能な事
ならんどる 並んで居る 連なって居る [会話] 並んでいる 並んで居ます言うのを ナランドル。なるどる 言うね (言うのです) なるどるやんかあ (でないか) 言うねな (のです)。
ならんねなし 経済的に生活が苦しいと言う程でも無いのに (志 (布施田))
なり 【形容詞】 【名詞】 1) 形態 ざま たっぱい 物の形 特に人の体の格好 服装、又、髪形 服装などを含めた人の姿 身なり 様子 状態 ありさま 2) 世間体 体裁 [会話] 1) ナリ言うな (言うのは) ふう (格好) を、ナリな (が) ええ (いい) とか、わり (悪い) とか。たっぱい見よまあ (格好見なさい) 言うな (言うのは) 笑う言葉やし (ですし) うた (おお) あのたっぱい見よまあ 言うて。ざまやたら (だとか) たっぱいやら (とか) 言うな (言うのは) 笑う言葉やし。

…**なり** そのまま 全部 入れもんナリ 体言、或いは用語の連体形を受けて、その状態である意 又は、その物を含む意を表す (志、四、津、阿、張、名) [会話] 入れもんナリ (物・容器共に) くれた。入れもんごち (物ごと) くれた言うて。入れもんごち くれるわい (あげます) 言うて。入れもん (物) ナリ 持てけえ 入れもんごち (物ごと) 持てけえ (持って行きなさい) とか。これつきりやでえ (です) 言うのも こんナリやでえ (です)。きもん (着物) も どこや かや (何処かへ) 行くの 着替えんと (着替えずに) こんナリ (このまま) 来たとか、そんナリ (そのまま) 来たとか。きもん 着替える あい (間・時間・暇) も ねえし (無いし) そんナリ来たよお 言う時もある。そし といて (そうしておいて) そんナガリ (そのまま) 行かんかしたら (行きなさいとか)、そのまま 行け言うのを。そのまま 着替えんと そんナガリ 行かんかれ (行きなさい)、そんナリ 行けとか それごち 行けとか。こんナガリ かいなあ (このままですか)、そんなら (それなら) 言うて まあ (もう) 着替えんと (着替えずに) 世話なのん (面倒なのに) こんナリ行くわ (このまま行きます) まあ 言うて。

…**なり** これつきり

なりあがりもん 【名詞】 低い地位より高い地位になり上った者。貧しき者が急に富む事

なりきん (成金) 財産家 急に金持ちになること (志 (片田)、阿) [会話] 金持ち 物持ち 鞆持ち ナリキンや (です)。人の家や (は) ナリキンやし (ですし) わしらげや (我が家は) 無い金や (です)。

なりこむ (鳴込) .なりこんでく 【自マ五】 怒鳴り込む 怒って文句を言う [会話] ナリコンデキタ 言うて 怒鳴り込んで来た言うの (のを) ナリコンデキタ、かっこんで (駆け込んで) 来た。昔の人ら (達は) かっこまれて (駆け込まれて) 言うて、怒鳴り込んでく (行く) 事を あれん (彼は) かっこまれて、ナリコンデクと (で行くと) あんな (彼が) かっこんで来て まあ 言うて。

なりさがる 【自ラ五】 1) ぶらさがる 2) 多勢の人に 人気があり寄り集まる (志 (布施田)) 3) 落ちぶれる 没落する

なりしだい (成次第) 【名詞】 【形容詞】 なるがままにする [会話] おっきい (大きく) ナリシダイや (です)。

なりたち (成立) 【名詞】 1) 生い立ち 出来上るまでの過程 2) 姿形 なりふり

…なりと【副助詞】なりとも でも [会話] なんナリト、もてかんかれ(持って行け)言うて、此れ 貰うても(貰って行っても) ええかいな(よろしいか)言うて 色々あんのを(有るのを)、なんナリト、もてかんかれ(持っていけ)言うのなあ(です)。なんでもええよって(よいから)もてけ(持って行け)言うのを、なんナリもてけ(持って行け)、どれでももてけ 言うのをなあ。

なりどし【名詞】豊年 果実などのよく獲れる年(上、阿、張、名)

なりなわり 1) 格好が悪い きまりが悪い 2) 凶年で野菜、果実が不作だ [会話] 1) ナリナワリ言うのなあ 身姿な(が)わり(悪い)人も有るし、格好な(が)悪いのを。2) それから くだもん(果物)とか畑の胡瓜とか 南瓜とか なすびな(茄子が)わり(悪い)時に 今年や(は) まあ ナリナワリなあ言うしなあ(言います)。

なりふり【名詞】形振り 服装や態度 身なり ようす(志(布施田)、鳥) [会話] ナリフリかまわず働いて言うのなあ(言うのは、体の格好も 品(様子)も言うたらんと(言わずに)働く人を ナリフリかまわず働いて言うて。着物は どげな(どんな)もの着とでも(着ていても) 髪の毛なつとしとると 体の格好なつとしとると(なんとしていようと) 構わんと(構わずに)ただ働いただけ(が)、働きさいしゃ、ええ(さえすればよい)。そげなのお(そんなのを)ナリフリかまわず言うて。

なりふりかまわんと 格好などがまって居られない 見栄も体裁もない なりふり参照(志(布施田))

なりもん【名詞】柑橘 果実、野菜類の総称 なりもの果実のなる木、又その果実 果物 [会話] ナリモン くだもんや(果物だ)とか 畑のもん(物)でもなあ、ナリモン言うしなあ(言います)。梨や 密柑や 胡瓜やなすびや(茄子だ)言うて。

なりもん【名詞】楽器 鳴物 [会話] なんやかや 鳴らすもんなあ(物です) 楽器の事なあ(です) ナリモン。

なりもんのきい【名詞】柑橘類の木

なりや【接続詞】なれば ならば(志)

なりわたす 渡す 両端を支柱に乗せ空中に浮かす [会話] 稲 干したりすんのも(するのもの) さぎつちよ(三本脚の支柱)に しといて(しておいて)ナリワタス。

なる【名詞】支柱用の太い丸太 物を掛ける横木用の丸

太 はさの横木 なる参照(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、阿、張、名、北) [会話] 網掛けの はさ 組んであんの(あるのを)ナル。稲干す、ナルとか、めえ(若布)干す、ナル。

なる(成)【自ラ五】出来る(志)

なる(鳴)【自ラ五】大声を出す(志(甲賀))

なるい【形容詞】1) 容易 かるい 物事をなしとげるのに苦勞を要しないさま ぬるい 温い 熱さが不十分である なまあつたかい 厳しさが足りない 手緩い 動きが激しくない 才覚が鈍い 愚鈍だ 2) 情熱が薄い 熱心でない 3) 程度が甚だしくない(志(浜島、布施田)、四、鈴郡、鈴市、安、津、阿、張、名、北、南、熊) 4) 傾斜がゆるい(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] 3) ナルイ言うのは うとんぼ(ぼんやりした人)の事やなあ(です)。あや(彼は)にげな(人間が)ちよいと(少し)ナルイね(のだ)言うて、おとなし、しとたり(おとなしくしていたり)とぼんとしとると(しょんぼりしていると)あや(彼は)まあ ちよいと ナルイねよって(のだから)言うて。なんやかや(色々)物した時でも ちよいと ナルウしとけ(しておけ)言う時な(が) あるやんかい(あります)。4) 坂な(が)ナルイとか 坂な(が)ぞんべ(なだらか)などこ(所)あ坂 ちよいと ナルウてええなあ(よい)言うて。ぞんべ言うな(言うのは)おんのと(きつさかやなしん(急坂でなくて)ちよいとすべつとしとんのなあ(しているのを)おんのと(が)いな(大変な)傾斜やのおて ええなあ(でなくてよい)言うて。3) 仕事も ナルイ あんまり(あまり)ちゃかちゃかとしやへんのを(しないのを)仕事な(が)ナルイなあ あのおなが(女は)しごた(仕事は)ナルイけど ロや(は)えろおて(大変で)言うて。程度な(が)まづいのおを(のを)。

なることなら 出来る事なら(阿、張、名)

なるだけ【副詞】出来る限り なるべく [会話] 出来るだけせんかれ(しなさい)言うのをな、よお(よく)するだけせんかれ 言うてな、出来るだけせえ(しなさい)言うのを ナルダケせえ 言うて。

なるはらくだる【俚諺】腹が、ごろごろ鳴ると下痢をする [会話] 腹が ごろごろなって来た、ナルハラクダル言うて そや(それは)くだってくんど(下痢してくるぞ)言うて。

なるへそ【副詞】なる程の戯れ言葉 (志 (浜島、布施田)、鳥、張、名)

なれ (慣)【名詞】たびたび経験して平気になること 習慣になること [会話] あのひた (人は) よお (よく) ナレとんなあ (ている) 言うて、なんでも (なにでも) 仕事な (が) 上手なとなあ (だと) あや (あれは) まあ ナレやなあ (だ) 言うて、仕事な (が) 上手ん (に) すむうず (スムーズ) にしとると (していると) ナレトルもんで (ているので) 上手な (だ) 言う事な。あのひた (人は) まあ ナレやなあ あや。

…**なれ【接尾語】**文末、節末につく でしょう …ね (志 (布施田)、鳥) [会話] あんナレ 昔々ナレ言うて、あんならとか 昔の人は あんなら言うし (言います)。あんなら あれをしてなら こげん (こんな) にして言うて、若いもん (者) は あんナレ言うし。あんなら言うて 友達に言うの (言うのです)。あんなら 今日 よなべしよおやんこ (夜業しましよ)、よさや (夜は) なあ (縄) 縋うのん (の) に 蕨 打ってこいの (来なさい) 言うて。夜なべ すんのん (するの) に がっこ (学校) から来てから 蕨を しわ (四束) ごわあつ (五束ずつ) 打つといて (打つておいて) それをのおて (縋って・編んで) わあん (輪) にして こが (樽) へ 入れ込んで 一杯溜まって来ると こや (これは) 一杯たまった 三貫位 あんなあ (ある) てやら (とか) 五貫位あると どいらい (大きな) つぶりな (塊) 出来んねてや (出来るのです)。そすと (そうすると) うわぶき 家の人 らん (達) に のおて (編んで) もらう、越賀い (に) 売りん (に) 行くてや (行くのです)。あんナレ言うて あんなあ言うときや (言っておけば) ええことん (よい事なのに) あんなあ言う言葉は 丁寧な言葉で あんナレ言うと ちよいと (少し) 子供ら (達) とか 年ひた (下) の もんらん (者達) に あんナレ言うて。

なれあい (なれあひ)【名詞】1) 正式の手續をせず互に好き合って男女が一緒になること 野合 恋愛結婚する事 (張) 2) 互にしめし合せて事を行なう事 [会話] ナレアイやなあ (だ) 言うんなあ (のです)。あの人とまあ ナレアイで言うてな 親しい事を ふたんな (二人) が 腹 組んで 相談して (して) いろいろと すんのもなあ (するもの) ナレアイで。

なれあう (なれあふ)【自ワ五】1) 二つ以上の物が完全に混ぜり合う 2) 男女が密会する 私通

なれこ (馴事)【名詞】馴れて居る事 [用例] 怒つても、ナレコでこたえやせん (志 (布施田))

なれなれし【形容詞】1) 馴々しい いかにも親しそうである 2) 無遠慮である [会話] どぎつい (きつい) 言葉で言うにぎや (人間は) どんざり言葉で言うて。上品に ナレナレシ 言うにぎや おとなして 言うんけど (おとなしくて言います)。

なれのはて (成果)【名詞】落ちぶれた結果 なりさがつた末 ナリ (爲) の果の訛 (大言海)

なれやい【名詞】馴れ合い 互にしめし合せて事を行うこと [会話] なりやい言うのも ナレアイ言うのも ナレヤイも 一緒や (です)。

なれる (熟)【自ラ下一】調和する 食物が調理後、時間が経過したり、酸味、辛味がとんだり、吸収されたりして適当な味になる [会話] ナレル よお (よく) ナレテキタなあ言うて、味噌でも仕込むと ナレテキタなあ言うし (言います)。せんざり (充分) 搗いて 塩あわせ (塩味を整えて) して 手でつこで (つかんで) こなして (小さくして) だいぶよお (大分よく) ナレタナア言うて。ふたあ月みつき (二、三ヶ月) かいな (腕) 一杯 突っ込んで 肌 脱ぎかけといて (ておいて) しよおったね (して居たのです)。そして 手で握って 豆を潰すね (のです)。粒ん (に) なつとんのおを (なっているのを) そしといて (そうしておいて) 底から塩をこねて でんぐり返して (ひっくり返して) みつき (三ヶ月) 位すると だいぶ (だいぶん) ナレテキテ 食お (食べよう) 思や (思えば) 食われるけど はなくさいけどなあ (椀の臭いするが)。そやよってん (それだから) 若味噌 食わんよおん (食べないように)。若味噌 食わまい (食べたくない) 思うと ひとつつつ (一つずつ) しおくりするけど (後回しします)。そやよってん 四斗樽ん (に) 三杯位つ (ずつ) 味噌は ありおったわい (ありました)。はやみそ 若味噌 食わまい 言うて ひとつつつ (ずつ) 仕送りすると それ食うとる うちん (食べている間に) こっちゃん (こちら) が ナレルもんで (ので)。そんで (それで) 味噌漬けしたり しよい (醤油) 炊いたりして 家で しよいも (醤油も) 皆 取りおったの (作って居たのです)。なんも (何も) 金 稼ぐとこな (所) が 無いねよって (のだから) 自給自足でせなはざんの (しなければいけないのです)。漬けもん (物) もナレル。漬けもん (物) も 味噌漬け 袋ばか (ばかり) 三杯も入れとるてやら (入れているとか) 言うて、なすびや (茄子

だ)、干しだいご (大根) や、皆 漬けよおったの (漬けて居ました)。牛蒡や人参や言うて。甘酒も搗くとさいご (その時) 甘酒な (が) ナレテキテ うまいなあ言いおったやんかい (言っていました)。ナレテくんと (来るのと) すいなってくんと (酸っぱくなって来るのと) 一緒やなあ (だ) 言うて。そして びんぼや (貧乏屋・貧乏な家) の味噌で ナレタガ 無いやれ (無いのだ) 言うて びんぼや は味噌も ナレルまで 皆 食べたて (食べてしまつて) 無いもんで (ので) なれたが 無い言うて ナレルと無いね (無いのです)。昔や (は) しよんがつん (正月に) になると 家一軒 どげな (どんな) 事な (の) あつても、来るもん (者) に 接待に 甘酒 沸かして 出しおったの (出して居たのです)。しよんがつん過ぎに 麦よせん (に) いて (行つて) 腹 減らして きといて (来ておいて) ものきい (物置に) 入つて茶碗に一杯 甘酒の冷を もやげといて (盛り上げて) 食べんのおの (食べるの) うまい言うたら ほんどん (本当に) 忘れられやへん (忘れられません)。

なろう 習う (志、一)

なろか なるものか へえのつっぱりにもナロカ

なろかい ならない

なろことなら 出来る事なら 可能なれば

なろた 習った (志、一) [会話] 習い事すんのなあ (するのです) あの人の 教えてもろた (貰つた) 事を、あの人ん (に) ナロテ言うて。あの人ん (に) ナロテなれ (習つて) 早よ (早く) のもいて (お前も行って) ナロテコイ言うて。

なろだ 並んだ

なろて 習つて (志)

なろで ならんで ならぶ 並ぶ 双ぶ 二つ以上の物二人以上の人が同じ方向に向いて列を作る [会話] そこい (へ) 並べ言うたり なろべとけ言うねなあ (並べておけ言うのです)。並んで来いまあ (来なさい) 言うて、なんやかや (何や彼や) 買う時でも 並んでせな 後ろから 来ておつて (来たのに) 先い (に) 飛び込んで 言うて ナロデせな (しなれば) はざんわい (駄目だ) 言うて、買いもん (物) いて (行つて) つむ (混雑する) 時や (は) おつそお (遅く) から来ても 先向いて 割り込んでくと (いくと)、あやあれ (あれ) たくましねよつて (厚顔のだから) 見よまあ (見なさい) 後ろから来といて (来ておいて) 割り込んでたんよお (行つた) 言うて。ナロ

デク ナロデク 言うて、並んで行くの (のを)、ナロデカナ (並んで行かなければ) はざんわれ (いけません) 言うて。

なろてく 習つて行く 教わつて行く [会話] 教えて貰つてく (て行く) 言うことを、ナロテク 言うのなあ (です)。なろて (習つて) 来た 言うて、教えてもろて (貰つて) 来たれ 言うのな、あの人ん (に) なろて 来た言うてな。

なろでく 並んで行く 連れだつて行く [会話] 並ぶ 事を ナロデク 言うの。みんなな (皆が) 並んで 行く言うのをなあ 早よ (早く) ナロデイコやんかおれ (行きましょう) 言うのなあ (です)。なろでこや (行きましょう) 言うの (のです)。並んで行きます言うのをな、ナロデク。

なろてこい 習つて来い

なろでこい 並んで来い

なろてこや 習つて行きましょう

なろでこや 並んで行きましょう [会話] みんなな (皆が) 並んで 行く言うのをなあ ナロデコヤ 言うの。

なろとかな 習つておかなければ

なろとた 習つて居た

なろどた 並んで居た

なろとて 習つて居て

なろとて ならうとして [用例] なんにナロトテ、べんきよもせん。

なろどて 並んでいて [会話] よおけ (沢山) 並んど ると (でいると) よつけ (沢山) ナロドテ 言うなあ 並んで居ます言うのを。

なろとても 習つていても [会話] おさらえ (復習)。なんやかや (いろいろ) 稽古 することを おさらえ。なろて (習つて) あるけど、ナロトテ もまた それを 稽古すんのを (するのを) さらえや (復習だ) 言うて。

なろどても 並んで居ても

なろとる 習つて居る

なろどる 並んでいる 列 を作っている [会話] 座敷 より ちよいと (少し) ちごたとこん (違った所に) あつて、座敷とナロドル けど (並んでいるが) 部屋な (が) ちっそおて (小さくて) 表や (だ) 言よおつた (言っていました)。

なろとれ 習つて居れ

なろどれ 並んで居なさい

なろどれ …なるのか なるものか 役に立たない [会話] あげなのおな (あんな者が) なんに (なに) (に) ナロドレ 嫁ん (に) もろたててな (貰つても)

とと (夫) とも よお (よく) 寝ん (る) のかれ言うてなあ。

なるな なるのだ なるのか 否定を表す [会話] あいなの (あんな者) 嫁にもろたてて (もらっても) んにナロナ (役に立たない)。

なるべとけ 並べておけ

なるんどる 並んで居る (南)

なるんどれ 並んで居れ

なわおび (なはおび) (縄帯) 【名詞】 縄で帯びをすること 多人数の子供で全員に帯びが行き渡らず、縄で帯の代用とした

なわつき (なはつき) (縄付) 【名詞】 罪人 縄にて縛られる事

なわない (なはなひ) 縄作り (鳥、多)

なわなう (なはなう) 縄を作る

なわぶね (なはぶね) (縄船) 【名詞】 1) はえ縄漁をする船 2) 縄で作った祈り舟 [会話] ₁₎ ナワブネ言うな (言うのは) がいん聞かせんなあ (あまり聞きません) ながのはえる (延縄入れる) 言うな (言うのは) 言うけど ながのはえんのおを (はえるのを) ナワブネ言うねやあか (言うのでしょうか)。しび (まぐるの一種) 縄言うのは 言うけど しびなあ (縄) はえんいて (行って) 言うて。しびなあ はえん行くな (行くのは) おとしね (怖いのです)。昔や (は) しびなあは おとしめえん (怖い目に) よけ遭うね (多く遭うのです)。時化に よけ 遭うね、だいなん (遠い沖) 出てくもんで (出て行くので) しびなあ 遭ぎしとると (水夫していると) おとしわれ (怖い) 言うて。しい (に) 行き過ぎるもんで (ので) 時化な (が) して来ると 遭難する時な (が) ある もんで (ので) しびなあは おとし (怖い) 言いおったね (言っていました)。しびなあ後家言うて 昔や (は) しびなあ行くと 後家ん (に) なんね (なるのです)。流れて (流されて) 後家ん (に) なんのな (なるのが) 多いもんで (ので)。

なわめ (なはめ) (縄目) 【名詞】 縄で縛られる事 犯罪者

なん (何) 【代名詞】 なにの変化した語 何に同じ なんだ なにか なんだ 助詞 助動詞と複合して用いられる (三重県全域) [会話] ナンをえ (ですか) 言うてなあ、ナンですか言うのを ナンをえ言うのなあ (です) ナンか (何か) 教えてもらお、おもて (貰おう思って) 来るやる (でしょう)、その ナン 教えてくれ (下さい) 言うんか (言うのか) 判らせんもん

で (ないので) ナンをえ (ですか) 言うてなあ、なに、言うよおな 意味や (です)。ナンどお (なにだ) 言うたり ナンをえ言うたりなあ。

なん (難) 【名詞】 1) 欠点 落ち度 2) 災い

なんええ 【感動詞】 1) 聞き返す言葉 何ですか 2) 相手の言葉に対し怒る時の言葉 なんだと [会話] ₁₎ なんをえ言うのも ナンえ言うのも 一緒や (です)。なにをなあ言うて 聞く事やなあ (です)。ナンえ言うて 聞くの (のです) ナンえ言うて 聞くのと、₂₎ 相手を怒る時ん (に) ナンえ言うて 相手な (が) なんか (なにか) 言うて来るやんない (でしょう)、お前や (は) なにしたやる (だろう) 言うて、ナンえ言うて そいな (そんな) しやへんのん (しないのに) そやって (そうして) 言われると そいな時になあ ナンえ言うて。聞き返す時は おとなく ナンえ言うとんねけどなあ (言っているのだが)、腹な (が) 立って ナンえ言うて 言葉え力入れて言うのなあ (です)。

なんお (を) 【代名詞】 何を 相手にその物が判っている時その物をさす あれを [会話] なんかくれ (なにか下さい) 言うて ナンや言うてなあ、其処ん (に) 有る ナンや 取つておこせ (下さい) 言うて。

なんお (を) え 何をですか

なんお (を) ええ 何だと

なんお (を) なあ 何ですか 疑問 反語

なんおや 何をですか なんを参照

なんおよお 何をですか

なんか 1) 何か ナニカの音便 (広辞苑) 2) おやつ 間食 (上、阿)

ながい 【形容詞】 長い (志、鳥、桑市、三、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、多、度、伊) [会話] 長い ナンガイ (大変長い) ふのり (海藻) も伸びて ナンゴオなつとんない (長くなっている)、ふのり摘みん (に) いても (行っても) ふのり こげんなつとんのか (こんなになっているのか) 言うて。物が ナンゴオても (長くても) どいらいなあごお (大変長く) 続いとんねなあ (続いているのだ)。ナンガイねなあ (のです)。ナンゴオ (長く) 引つ張つとんねなあてやら (していると)か 言うて。

ながいあいだ 【名詞】 長い間 久しく (鳥 (相差))

ながいこと 【名詞】 長い間 ながらく 長時間 久し振り [会話] 長い事言うのを ナンガイコト 邪魔したなあ言うて、なあがい 言う時と なながい言う時と、その人ん (に) よって、ナンガイコト 邪魔し

たなあ言うて おんなし (同じ) 事やけど (だが)。

なんがいもん 【名詞】 蛇類の総稱

なんかなし なんとなく とにかく とにかくにも
どことなく (北) [会話] 色気知らんにげ (人間) は
ナンカナン ごっつい わい (野暮です)。

なんがね 何が 何がだ (志)

なんがり ながり そのまま [会話] 生節は 炊いた
ナンガリンのおを (ののを) 削んねやんかい (削るの
です)。

なんぎ (難儀) 【名詞】 1) 困却するさま 面倒なさま
困難 困惑 (志、張、阿、南) 2) 貧しいさま 貧乏
3) 苦しい つらい [会話] 1) ナンギの山々したれ
(しました) 言うて、えらいめえん (大変な目に) 遭
うと、ナンギの山々やった (だった) 言うて。2) 苦し
いとか つらいとか びんぼで、ナンギして言うて。
昔や (は) びんぼ (貧乏) で こんじよ (根性・努
力) して あの家も 今しや (今は) よお (よく) な
って来たけど 昔や (は) びんぼで ナンギしたれ
(しました) 言うて。

なんぎがる (難儀) 【自ラ五】 苦しがる 辛く思う 嫌
がる [会話] ナンギガル言うな (のは) 困る事を。
おおた 弱ったなあ言うて ま そいな (そんな) 事
言われても おらな (俺が) ま 弱られ (困る) 言う
て、おら (俺は) まあ そいな (そんな) 仕事 頼ま
れても よおせんし (出来ないし) 弱られまあ (困り
ます) 言うてな。 そいな (そんな) 時んなあ (に)。

なんぎや 迷惑だ。嫌だ。困難だ。

なんきん 【名詞】 1) 小さな南瓜 (阿、鈴市、安、津、
上、張、名、南) 2) 背の低い人 [会話] 2) せえ
(背) の ひっくい (低い) 人も あや (彼は) ちび
やなあ (だ)、ナンキンやなあ (だ) 言うて、あや
(彼は) ナンキンで おっきいならせんねどお (大き
くならないのだ) 言うて。1) ナンキンカボチャは あ
んだけより (あれだけより) おっきいならせんね (大
きくならないのです)、それい (に) 例えて ちっさ
いとさいご (小さいとその時) あや (彼は) ナンキン
や (だ) 言うて。

なんきんかぼちゃ 【名詞】 小さな南瓜 [会話] ナンキ
ンカボチャ言うのな (が) 有るやんかい (有ります)
ちっさいの (小さいのを) 言うんかいなあ (言うので
しょうか)。

なんきんだま (南京玉) 【名詞】 くらげの一種 はなさ
かくらげ 傘は穹窿状で、直径は普通40~50mm
であるが、100mmに達することもある。放射管は

4本または、6本となっている事が多いが、その中間
型のものが多数見られる。触手は2程であって、傘縁
に生ずる線状のものと、傘の途中から生ずる蓋触手と
がある。蓋触手は求心管の末端から生じている。本種
はもっとも美しい水母の1種であって、本邦の中部地
方以南の湾岸に春期に産する。天草地方では、細胞の
毒が烈しいといわれている

なんきんぶくろ (南京袋) 【名詞】 穀物などを入れる粗
織りの大きな麻袋 [会話] ナンキンブクロ言うて
ざらざらみたよな (のような) 袋な (が) 有りよおっ
たやんかなあ (有ったで有りませんか)。 さとやどけ
な (砂糖などが) 入れて来てな あいなのおを (あんな
のを) ナンキンブクロや (だ) 言よおったの (言っ
ていたのです)。

なんごお 【形容詞】 長く (志) [会話] 長い時間 かか
ったの (のを) おおた ナンゴオかかったなあ 此の
仕事あ (は) 言うてなあ。 ほんどん (本当に) ナンゴ
オかかったれ (掛かりました) 言う人も有るし。

なんごと 【名詞】 何事 どんな事 (津)

なんざん (難産) 【名詞】 出産の困難なことに例えて
1) 便秘して排便が容易でないこと 2) 物事が容易
に成立しないこと [会話] 1) 高野山 (便所・かわや
さん) 行たけど (が) ナンザンやった (だった) 便秘
するのなあ ナンザンやったなあ (だった) 言うて、
たいさんやった (難産だった) なあたら (とか) 言う
てな 便秘した時を。

なんしえ 【副詞】 何にしろ

なんしたて 何をして

なんして 何故に (志、一、張、名)

なんしても 1) どうしても 否応なく 2) 何をして
も [会話] 2) ナンシテモ 気に入らんで (なくて)、
ナンシテモ どんくそおて (下手で)。 姑婆さん
な (が) むつかしと (難しいと) 嫁さんな (が) どいな
(どんな) 事しても 気に入らせんもんで (入らない
ので)、わしら (私は) ナンシタテ (なにをして
も) よお (よく) 気に入って貰らわんで言うて。 ナン
シテモ 嫁な (が) するこた (事は) わりいて (悪く
て) つるべざわな (釣瓶竿が) 割れとても (ていて
も) 嫁なわり (が悪い) 言うて、わりこた (悪い事
は) 嫁ん (に) かづけよおった (かこつけて居まし
た)。吸わん煙草も みな嫁に言うて 嫁な (が) 皆
かづかよおったね (かこつけられて居たのです) わり
こたなあ。

なんしとんね **なんしとんねどい** 何をして居るのです

か [会話] 仕事しとると (している) おまや (お前は) ナンシトンネドイ言うて。

なんしとんねやな (女性語) 何をしていますか

なんじゃい (なんぢやい) 【感動詞】 何だ

なんじゃか 何だか 理由がなにか判らない なんとなく なぜか なにやら (志 (立神、鶴方、神明、国府))

なんじゃかじゃ。なんじゃかんじゃ 何だ彼だ なんだ かんだ あれやこれや あれこれいろいろ ああだこうだ あれこれ (員、鈴市、安、一、北、南、熊)

[会話] ナンジャカンジャ言うたててなあ (色々と言ったところで) なんやかや言うたててなあ (言っても) 言う人もあるし (あります)。ナンジャカジャ言うたてて、そげん言うたてて あげん言うたてて (あんなに言っても) 言うのを ナンジャカンジャ言う。なんぞかぞも一緒 なんぞかぞ言うたてて 言うの (のを) ナンジャカンジャ言うね (言うのです)。なんとかかんとか言うたてて 言う事を ナンジャカンジャ言うたててなあ (言っても) そや (それは) こおやんかあ (です) 言うて。

なんじゃら 何やら 何だか (北) [会話] ナンジャラ かんじゃらして言うて、なにやかや言うの (のを)、ナンジャラ かんじゃらと忙して言うて、色々な仕事した時になあ、なんやらかやら言う人も有るし。喧嘩する時でもな ナンジャラ かんじゃらと ぐざぐざ (愚図愚図) 言うて言うしなあ、喋つともなあ (ていても) ナンジャラ かんじゃら言うて まあ言うて いろんな (色々な) 事言うとなあ なんだかんだ 言う人も有るし。

なんしよ 【名詞】 内緒 内密 ないしよ 内証 内所 表向きにせずこっそりする事 秘密 うちわの事情 ないしよ参照 [会話] 内緒言うのを ナンシヨ言うの (のです)。ナンシヨ言うやんかい (言います) 秘密ん (に) する事を。ナンシヨんしとこやんか (にしておきましょう) 言うて。秘密んしとこや (にしておきましょう) 言うのを。ナンシヨんしとこや (にしておきましょう) 言うて、ナンシヨゴトして言うて 秘密事言うのを ナンシヨゴト。ナンシヨ話し、内証話しもあるし (あります)。ナンシヨ話し言うな (言うのは) ふたんな (二人が) ひそひそ話すんの (するのを) ナンシヨ話。

なんじょお (なんじょう、なんでう) 【名詞】 【形容詞】 困難 難渋 難儀 物事の処理や進行が困難ですらすら進まないこと 困ること 貧乏なこと なんじゅう

の訛 [会話] ナンジョオ言うて 坂 上がったたり下りたりしのくい (しぬくい) とか、はいりのくい (にくい) とか、言う事な (です)、ナンジョオなとこ (所)。山坂 ナンジョオ みとせ (三年) 越え言うやんかい (言います) 難儀やんかい。難儀なとこ (所) 険しいとこは ナンジョオな道を言うて言うやんかい (言います) 険して (険しくて) 通りにくい (ぬくい) とこを 言うんや (言うのです)。山、坂、ナンジョオ みとせ (三年) 越え ナンジョオな道やったなあ (だった) 言うて、壺坂の あれな (が) 有るやんかい (有ります)。

なんしよおかいのお 何をしましょうか

なんしよごと 【名詞】 内緒の事 内密の事 ないしよごと参照 [会話] ナンシヨゴト、人ん (に) 言わんと (言わずに) こそこそと ふたんなすんのを (二人がするのを) ナンシヨゴトや (だ) 言うなあ (言います)。人なおとこで (が居る所で) せんとなあ (せず)に おらんとこ (居ない所) で すんのを (するのを) こそこそと なんやら (なにか) ふたんなしとられ (二人がしている) 言うて、ナンシヨゴトや (です)。内緒言わんと ナンシヨ言うてな。ナンシヨでそれ言うて、袖下や (です)。なんでも (なにでも) ナンシヨでして 好かんなあ (嫌だ) 言うて はたん おるひた (傍に居る人は) なんしよ すると 好かん わいやんない (嫌でしょう)。

なんしよばなし 【名詞】 内緒話 ひそひそ話 [会話] ナンシヨバナシすんのを (するのを)、こそこそ話して言うて。耳のもとい (近くへ) いて (行って) 言うのをなあ こしよこしよばなしや (だ)、ナンシヨバナシや (だ) 言うて。

なんしよもん 【名詞】 内緒物 漁期以外の鮑や海老 規格以下の鮑、海老 (志) [会話] ナンシヨモン言うて、売られんもん (ぬ物) 売ったり、獲られんもん (物) 獲ったりすんの (するのを) ナンシヨモンを まあ言うて、秘密でする事をな ナンシヨモンやんな (です) こや (これは) 言うてな。鮑の 小さいの獲ったり、あや (あれは) おとしねてや (怖いのです) ともぎんみ (共吟味) でなあ いやらしの (嫌なのです)。なんしよで 獲て来てもなあ なんしよで やるおもてもなあ (あげよう思っても) はた (傍) のもんな (者が) ちゃんと めえ (目) 張つとて (見張っている) あや (あれ) やつとんね (しているのだ) 言うて、ちゃんと悟つてするもんで (するので) ナンシヨゴタ (内緒事は) いやらしなあ (嫌だ) 言うて。

なんしろ (何) 【副詞】 なんにしても ともかく いずれにせよ 他の事はさておいて一つの判断や主張を強める気持ちを表す

なんしろ 【名詞】 苗代 (志 (御座)、南) [会話] なわしろ言うのをなあ なんしろや言うね (だ言うのです) 苗場をなんしろや (だ) 言うてな なんしろ田や (だ) 言うてなあ 苗場言わんと (言わずに) なんしろや (です)。なんしろ 苗代 たあ (田) の苗代。苗代する時ん (に) 皆 かためまきして 燠炭焚いて。すくもを 焚いたると (焚いてやると) 灰ん (に) なってくもんで (いくので) くんたんに くすべんねやんかい (くすべるのです・いぶす)。一斗鐘へ 穴あけて それい (に) 火 焚いて しといて (しておいて) それい (に) すくも (籾殻) を 焚かんと (焚かずに) くすばらかすの (いぶすのです) くんたんにすんの (するのです)。稲 撒いといて (ておいて) そして 上へ くんたんふりおったの (振って居たのです)。土 掘っといて (ておいて) 又 くんたん振って 土もふるて (振って) じっばん (立派に) して田の土やなしん (でなくて) おか (陸) の土 ふるて (振るって) じっばん (立派に) して 袋い (に) 入れといて (入れておいて) 撒いた上い (に) 皆 籾な (が) かくれる程度にしといて (しておいて) その上へ くんたんふって そしてナイロン覆せて。ビニール覆せて そして そんな (それが) もちやがって (持ち上がって) 来るまで 覆せといて (ておいて) もちやがって (持ち上がって) 来ると まくんねやんない (捲くるのです)。そすと こんだ (そうすると今度は) 水加減して 朝、水切りんいて (に行つて) よさり (夜) 又 入れん (に) 行きして 世話かかんねんなあ (面倒がかかるのです)。手入れせな (しなければ) 苗もん (物) 育つのん (の)に 出来やせんやんない (出来ないでしょう)。かためまき かため撒き言うて 仲間て 今日 わしげ (私の家) の撒いて、こんだ (今度は) あんたげ (貴方家) の撒きいして。かため (交互) に かためまきしょおや (しましよう) 言うて 交替する。

なんしろだ 苗代田 稲を発芽させる田 [会話] 苗床言うのは なんしろや (苗代だ) 言うて、なんしろだ言うてな 苗代言うのを なんしろだ言うてな。

なんしろにし 【名詞】 苗代の苗が 成長した頃に吹く西の風 [会話] なんしろな (苗代が) あおで (青くなって) くと、苗代を 風な (が) なびいてしとると (していると) こや (これは) まあ なんしろにし

な (が) 吹いて言うて。

なんしろば 苗代 ないしろ参照 (志 (御座))

なんしん 【副詞】 何をしに 何のために どうして [会話] なんしん来たんど (のだ) 言うたり なんしんくんねど (来るのだ) 言うて、何をしに行きますか言うのを なんしん行くんどい (行くのですか) 言うて。

なんする 何をする (志)

なんすんど 何をしますか

なんすんねど。なんすんねどい 何をするのか 1) なにをするのですか 自問 2) なにをするのだ 吃問 [会話] 1) なんすんネドイ あがみや (貴方は) 言うて、男の人らや (とか) 目上の人らん (に) 言うね (言うのです)。そして目下ん (の人に) こや (これは) なんすんネド (どうするのだ) 言うてなあ なんすんの (するの) ですか言うの (のです) なんすんネドイ 言うて。

なんすんのど 何をするのですか (張)

なんせ (何) 【副詞】 何と言っても なにしろ (志 (鶴方、神明、立神、国府、桑郡、三、久、一、阿、張、名、度、南、熊) [会話] なんせ 今日 は まあ よお (よく) 風な (が) 吹いた えらいひいやなあ (大変な日だ) 言うて、なんせ 今日 は なんもせんと (何もせずに) 遊ぶや (のだ) 言うたりな、なんせ今日 は なんも (全く) はざあらった (駄目だった) 言う時も有るしなあ、なんせ今日 は なつとも (なんとも) ならせんなあ (ない) 言うて。

なんせえ 何と言っても、なにしろ、なんせ参照

なんぞ 1) なにか なにぞの転 (安) 2) おやつ (鳥、鈴市、安、上、阿) [会話] 1) なんぞくれまあ (下さい)、何かくれまあ 言うの、なんぞくれまあ、なんぞしてくれまあ (して下さい) とか言うて。なんとかしてくれまあ。なんぞかくれまあ (何か下さい) 言う時もある。何かくれ (下さい) 言う時もあるし 仕事な (が) わがと (自分) 一人で よおせんと (出来ない) なんとかしてくれ (して下さい)、何かしてくれ、なんかてつとてくれ (手伝って下さい) 言うのを なんぞしてくれまあ (して下さい) のおも (お前も) 言うて。

なんぞい 何ですか (志 (浜島))

なんそお (なんそう、なんさう) 【名詞】 様子 顔付き

なんそおなわり (なんさうなわり) 顔付きが悪い

なんぞかぞ なんだ、なんじゃかじやに同じ [会話] なんぞかぞ まあ するこた (事は) よれ (沢山) 有

るけど(が)ま 休め言うてなあ。しいかけやなあ
(し始めです) ナンゾカゾ よれやれ(沢山だ) ま
たまには(時には) 休め言うてなあ。

なんぞれかぞれ 何やかや いろいろ

なんだ 風いだ 風が止んで波が無くなり海面が穏やか
になった状態(志)

なんだ なにですか [会話] ナンダこや(これは) 言
うて、なんど(なにですか) 言うのも、かあやん(お
母さん) こや(これは) ナンダ言うてな なんですか
言う事なあ。

…**なんだ(せなんだ)** …なかった 動詞及び動詞活用形
の未然形について過去に於ける動作、作用、状態など
の打ち消しを表すぬあったの転か せなんだ しなん
だ と 来やなんだ 来しなんだの二形がある。中世
後期から近世江戸語まで用いられたが江戸語の末期に
は、なかったも用いられるようになり現代語では関西
地方で用いられる以外なかったに取って代わられた
(鳥、伊賀地方、度) [会話] せらった(しなかつ
た) なんもせナンダ なんもくれナンダ(なんにもく
れなかった)。今日は なんもせらった言うて しな
かった言う事を あれげ(他家・あの人の家)へ 行
たけど(行ったが) なんもくれナンダ(くれなかつ
た)。

なんたら 1) なんとか どうにかこうにか(安、北)
2) 何か

なんたらかたら どうにか やっと なんとかかんと
か いろいろと(阿、張、名) [会話] 今日は 風で
沖い(に) 行かれやせんし(れないし)、ナンタラカ
ンタラ しいもて(しながら) 遊んどられ(でいま
す) 言うたり。そして 怒つとる(ている) 人な
(が) 有るとなあ、あや ナンタラカンタラ言うて
怒ってばっかおんねな(ばかり居るのだ) まあ言うて。

なんだれ 風になった 静かになった [会話] 風な
(が) ナンダレ まあ ひとばか(少し) 言うけど、
なんでくと(風いで行く)。

なんぢやかんぢや いろいろ 何か彼か なんぢやらか
んぢやら(志(布施田))

なんぢやらかんぢやら 1) いろいろ 何か彼か 2)
どおにかおおにか なんとかかんとか [会話] 1) ぶ
つぶつ言うとんのをな(言ってるのを)、ナンチャ
ラカンチャ言うて 怒てなれ言うて。

なんで(何)【副詞】 何故 何のために 反語に用い否
定する気持ちを表す(志、鳥(坂手、相差)、桑市、
員、四、上、阿、張、名、伊、尾)

なんで 風になって

なんでえ。なんでな。なんでね なぜだ どうしてだ
(志、鳥、松、伊)

なんでまた 何故に

なんでも 何でも [会話] 体を擦る ナンデモ おと
す(洗う) 時 擦ったれ(てやれ)。

なんでもかんでも 1) どうしても 2) 何でも彼でも
[会話] 1) ナンデモカンデモ せんならん(しなけれ
ばならない) 用事な(が) 出来て来た。

なんでもこい すべての事がよく出来ること 又、その
人 [会話] あや(彼は) ナンデモコイやどお(だ)
言うてなあ。酒ものおで(飲んで) 甘いもん(物) も
食うたりすると あのひた(人は) ナンデモコイやど
お、りよおと(両刀) 使いやどお 言うてなあ。仕事
でも なん(なに) しても えらいとなあ(偉いと)
ナンデモコイや(だ) あのひた(人は) まあ言うて、
なんしたてて(なににしても) 上手なね(のだ)、ナン
デモコイや(だ) 言うて なんでも よお(よく) す
る人をなあ。

なんでもない 1) 簡単だ 苦にならない(鳥(鳥
羽)) 2) たいした事でない

なんでもなすび、さがったらぼおか、おちたらひろえ
【俚諺】 ざれ言葉

なんでや 何故ですか 何ですか [会話] おら(俺
は) 親やど(だぞ) 言うと、親ならナンデヤ言うてく
んね(来るのです)。

なんど(納戸)【名詞】 寝間 小寝間(桑郡、員、三、
鈴郡、鈴市、安、久、一、飯、多、阿、張、名) [会
話] ナンド 小寝間の事 ナンド 寝間を。小寝間
の事 コナンド 言うて 寝間は寝間で 一番 大將な
(が) 寝るところ(所) で、コナンド 言うて 年寄りや
とか(だとか) 子供らな(達が) おるもんや(居る所
だ) とか言うて。

なんど【副詞】 なにですか(鈴市、安、上、阿、張、名、
度、鳥、北、尾、南) [会話] ナンドオも一緒や(で
す) ナンド言うな(言うのは) ちよいと(少し) 野暮
な事やなあ(です)。ナンドイ 言うのも 一緒や(で
す)。あんたん(貴方に) こや(これは) ナンドイ 言
うて 問うのな(のです)、人ん(に) 尋ねる時なあ
(です) こや(これは) ナンドイ 言うて。ナンドイ 言
うな(言うのは) えらい人ん(に) 言うのなあ(ので
す)。ナンドイ こや(これは) 言うて 子供らな
(達に) 言うな、同輩のもん(に(者) 言うな ナンド
オ 言うんなし(言うのですし)。ちよいと(少し) 丁

寧に言うな (言うのは) ナンドイ。

なんどい 何ですか なんど参照

なんどえ 何ですか [会話] なんどや そや (それは)。なんどや、ナンドエとか なんどや言うなあ (言います)。

なんどお (なんだう) 何をするのか 何ですか [会話] ナンドオ、なあ (お前は) 今日は へえばっか (屁ばかり) へつとるやんかあ (しているでないか) 芋 く てきたんなあ (食べて来たのだなあ) 言うて、芋 食うと 必ず へえな (屁が) 出るもんなあ (出ます)。

なんどか【副詞】 どうか 困難ではあるが、或いは不十分ではあるが一つの事がなるさまを表す [会話] ナントカなるさ、金の無いもな 俺んとこい (の所へ) 来い、俺も無いけど (が) ナントカなるわ言うて、目的 立てんでも (なくても) なつとでもしてかれ (なんとでもして行く) 言うの (のを) ナントデモなられ (なる) 言うてな、ナントカなるやろど (なるだろう) 言うて、やまてや (目標が) 判からんでも そげんして (そんなにして) ナントカカントカ なるやろど (だろう) 言うてなあ。

なんどかかんとか 何とか彼とか、なんのかのと 1) どうかこうにか なんどか参照 2) 色々

なんどかなし 1) 気もとめずに なんのこなしに同じ 2) 何処となく [会話] 2) ナントカナシニ言う。なんとなしん (に) 今日は ぐあいなわりいて (様子が悪くて) 言う時ん (に) ナントカナシン まあ言うてなあ、何処な (が) わりねやら (悪いのか)、此処な (が) わりねやら 判らへん (ない) 時になあ、はっきりと 頭な (が) 痛いと、腹な (が) 痛いと、言うて、判らへん (ない) 時んなあ なにかなし言うのと 一緒や (です)。なにかなしん (に) 今日はまあ どこやかやなわりいて (どこもかも悪くて) 言うて。つかめどこな (掴まえ所が) 無い様な病気でなあ どこなわり (が悪い) 言うて とりしきって、しやへん ねけど (はっきりしないのだが) なんとなく 気持ちな (が) わり 時んなあ (に)。

なんどき (何時)【名詞】 いつ どの時刻 [会話] ナンドキ空 (だ)、八つ空 (だ)、九つ空 (だ) 言うて、今し (今) 何時かいなあ (ですか) 言うの (のを) ナンドキどい (ですか) 今し 言うて。いつナンドキ しや (それ) こおな (子が) 出て来るやら (か) 判ら せん (ないのに) 言うてな。今に 判らん事をいつナンドキ言うてな いつ 言う様な意味で 当ん (に) しとらん (していない) にげなくんのを (人間

が来るのを) いつナンドキ 来るか判らんよってんなあ (から) 用意しとかな (しておかなければ) 言うて。

なんどきでも 何時でも いつでも

なんど、こや 此れは何だ

なんどこやない 何はおいても すぐに 他を顧り見て いるところでない (志 (布施田))

なんどこなし 1) 簡単に 2) 気にせずになんのこなし参照

なんどして どの様にして (志、津、張)

なんどぞ【副詞】 どうかして どうかにか どうぞ

なんどな 何ですか (張)

なんどなし (何無)【副詞】 はっきりした理由の無いまま漠然とした判断を示す どころとなく

なんどもなんども 度々 (志 (鶴方))

なんどや 何ですか なんどえに同じ

なんどれ 何だ 何ですか (北、尾) [会話] ばあやん (お婆さん) 言うて、としより (年寄り) の人な (が) ナンドレ言うて。なんですか言うのをなあ ばあやん どげでのお (どんなで) 言おん (言おう) 思うと、ばあやん 言うて ナンドレ言うて。

なんな 1) 彼が 2) 相手に判っている事物を示す (志 (片田)) [会話] 1) ナンナ あいな (あんな) 事言うとたない (言っていた) 言うて、人の名前言わんと (言わずに) ナンナ こげん (こんなに) 言う とたれ (言っていた) 言うてなあ。ナンナなあ あしこ で (あすこで) 話しとたんよお (していました) 言うて 名前言わんとなあ。2) 物を借りん (に) 行く時でも しなもん (品物) の名前言わんと、ナンナ有るか い (有りますか) 言うて。名前 忘れて (てしまって) 口から出て来んで (来なくて) ナンナえ (何ですか) ナンナえ言うても 口から出て来んで 弱る (困る) 時な (が) あんねてや (有るのです)。

なんな 生って居るのは

なんな なるな 禁止 あんごし人ん ナンナよお

なんなあ 何ですか 聞きなおす言葉

なんない 要らない 幼児語

なんなえ 1) 何がですか 何ですか (志 (片田))

2) いやいや 否否 [会話] 1) そや (それは) ナンナエ言うて、2) いいえ 言う事も言うんなあ (言います)。ナンナエ そや (それは) そおやないんどお (そうでないのだ) 言う時にも ナンナエ言うて、ナンナエ そや ちがわれ (それは違います) 言う時ん なあ (に) 1) なんですか言うのも ナンナエ言うてな。

なんなええ 1) 相手に聞き返す言葉 何ですか 2)

相手に聞き返し詰問する言葉 何だと (志 (片田))

なんなと なになりと なんなり 何なり 何であろうと 何でも (志 鈴市、安、伊) [会話] ナンナトしええまあ (しなさい)。どれなと (どれでも) 言う事を ナンナトしええまあ、ナンナトくれまあ (下さい)、ナンナト持てけ (持っていけ) とか。なんでも どれでも持てけえ (持って行きなさい)。

なんなよお なるな なってはいけない [用例] わりにげんナンナヨオ

なんなら 【副詞】 なになら なにならの転 相手の気持ちをおしはかって言う語 必要あれば お望みなら差し障りがあるなら おいやなら [会話] こん (これ) なら、ええけど (よいが)。あん (あれ) ならええけど 言うて。店屋い (に) 行くと あれかい (あれですか) これかい (これですか) 言うて まあ ナンナラ これん (に) しといたら (しておいたら) どおどい (どうですか) 言うて。

なんなり (何) 【副詞】 どんなものでも どんな事でも なんてであらうと [会話] ナンナリ かんなり食うとれ (食べておれ) 言うて、なんも (なににも) さいな (副食が) 無いけど (が) 戸棚 開けて ナンナリく とれまあ (食べておれ) 言うて。どんなもん (物) でも 味噌の残りでも 菜漬けでも らつきよ なと (でも) だいこ (大根) 漬け なと くとけ (食べておけ) 言うよお なもんやわい (言う事です)。戸棚ん (の) 中ん (に) なんなと (なにでも) はいとんど (入っているぞ)、なんなとくとれ (食べておれ) さい (副食) こさえとるあいな (作っている時間が) 無いわ言うて。

なんなりと 何であろうとも 何でも

なんなん 要りません 幼児語

なんね 1) 何ですか (志、鳥、一、松、度、伊) 2) なるのです 3) 果物などがなる [会話] ³⁾ よつけ (沢山) ナンネ、胡瓜 な (が) よつけナンネ、今年 や (は) 豊年で言うて。なります言うのを ナンネ 言う ね (言うのです)、南瓜も よつけ ナンネ 今年 や (は) きいなぶえて (木が繁って) 言うてなあ。

なんねて なるのだ

なんねてど なるものか なるのか [会話] あげ な も んな (あんな者が) なんに (何に) ナンネテド。

なんの いいえ 相手の言葉に対する返事 どおいたしまして (鈴郡、鈴市、安)

なんの なるのです [会話] おっきい (大きい) 物 いごかすのおは (動かすのは) こてる こてるん

(に) ナンノ。

なんの 何 これ位の事、物 仕事始めの言葉

なんのかなし 1) 気にせず 注意せずに 何も考えずに 2) どころなく [会話] ¹⁾ ナンノカナシン、丸 け と い て (丸めて) 放り込んで あると、どし こ ん で と ん ない (押しこんでいつている) 言うて。

なんのかの。なんのかんの (何彼) 【副詞】 あれやこれや ああだこうだ [会話] ¹⁾ ナンノカノ 言うた て て な あ (言っても)、今日は お お に し て (強い西風で) い さ あ (海女は) 休 み や し (だから) 何処い (へ) でも い て (行って) あ そ で (遊んで) こい言うてなあ。なんだかんだ言うて 他処の人らな (が) 言うのな (です)、なんやかんや言うて 今日はいろいろと 仕事も有るけど (が) 休 め ま あ (休みなさい) 言うて。

なんのこなし 気にせず 深く考えずに なんのかなしに同じ [会話] ナンノコナシン (に) 食 う て、食 い ま く つ と い て (ておいて) 来 た れ (来ました) 言うてなあ。なん も え ん り よ (遠慮) も せ ん と な あ (せずに) 腹 へ つ と る と な あ (ていると) ナンノコナシン 有 る も ん (物) 皆 食 い ま く つ た る と な あ (沢山食べると)、あ や ま (彼は) ナンノコナシン ほ ぼ く つ た た れ (頬ばってしまった) 言うて。

なんのその 【感動詞】 励ます時の掛け声

なんのなんの いいえどお致しまして 相手の感謝に対しての返事 (松、南)

なんのゆうがで 何が原因となって なぜ

なんのん なるのに 邪魔んナンノン

なんば 【名詞】 鶴嘴の片嘴が尖っておらず平らになっている物 (志 (鶴方)、一) [会話] とぐわと ナンバ と ま ぐ わ とあつて ナンバ 言 う な (言うのは) は あ な (刃が) ち よ い と 平 く た い し (少しひらたい・平である)、とぐわ言 う な (言うのは) 先 な (が) 鶴 首 み た よ お ん (ように) ち よ ん ぎ つ ち と ん の (尖っているのを) とぐわ。ま ぐ わ 言 う な (言うのは) 四 つ 手 な (が) し と ん の (しているのを) まぐわ。

なんばい。なんばい 【名詞】 姿 形 格好 (志 (布施田) [会話] 容態な (が) わ り 言 う な (悪い言うのは) 様 子 な (が) わ り (悪い)、加 減 な (が) わ り な つ そ お な (が) わ り、ど い ら い (大変) ナン バ イ な (が) わ り な あ (悪い) 言うて。

なんばいわり 1) 姿、格好が悪い 2) 病気のような

なんばり 【名詞】 玉蜀黍 とうもろこし なんばん 南蛮 とうもろこしの異名 (志 (安乗、浜島) [会話]

ナンバリ スイートコンの事言うの(のです) 玉蜀黍の事を ナンバリ。

なんばりぼおず【名詞】 おきあじ アジ科の海魚 体長30cmに達す。全体に黒褐色を帯び腹面は黒い。体側に有る、ぜんごとと呼ばれる突起が前方にむいていて、他の鰻と区別出来る。

なんぶつ(難物)【名詞】 取り扱いぬくい物、又その人

なんべんか 幾度も 何遍も

なんべんも 度々 何度も(志(浜島、布施田))

なんぼ【副詞】 何程 いくら ナニホド(何程)の略転(大言海)(員、四、鈴市、津、一、飯、上、阿、張、名、度、鳥、北、南)[会話] ナンボ言うな(言うのは)これくらいですか言うのを これ ナンボですか言うし(言います)。

なんぼく(南北)【名詞】 四艘張り 網漁 網漁法の一(志(浜島)、鳥(石鏡))[会話] 魚獲る ナンボク四艘張り ナンボクモンは ナンボクで 獲ったもん(物)、鰻やとか(だとか) むろやとか(むろ鰻だとか) たかべやとか 言うの ナンボクモンな(が)揚がって言うて。

なんぼくもん【名詞】 四艘張り漁の漁獲物 [会話] ナンボクモン 取って来ると、しょからん(塩辛に)漬けんのん(るのに) おたかべな(が) ほし(欲しい)事や、おもやおったけどなあ(思っていました)が。

なんぼど(何程)【副詞】 どれ程 問題にならない程度とるに足らない程度 [会話] どれ程言うのを、ナンホド ナンホド もてこおどい(持って来ましょうか)、ナンホド もて(持って)来るとええんどい(よろしいか)言うてなあ。ナンホド言うのは どれだけ もてくやええんどい(持ってくればよろしいか)言うてなあ 問う時なあ(に)。

なんぼなど いくらでも 何程でも

なんまいだ【名詞】 南無阿弥陀仏(阿、張、名)[会話] ナンマイダ ナンマイダ言うて ナンマイダ言う。はやりことな(流行病が)するとなあ 魔よけんなあ(に) なまいだ なまいだして 魔よけしよおや(しましょう)言うて、こげな(こな) 大きなまあるいのおな(丸いのが) 数珠みたよん(のように) なっとんねやんかい(なっているのです)、はやりことなするとなあ 道で 曳いてすると はやりことなしやせん(流行がしない)言うて 大きな数珠持って それ 操ってなあ。雨な(が) 降らんとなあ(ないと) 雨乞いや(だ)言うて 雨乞いする時も ナンマイダ

言うてなあ 蓑着て 笠 被って 雨乞いしてなあ。

なんも【感動詞】 1) なにも なんにも なにもの転 打ち消しを伴って、特別に わざわざ 少しも 全く一つも(志(布施田)、鳥(答志、国崎、相差)) 2) いいえどおいたしまして。(志(布施田)、鳥、松、伊) 3) 違います(鳥(国崎))[会話] ① ナンモくれん(くれない)、ナンモくれやへんない(くれない)。なんにも言う事 ナンモ言うて。ナンモ なかつたてやら(とか)、ナンモくれらつた(くれない)てやら言うて。

なんもかも すべて 全部 なにもかも それを含めて皆 あれもこれもすべて(志)[会話] ナンモカモ、あれもこれも 全部の事 ナンモカモ。ナンモカモ皆 持ち込んでたない(持って行った)言うて。

なんもない 何も無い、全く無い

なんもなしやけど 何も有りませんが 招待した客に主人の挨拶(志(布施田))

なんもならん 役に立たない なにもならない [会話] 浜い(に)来て せんどな(船頭が) 分け番しいおつて(して居て)、せんど ひんよお分けてくれえ(平等に分けて下さい)言うて、しごた(仕事は) ナンモナランとおつて(役に立たないのに) さい(副食・捕って来た魚) 分ける時だけ そげん(そんなに)言うて。

なんもならんもん 役に立たない者、物(志)

なんもならんもんやけど 役に立たぬ者ですが 嫁に出す前の挨拶

なんもや 1) なんでもありません(鳥) 2) 何も無い 3) 何もしません(志)[会話] ② ナンモヤレ(だ)今日は まあ言うてな。漁な(が)無いと 大漁やつたかい(でしたか)言うて、今日は ナンモヤレ ナンモヤッタヨオ(でした)言うてな、何も無かつた言うのを ナンモヤ言うて。③ あすこの ガラス うっちゃたたやんない(壊したでしょう)言うて、ナンモヤ おらしやせんわれ(俺はしません)言うてな、おら(俺は) しやせんわれ言わんと ナンモヤ言うてせんとなあ。ナンモヤ言うて、① 傷して なんもいたねえ(少しも痛くない)言うて、ちっとも(少しも)痛くない言うのを ナンモヤ言うて 痛いかい(ですか)言うて ナンモヤ言うてなあ。

なんもやれ なんもに同じ

なんや【感動詞】 なんだ。ナンヤ のおか(なんだお前か)。

なんやあ 1) 何ですか 2) なんだ つまらない

(三)

なんやあか 何か 何でしょう 疑問 [会話] 鼻の先
な (が) しいろおしとて (白くして) ナンヤアカ
思たや (思ったら) すごやった (蛆だった)。

なんやええ なんだと 反語 相手を詰問する時 [会
話] ナンヤエエ もういっぺん (一度) 言うて見よ
(言ってみろ) 承知しやへん (しない) とか言うて。
ナンヤエエ もおひとくら (一度) 言うて見よ その
言うこた (事は) なっと (何と) 言う事ど (だ) 言う
の (のを) ナンヤエエ。

なんやか なんだか 何か (津、桑市) [会話] こせこ
せと (こまごまと) ナンヤカ せせかし (忙しい) 人
やなあ (だ)。

なんやか 何か彼か いろいろと [会話] ずだ袋言
うて 死んだ時や (は) こしやえるやんかい (作るで
有りませんか) 死んだ時ん (に) ナンヤカイ 皆 そ
れい (に) 入れて。

なんやかや 色々 何かと あれこれ なんやらかん
やら参照 (津) [会話] 無茶苦茶ん (に) ナンヤカヤ
せんと (せずに、なんもかも (なにもかも) きいつ
こて (気使って) 心得て。

なんやけど 何ですが そうもいかないで (安)

なんやぞ 何ですか (志)

なんやぞい 何ですか (度)

なんやったかいなあ。なんやったかいのお 何だったか
な、何でしたか

なんやったら 都合がよければ

…**なんやったら** そいナンヤッタラ だったら

なんやて なのだそうです そうナンヤテ (志、鈴市、
安)

なんやて。なんやてえ。なんやてええ 1) 相手に対し
反問の意を表す 何ですか 2) 何だと (志、鳥、松、
伊) [会話] 2) ナンヤテエ 拳骨 むくったんど (撲
ってやるぞ) そいな (そんな) 事言うん (の) なら言
うて、なんだ言うのな (を) ナンヤテエ言うてなあ。
なんやかや (いろいろ) 子供らな (が) 気に入らん様
な事言うて来ると ナンヤテエ言うのなあ。

なんやてて 何と言ったところで (志 (布施田)) [会
話] ナンヤテテ かやてて。こや (これは) わやや
ない (目茶苦茶だ)。ナンヤテテ言うな (言うのは)
なんやかや (あれこれ) 言うて あれやこれや言うた
てて (言ったところで) 言う事。そんな事言っても
おんなし (同じ) 事や (です) 言う事やなあ (です)。
言ったところで はざよかれ (駄目だ)、はざんわ

(駄目だ) はざよかれ (駄目だ) 言うの。なんやかや
(何か彼か) 言うたてて、はざよかれ 言うて。そん
な事言うても (言っても) とか、そんな事 言うた所
で しかたがないとか言う事やなあ (です)。

なんやててえ なんだと なにを言っているのだ [会
話] なんだ言うのを ナンヤテテエ言うて。なんや
かや (いろいろ) わがとな (自分が) 気に入らん様
な事言うて ナンヤテテエ言うてなあ。

なんやな 何ですか (度) [会話] ナンヤナ こや (こ
れは) 言うてなあ、目上の人ん (に) 問う時や、ナン
ヤナ こや 言うてな、こんだ (今度は) わがとら
な (自分達が) 言うな (のは) なんどこや (なにです
かこれは) 言うねやんかい (のです)。

なんやなあ 1) 何と何のですか 何事を言うのか
2) そんなのですね

なんやら 何か (鈴市、伊) [会話] ナンヤラ もて
(持って) 来てまあ言うて、変なもん (物) もて来る
と、ナンヤラもて来て、ナンヤラカンヤラしとられ
(している) 言うてなあ。何か言うのを ナンヤラ
なにかしとるけど (しているが) ほらくつとけ (ほお
っておけ) あいらな (彼等が) するこた (事は) 言う
てなあ。

なんやらかやら。なんやらかんやら 何かと なにやら
かやら あれこれ なんやかや なんじゃかじゃ。や
ら にやあらんの転である “やらん” から転 終助
文末の言い切りの形につく 不確かな気持ちを込めて
自問したり推量したりする時に用いる 副助 疑問
不定を表す語について不確実であると言う意を表す
(一) [会話] あれや (だ) これや 一緒やわい (で
す)。ナンヤカヤ言うのも ナンヤラカヤラ わけな
(が) 判らせんわれ (判らない) 言うて。

なんやらしくさる 何かしている くさる 腐る 動詞
の連用形に付いて他人の動作をののしって言う語
[会話] なんやかや あげな (あんな) 事 しくさ
つてとか。ナンヤラ シクサル言うて、わり (悪い) 事
した時ん (に) そいな (そんな) 事言うのなあ (ので
す)。しくさつた言うのは、なんやらかんやら わり
事ばつか (ばかり) しくさつて言うの。ものすごおわ
り (ものすごく悪い) 事した時の事やろなあ (でしょ
う)。

なんやれ そんなのです そいナンヤレ

なんやろ 何だろう

なんやろな 何だろう

なんやん 何ですか (志、鳥、松、度、伊)

…なんやんかい そうなのです [会話] そげ (そん)
ナンヤンカイ言うの (のを)、そおやんかい言う人も
有るしなあ。